

B. 6
213

— 初等英語新編全書第一 —

NEW NATIONAL
READERS.

ナショナル
第一讀本講義
全

松島 剛口述
東京通信學院筆記

附綴字發音

學窓餘談社改稱
東京通信學院發行

083772-000-2

特71-397

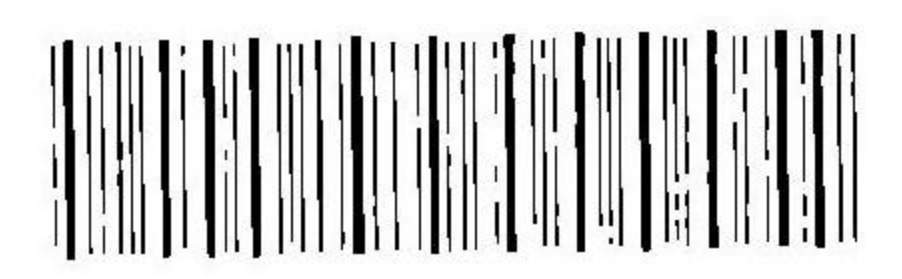
ナショナル第一讀本講義

松島 剛 / 述

附. 綴字發音

M34

DAH-1374



(2)

第一讀本講義目錄

第二課	...	52
第三課	...	54
第四課	...	56
第五課	...	57
第六課	音讀復習	61
摘要講話一第一	...	62
綴字練習	...	65
第七課	...	67
第八課	...	68
第九課	...	70
第十課	...	73
第十一課	...	75
第十二課	...	77
摘要講話一第二	...	78
第十三課	綴字練習	80
第十四課	...	81
第十五課	...	82
第十六課	...	84
第十七課	...	87
第十八課	音讀復習	88
摘要講話一第三	...	90
第十九課	綴字練習	92
第二十課	...	93

第一讀本講義目錄

(3)

第二十一課	...	95
第二十二課	...	97
第二十三課	...	98
第二十四課	音讀復習	100
摘要講話一第四	...	102
第二十五課	綴字練習	104
第二十六課	...	105
第二十七課	...	107
第二十八課	...	109
第二十九課	...	112
第三十課	音讀復習	114
摘要講話一第五	...	115
第三十一課	綴字練習	118
第三十二課	...	121
第三十三課	...	123
第三十四課	...	126
第三十五課	...	129
第三十六課	音讀復習	131
摘要講話一第六	...	135
第三十七課	綴字練習	138
第三十八課	...	139
第三十九課	...	142
第四十課	...	144

(4)

第一讀本講義目錄

第四十一課	...	147
第四十二課	音讀復習	149
摘要講話一第七	...	151
第四十三課	綴字練習	152
第四十四課	...	154
第四十五課	...	157
第四十六課	...	160
第四十七課	...	163
第四十八課	音讀復習	167
摘要講話一第八	...	170
第四十九課	綴字練習	173
第五十課	...	174
第五十一課	...	177
第五十二課	...	180
第五十三課	音讀復習	184
摘要講話一第九	...	187
第五十四課	綴字練習	189

第二編 (續キ)

第一讀本 第二部

第一課	...	192
第二課	...	196
第三課	...	199

第一讀本講義目錄

(5)

第四課	...	203
摘要講話一第十	...	207
綴字練習	...	209
第五課	...	210
第六課	...	214
摘要講話一第十一	...	219
綴字練習	...	222
第七課	...	223
第八課	...	227
第九課	...	231
綴字練習	...	236
第十課	...	237
詩珠	...	243
摘要講話	...	248



第一讀本目錄終

英語

ENGLISH LANGUAGE.

第一編

文字、發音、及綴字の原理

讀者の心得

1. 此書に由りて英語を學ばんとする者は、宜しく先づ心得置くべきとがありますから、此所に其大要を述べましょう。

忍耐刻苦すべき事。 歐米諸國の言語は、日本語とは全く違がいますから、初學者に取りてはわかりかぬところが多かるうが、忍耐刻苦して怠らなければ、また案外に速成するものです。凡そ何事を學習するにも、忍耐刻苦しなければなりません。殊に日本人が外國語を學ぶには、此事が最も肝要ですから、常に此事を忘れぬ様になさい。なに僅か六ヶ月辛抱して毎日勉強すれば筋道が大抵わか

ります。或は二ヶ月速成とか又は六ヶ月卒業とか云う書物も出来て居ますが、それは例えば英國人が佛語を學び、獨逸人が英語を學ぶ様に、類似の言語ならば、随分その位で一通り出来る様になるでしょうが、日本人が歐米諸國の語を初めて學ぶには、中々そうは早く出来ません。本社も成るだけ速成させたいから、種々様々に工夫を凝らして、日本人に學び易い様にするのではありますが、上にいう様に三四ヶ月で速成するものと思つては、讀者が失望するといけなから一應斷つて置きます。

2. 順序を守るべき事。凡そ學問は一時に成就すべきものではない、小學、中學、大學と漸次に順序を追わなければならぬとは、勿論の事であり、英語も其通り順序というものがあります。然るに世の英學を學ばんとする人々は、往々此事を忘れ、一足飛に速成せんものと思ひ、まだ[いろは]もろくに知らぬ先きから、無暗に六ヶ月敷の書物に取掛るものが随分あるようですが、これは大なる誤りです。邦語の書物ならば、少しは順序を飛び越えても、随分學び得らるゝとがないでもないが、歐米諸國の言語に至りては、順序を追わなければ、適當に學ぶとは出来ません。故に初學の人はその年齢の長幼に拘はらず、各々小學校にでも入學したる心持ちになつて、此講義の順序に隨ひ、一步一步と順を追ひ序に従つて學ぶよになさい。そこで本社に入つて勉強する人は、最初入

社試験をして、その學力を驗めしたのではありませんから、各社友に何等の講義録が適當するか、勿論わかりませんによつて、社友各自に此邊に注意し、中等の講義録がわからんと思つたら、暫らく初等にかえ、高等のが六ヶ月敷と思つたら、中等に移る様になさい。要するに六ヶ月敷過ぎるよりも、少し容易いと思ふ位の處から始めて、順序正しく進む方が、後の結果がよろしいです。自分に適當しない講義録を讀んで、これはわからんといひ、又はそれを研究して後に成就しないといつても、本社は責めを負いませんから、豫じめ斷つて置きます。

3. 復習練習すべき事。前項に述べました通り、英語は順序を追つて學ばなければ、適當に學ぶことが出来ないから、隨て一度學んだ所を幾度も復習して、充分に熟練する様に、只管ら心掛けねばなりません。斯ようにしないと、いつまでたつても、「ひじき」の行列のように見えて、なかなか上達しません。唯紙數のみを貪つて急に進むと、はたから見ても進歩が速いように思われましようが、實際はそうでない、ちようど暗夜に提灯を持つて歩るく如く、唯自分の居る處の邊が、ぼんやりと明るいばかりで、前きは勿論後とも眞暗です、余は之を名けて「提灯學問」と言ひます。故になんでも、學び得たる所を根氣能く復習し、それを暗記する程になつてから、前々進むと定め、他人の思わく杯には頓着するに及びません、こうす

ると却て進歩が速やいのです。故理學博士關谷清景氏は、綴字書(スペルリングブック)壹冊を反覆熟習して、大に英語に達したろうです、此事は鳥渡真^{まこと}らしく聞ねませんが、決してろうでない、今日にても此方法で英語に熟達するとの出来るのは、余の確く保證する所です、英語の成否は只熟習すると否とにあるのです。

4. 文法に注意すべき事。國語の文を読み又は國文をつゝるには、必らずしも文法を學ばないでも出来ましようけれども、外國語はそれとは違ひ、文法を知らなければ、正しく文章を理會し、正しく談話し、又正しく文を作ることが出来ません。然るのみならず、文法に注意しなければ、無益に力を勞し、時を費やすことになりまから、語學の進歩が速やくありません。西洋諸國にて外國語を學ぶには、通例會話と文法とを同時に學べる様に工夫したる書籍を用ゐるものが多いようです。西洋各國の語は互に似よつて居ても、此の如く最初から文法を知ることには注意いたします。然らば日本人が西洋語を學ぶには、先づ文法に通する様心掛くべきとは、當然ではありませんか。維新の前後に外國語を學んだ者は、誰れでも先づ文典に取り掛り、其大意を了會してから、他書に就くことが、一般の風でありました、舊幕府の開成所又わ往時の慶應義塾の學科課程を見ても、此事はよくわかります。それで當時の英學者の中には、文法一冊を熟讀玩味する

一年、他書には少しも目を觸れないで、英語に熟達し、學業の進歩破竹の如く、二年ばかりで慶應義塾を卒業したのもあります、今日の課程はこれと違ひ、最初には讀本を読み、一兩年を経て始めて文法書に就くものが多い、是れは初學者が大抵十二三歳の少年なる故、かく成り來たのでありましようなれども、さればとて文法には注意しなくてもよろしいと云う意ではありません。たゞい讀本を読むにも、常に文法に注意すれば、學問の進歩の速やいと、疑いがありません。先年英語教授法研究會から出版しました、英語新讀本(スフィントン讀本)並に新撰英文讀本なども、春陽堂出版の英文讀本(ナショナル讀本)なども、何づれも讀本中に文法の説明を雜え、讀本を読みながら、知らず識らず文法に通する様に工夫したものでして、此讀本に就て學べば進歩の速やいと、今日既に顯著なる事です。又西洋の讀本には皆な多少文法上の説明を附記してあります、これ等の事實を見れば、余の言うところの虚ならざることがわかりましよう。故に本社の講義録には、別に文法を説明するに拘わらず、譯解の講義にも所々に文法を説明するにしました、讀者は其心をもて、勉めて文法をお學びなさい。

5. 邦語を主として外國語を學ぶべき事。これ迄外國語を學ぶ者は、外國語に拘泥し、之を譯するに一種奇態なる言葉を用ゐ、傍人はこれを聽いてもわからない

とになり来りました、これは彼の所謂直譯法と稱するものでして、毎語に強て譯を附けるからです。此法にて學ぶと、或は原語の意味を誤解し、又は實際に原語を應用せんとするとき不都合であるところが、近頃漸く語學者の輿論となつて來ました程ですから、此弊に陥らぬ様に注意し、どこまでも、日本語を基として、外國語を譯解するをお勉めなさい、そうしないと第一國語が亂れて來るし、國文も段々その弊を受くる様になるの恐れがありますから、國の體面上からも、此事に注意したいものです。從來直譯法に慣れて居る人々は、此正當の方法を非難するものもありますが、それは大なる誤りで、こうしても語學上不都合なきのみならず、却て進歩が速かですから、そんな愚論には頓着しないがよろしい。殊に注意すべきは「何々讀本獨案内」などと題する直譯書を参考しない事です、此類の書中にも、まゝ良書も見えますが、多くは杜撰なもので、却て害になります。

6. 本社の主意を服膺すべき事。 近頃は色々な英語講義録や又は英語雜誌が出來ます、これは文運のために結構な事ではありますが、多くは種々様々の項目を掲げて、五人も十人もの人々が、思い々々の方法にて、思いの事柄を講義するのでして、其中には中々立派な講義もあるようですが、又随分杜撰なものもないとは言えません、且つ多數の人々が思い々々に書くのですから、其

中に意匠とか、順序とかいうような、首尾一貫した主義のあるものもなく、一冊の中に種々の學力に適當する様なものを雑多に排列してあるのです。且つそれが各項五六頁位づゝ切れ々々になつて居ますから、これに就て研究するのは甚だ不便です。雜誌としてはそれもしかたがないが、順序を追ひ階級を踐んで、英語を獨修せしめんとする講義録としては、如何ですか、どうも其結果が疑わしいです。これが即ち本社が、今回此講義録を發行し、初等、中等、高等を各別冊として、社友の學力に應じて、いづれの等級にでもは入れるようにした理由ですから、本社のが世間普通のものとは違ふからといつて、決して迷つてはいけません。いやな人は最初から入社しないがよろしい、本社は本社の主義定見を斷々乎として實行し、只管ら讀者のためになるとを勉めるので、講師の頭數を多く排列し、彼のような講義録を作つて、初學者を誤るようなとは決してしません。此主義は英語の講義ばかりではありません、他の學科にも實行して、多年の後には、所期の目的を達したいと思ひます。讀者はよく此事を記憶して居て下さい。

7. 文は言文一致體を用ゆる事。 且つ本社の講義は成るべく、言文一致の文體にて、俗談平話を旨とし誰れにでもわかり易い様に、假名遣は大抵發音通りにする心組です。此事もついでに述べて置きます。

第一課 Lesson 1.

英語の文字 Alphabet.

1. 英語の文字は二十六個ありまして、これを **Alphabet** (アルファベット) と名づけ、まづ日本の「いろは」のようなものです。文字が僅に二十六とは、誠に少くないですが、これを色々に配合して、數萬個の語(ことば)が出来るといふ仕組ですから、決して輕蔑してはいけません。去かし漢字の様に六ヶ敷い文字とは違い、少し勉強すると、ずん々々筋道がわかりますから、初めは骨が折れても、少し辛抱すれば、おきにらくになります。

2. 此二十六字の字體は種々あるが、通常用ゐるのは、僅かに四體でありまして、これに日本風の名稱を附けると、大楷、小楷、大草、小草といつたらよろしかろう。そこで大小二様の楷書體は、重に印刷に用い、また大小二様の草書體は、重に筆記に用ゐるものですから、區別が至極簡單であるし、草書體といつても、漢字の様に色々な崩し方があるのではなし、至つて容易なものです。それに草書も楷書も二體あるとはいふものゝ、其大字の方は、

「アルファベット」を字母とも譯しますが、それは此字母が色々に組み合つて、語を産み出すから、そういうのでしよう。

の書き始めの語、人名、地名、歲月、尊號、官名、神佛名、などの頭に用ゐるのみですから、言はゞ楷草とも各一體のようなものです。

3. さて次に四體の文字とその名稱(人で云えば姓名の様な名前)を掲げますが、此名稱は日本の假名字にては、正しく表わすことが出来ないのがありますけれども、書物の上では、外に仕方がありませんから、先づ其大要を假名字で示して置いて、細かい事は追々に説明することにしましょう。

大楷 (印刷體)	小楷 (印刷體)	大草 (筆記體)	小草 (筆記體)	名稱
A	a	À	a	エイ
B	b	B	b	ビー
C	c	C	c	シー
D	d	D	d	ディー

d は實は「ディー」ではない「ディー」と「ドディー」の中間の音で、舌端を前上齒と上顎との間に着けて「ディー」と發音するので。

E	e	É	e	イー
F	f	F	f	エフ
G	g	G	g	ジー
H	h	H	h	エイチ
I	i	I	i	アイ
J	j	J	j	ジェイ
K	k	K	k	ケイ
L	l	L	l	エル

(1) f(エフ)の「フ」は前上歯を下唇の上に着けて「フ」と発音するのです。

(2) l(エル)の「ル」は舌端を上顎に着けて「ル」と発音するので、日本にない音です。

M	m	M	m	エム
N	n	N	n	エヌ
O	o	O	o	オー
P	p	P	p	パイ
Q	q	Q	q	キュー
R	r	R	r	アール
S	s	S	s	エス
T	t	T	t	タイ

もは「タイ」にはあらず、「タイ」と「トイ」の間の音にして、舌端を前上歯と上顎との間に着けて「タイ」と発音するのです。

U	u	U	u	ユ	ウ
V	v	V	v	ヴ	イ
W	w	W	w	ダブルユウ	
X	x	X	x	エクス	
Y	y	Y	y	ワイ	
Z	z	Z	z	ズイー又 ゼット 英國の名稱	

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 8

4. 以上二十六字の形ちど其名稱は、第一に記憶して何の字を見ても容易に何という文字なることを知り得る様になるとが、最も肝要です。これを一時に皆覚えるのは初學の人には、六ヶ敷いかも知れませんから、先づ楷書

Vは前上歯を下唇に着けて「アイ」を發音するのです。

體丈を覚えれば、草書體は追つて覚えてもよろしい。

5. 日本の假名は「あ」は「あの字」、「ふ」は「ふの字」、「す」は「すの字」という様に、字の名稱と發音と同様ですが、英語の二十六字は、字の名と字の音とが大それた違ひがありますから、字名を字音と思つてはいけません。尤も字名と字音の同じものもありますが、兎に角混雜せぬために字名は字名としてまづ記憶してしまひ、それから後に字音は別に字音として稽古するにしましょう。こう言ふとまだわからぬ人もあるかも知れませんが、鳥渡譬えて申せば、「お玉」と云つても顔の細長い女もある、又「高太郎」と云つても丈の低い人もある様に、英語二十六字の名稱というは、其字の符丁として其音とは必ずしも同様ではないと思えばよろしい。

6. 二十六字の順序は a b c d という様になつて居りますが、此順序は日本の五十音の様なものと異ひ、別に理由があるのではありません、ちよつと日本の「いろは」順の様に理由はありませんから、只字形を見ればその字名を直ぐに言へる様になればよろしい。但し辭典はすべて此順序に従つて、語を排らべてあるし、又西洋にて人名などを記すのは大抵此 a b c の順序に従う習慣であるから、追々はこれを知るとも肝要となりますが、それは自然に覺えられるものですから、今別段に勉めて順序を暗記するにも及びません。

第二課 Lesson 2.

英語の發音 Sounds.

1. 英語の文字は上に示したる如く、二十六個ありますが、一字にて數音を發するものあり、又文字と文字とを綴りて、種々の音を發する仕組ですから、その音の數は文字の數よりも遙かに多くあります。

2. さて此多くの音を區別して、母音^{ヴァウエルス}(Vowels)と父音^{コンソナント}(Consonants)とに分ちます、其理由は父音と母音と組み合つて完全な音を産み出すからです。そこで其母音を發する文字は、a, e, i, o, u, w, y の七字でありまして、其中 w と y は父音を發するともありますし、且つ其發音上よりいへば母音を表すると少なく、又 w は粗、u と同じく、y は粗、i と同じ様である故、先づ通例は a, e, i, o, u の五字が、母音を表わすものでして、其表す所の五個の母音は日本の五十音の母音即ち「ア、イ、ウ、エ、オ」に大抵相當して居ます。さて此母音を表わす文字は、母字と稱し、其他の文字は皆父音を表する者で、是を父字と言います。

(1) 此に言ふ所の父音はこれまで多く子音を譯し來りました、私は拙著英語學大全に凡そ子音は「ク、ス、ツ、メ、フ、ム、ユ、ル、ウ、」の父音に相當するといふを記しましたが、同書其他英語新讀本、新撰英文讀本、等にも何づれも「子音」を記しました。しかし父音とする方が適當ですから、此所には「父音」としました。(2) w と y は父音を表わすと共に、母音をも表わす故、或は半母音とも稱します。

3. かく音を區別して母音と父音の二としますが、母音にも十八種程あり、父音にも十八種程ありまして、初學の人には混雜し易いから、先づ簡單なる母音と父音を次に掲げ、漸次に進^進むとにします。さて簡單なる母音とは長音と短音でして、これは即ち母音の正音ともいふべきもの、その他は變音と言つてよろしかろう。變音の事は暫らく措き、此正音の長短を示すために、一種の符號があります、即ち長音は字の上に「一」を、短音は字の上に「˘」を附けます。

母音 Vowels.

正音	長音	ā	ē	ī	ō	ū	ȳ
		エイ	イー	アイ	オウ	ユウ	アイ
短音	短音	ă	ĕ	ĭ	ŏ	ŭ	ÿ
		ア(エア)	エ	イ	オ(ア)	ア	イ

(1) 長音の ā は日本の「エイ」の如き音ですが、短音の ă は「エミア」の中間音です、此書には便宜のため「ア」と記しましたが、常に「エア」の間音を思つておいでなさい。

(2) 長音の ī は日本の「アイ」と能く似た音ですが、短音の ĭ は日本になき音にて「イミエ」の中間音です。y の長短音も大抵 i と同様です。

(3) 長音の ō は日本の「オ」の音尾に「ウ」を加へたる如き音ですが、短音の ɔ は「オミア」の中間音として、日本にはありません。英米人の發音を聴きますと、ɔ は殆んど「ア」音に聞こえます、その心持ちにて發音するのがよろしい。

(4) 短音の ŭ はまづ「ア」と似て居ますが、「ア」を發するときの如くに、口を大きく開かないで發するのです。

(5) 英語の音は日本人には正しく發音する事が出来ず、又區別が甚だ六ヶ敷いから、多くはチアンアレン、プリングリー、等諸氏の如き、日本に長く滞在して、日本語にも通達したる人の説に據つて説明するをいたしました。

4. 父音を表する文字の数は、二十一あります。これも異字で同音を表わし、同字で異音を表わす字が幾つもありますが、母音程に混雑しては居ません、なれどもまづ簡単なものを挙げます。尤も父音は母音と合して完全な音を發するものですから、其心持ちで居なければなりません。例せば五十音のカ、サ、タ、ナは、父母兩音の合して出來た音でして、其音尾には一々「ア」が付き、キ、シ、チ、ニは一々音尾に「イ」が附きます、これで大抵わかりましょう。

父音 - Consonants.

第一. (唇音)	b	p	f	v	m	
	ブ	プ	フ	ヴ	ム	
第二. (齒音)	t	d	s	z	x	j
	ト	ド	ス	ズ	ズ	ヂ
第三. (顎音)	k	c	q	g	r	l
	ク	ク	ク	グ	ル	ル
第四. (喉音)	h	w	y	(鼻音)	n	
	ハ	ウ	イ		ヌ、ン	

此父音も日本の音にないものがあるから、次に一々その發音の仕方を説き明しながら、これを母音と組み合わせて、練習するにしましょう。そこで此様に母字と父字とを組合わせるのが即ち綴字であります。

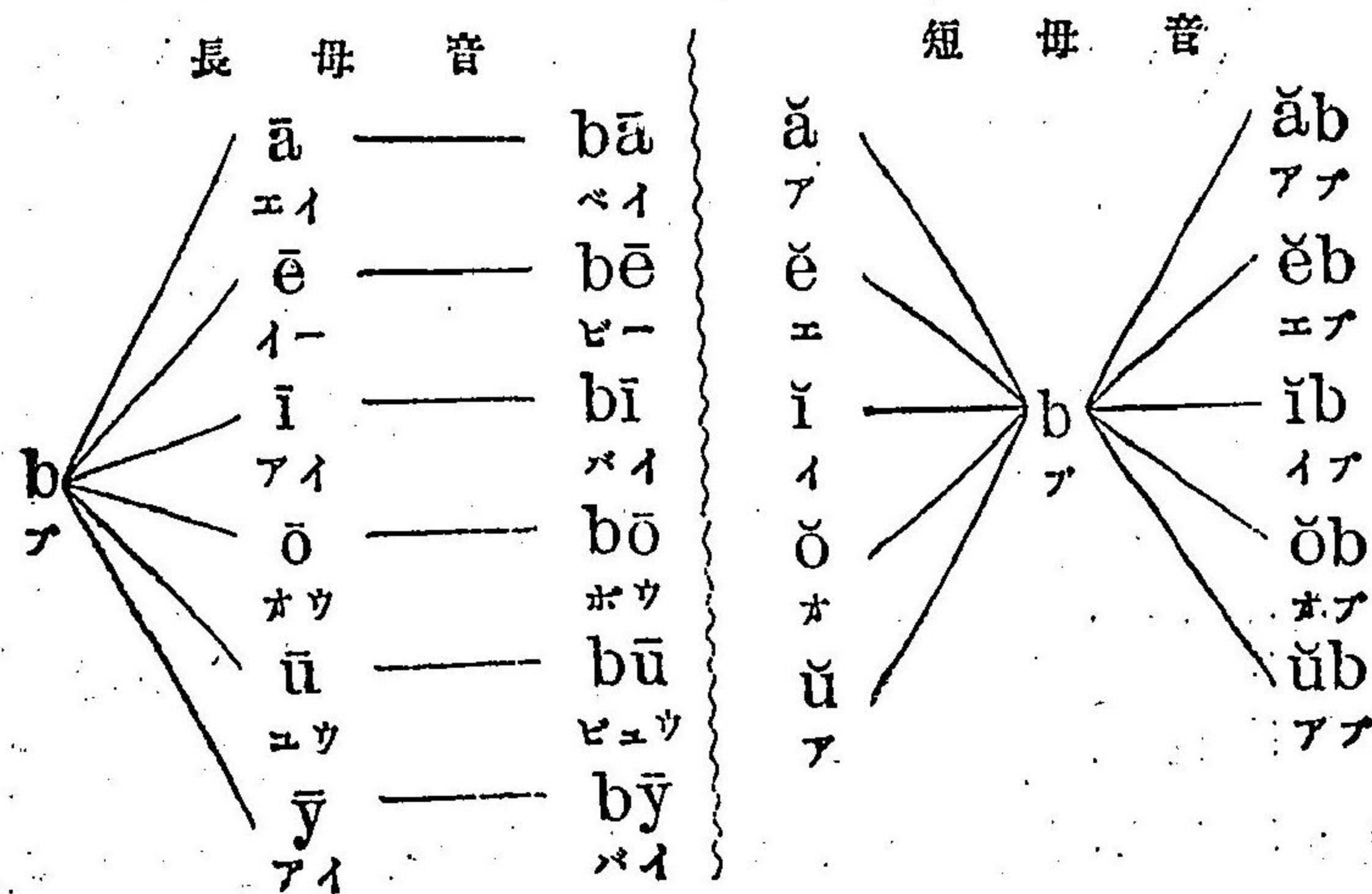
第三課 Lesson 3.

綴字と發音

Spelling and Pronunciation.

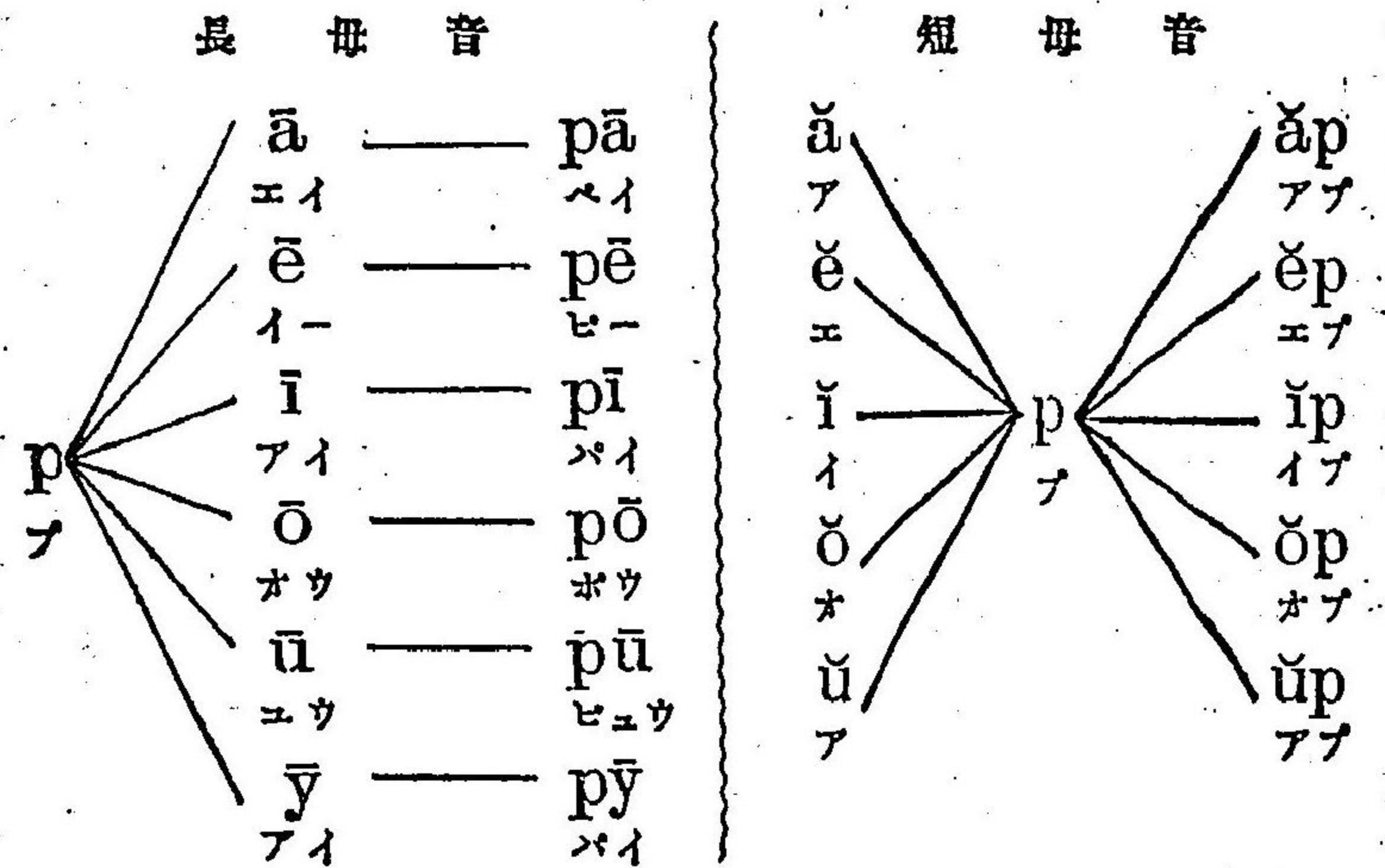
B - ブ

此文字は我が五十音の「バ、ビ、ブ、ベ、ボ」の音を生ずる父字でして、何んでも「バ、ビ、ブ、ベ、ボ」の音を發せしむるには、必らず此父字と一つの母字とを組み合わせるので、母音の長音或は短音と、此父音とを組み合わせると、次の如くになります、但し長音と合すると、兩音が詰まつて一音となるのである。



P - プ

此文字は我が五十音の「パ、ピ、プ、ペ、ポ」の音を生ずる父字でありまして、何んでも「パ、ピ、プ、ペ、ポ」の音を發せしむるには、必らず此父字と一つの母字とを組み合わせるのです。之を母字と組み合わせると次の如く發音します。

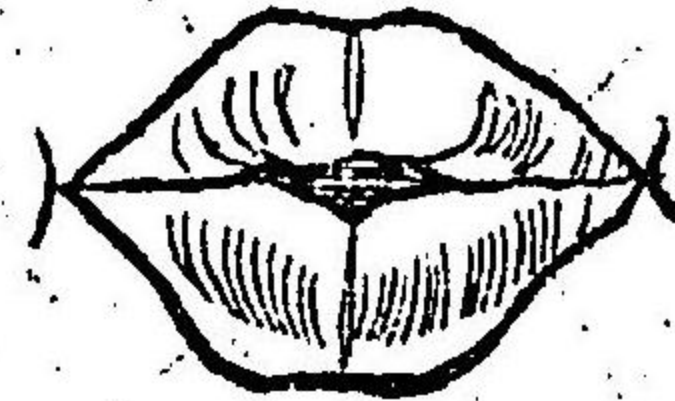


F - フ

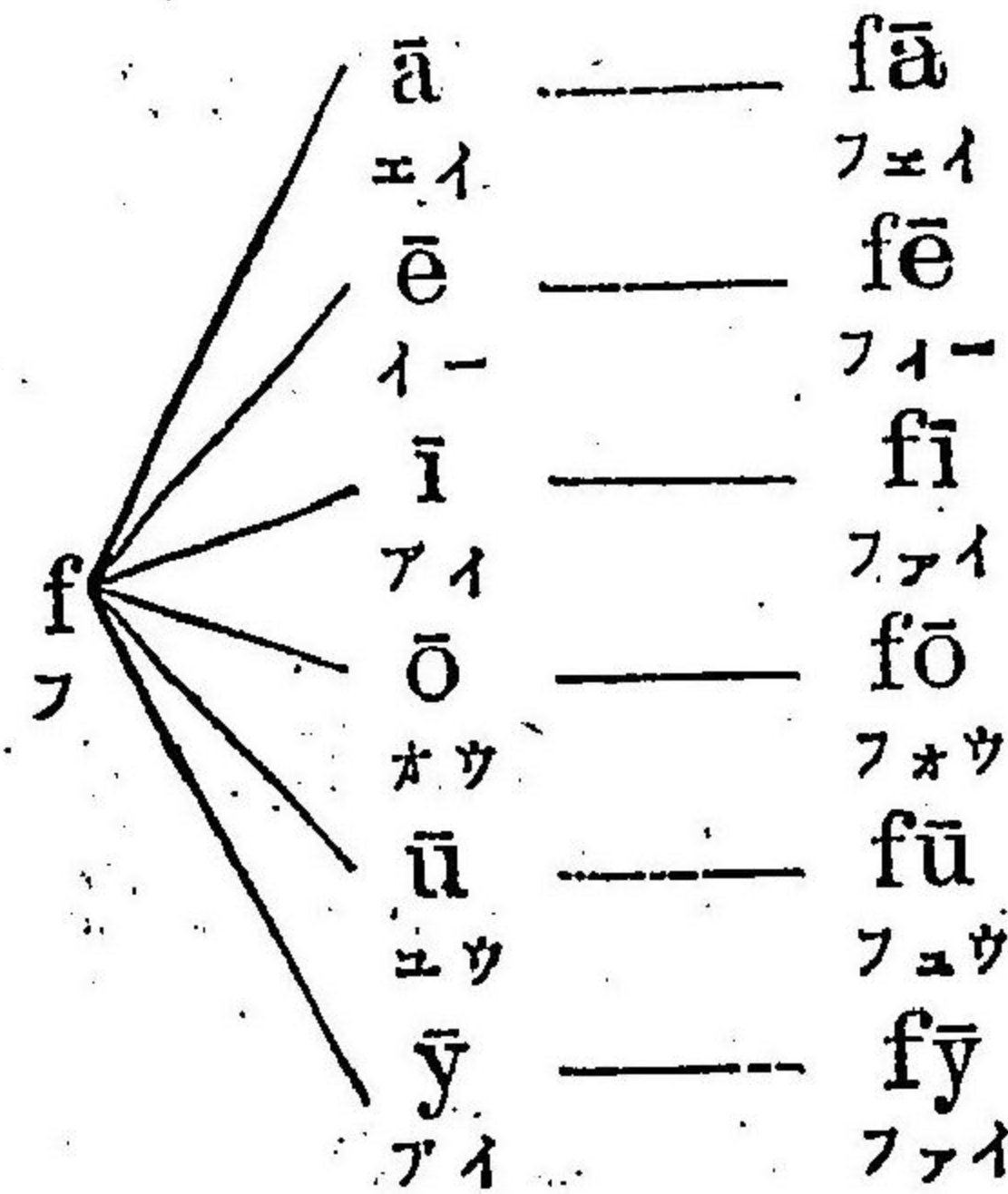
此字の音は日本の「フ」とは違います。日本の「フ」音は上下兩唇を殆んど合わせて、其間より氣息を吹き出すのみですが、英語の「フ」は、前上齒を下唇の上に置いて

「フ」を發音するのです。次の圖を見れば相違がわかりましょう。

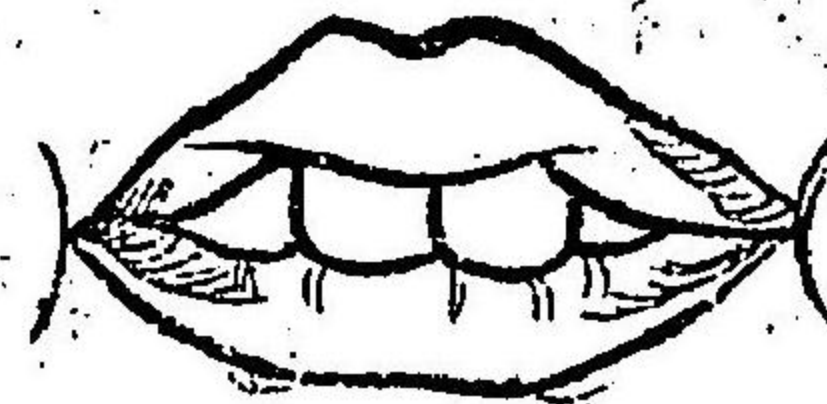
和音ノフノ發音法



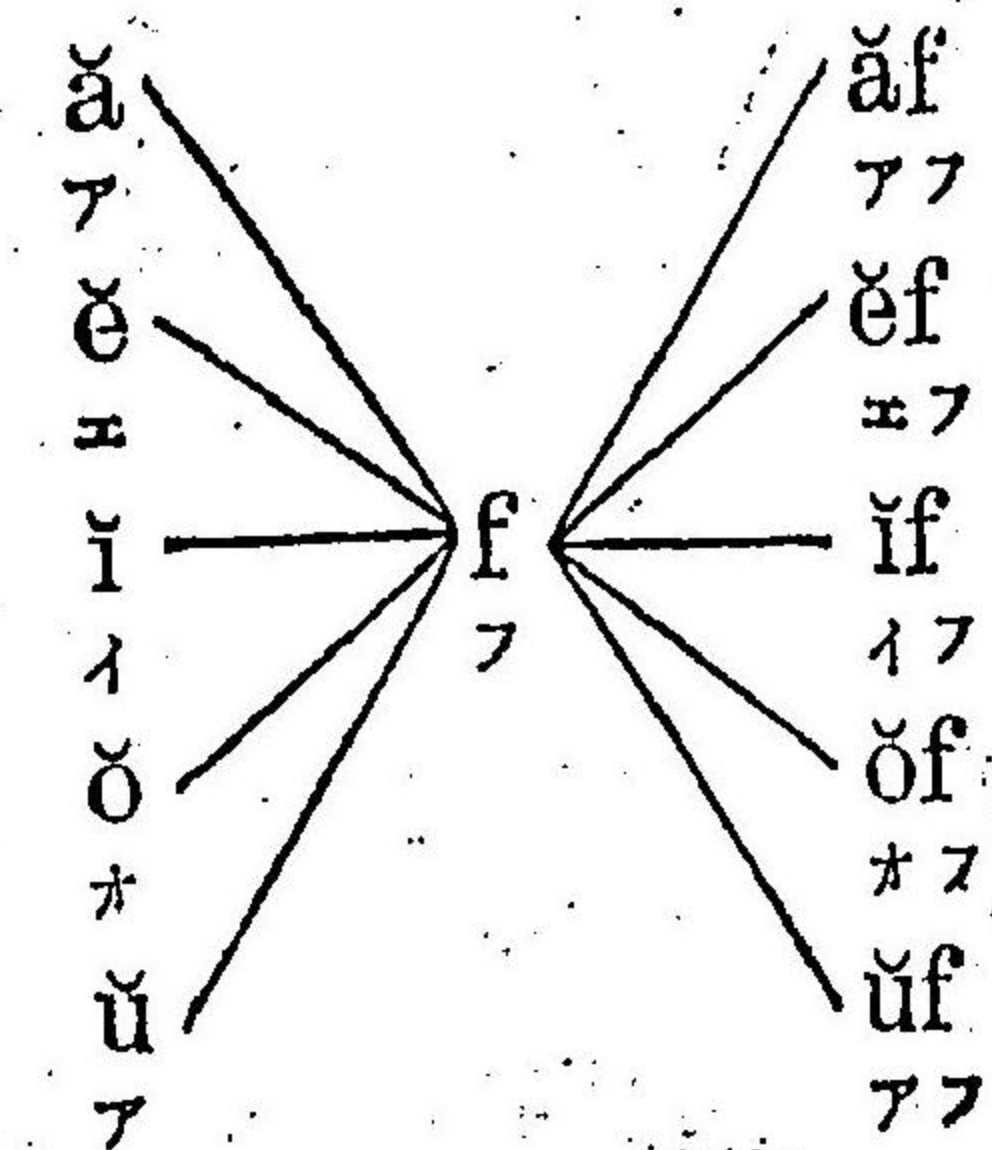
長母音



英音ノフノ發音法

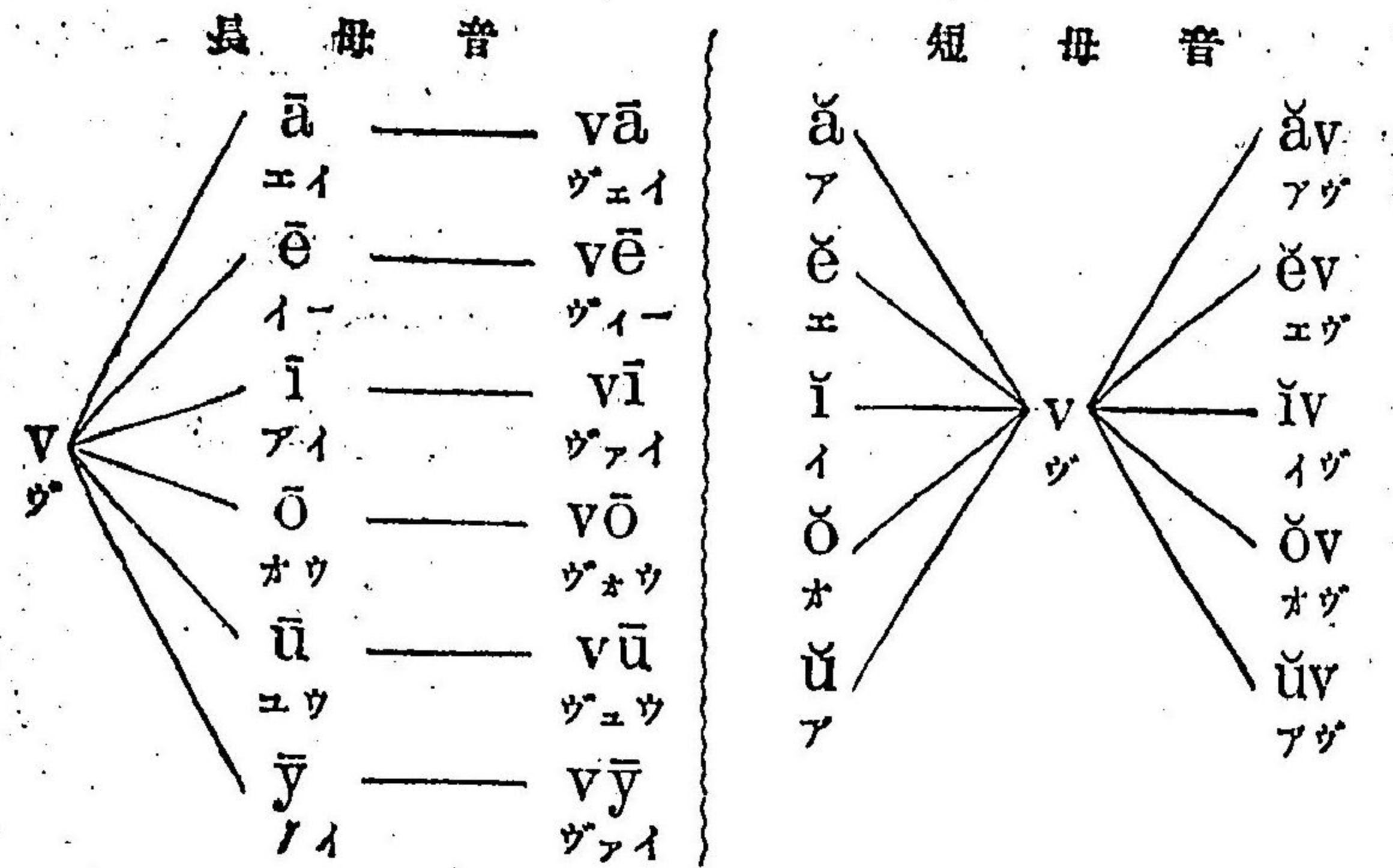


短母音



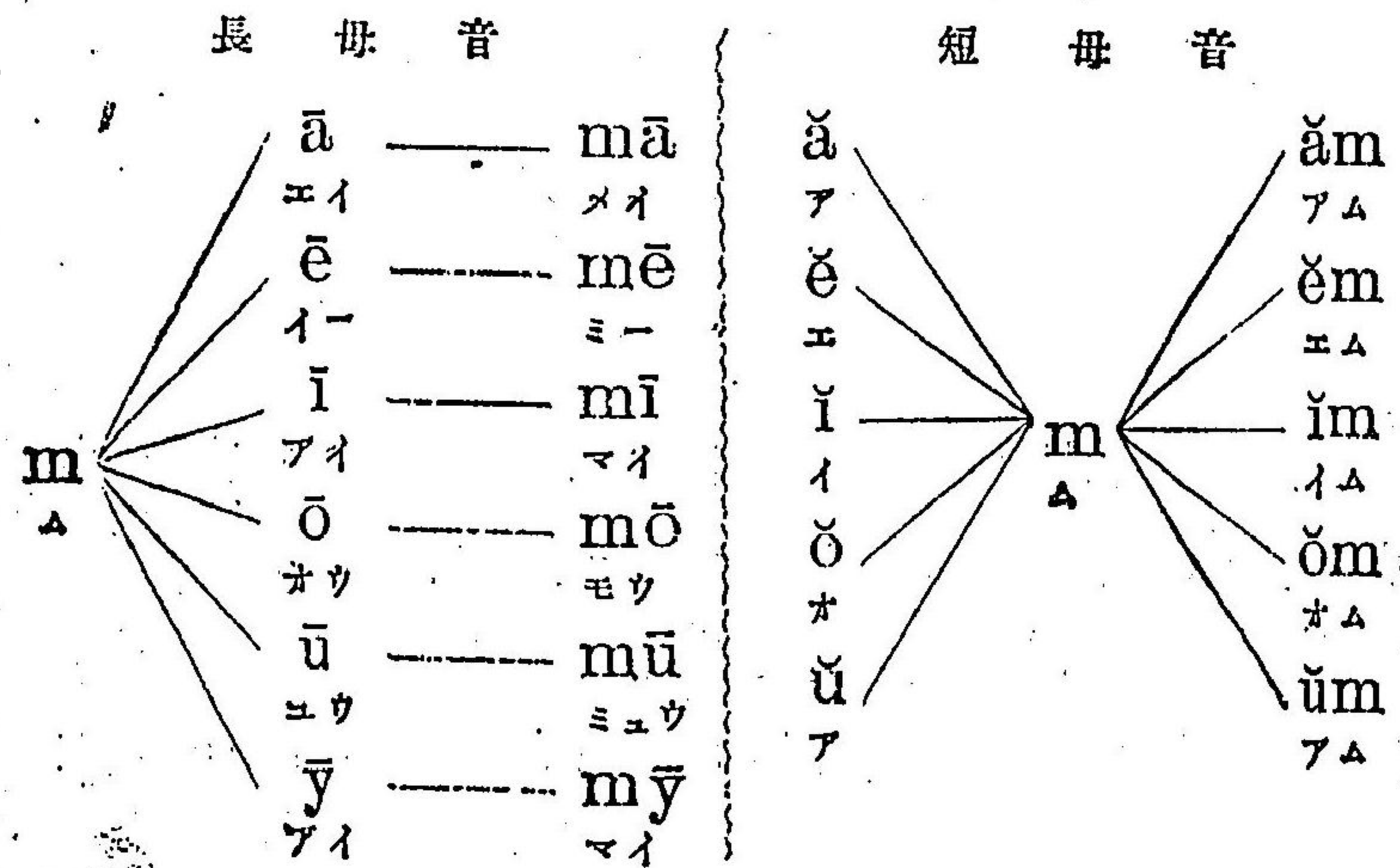
V - ヴ

此字の音は f(フ)の濁音でして、fを發音するときの如く、前上齒を下唇の上に置いて、「フ」を發音するのです。日本の「フ」は兩唇を結んで開くものなれば、此「ヴ」音と混せぬ様になさい。尙ほ fの項に掲けたる圖解を御見なさい。



M - ム

此字は我が五十音の「マ、ミ、ム、メ、モ」の音を生ずる父字として、「マ、ミ、ム、メ、モ」の音を發せしむるには、必ず此字と一つの母字とを配合するのです。



練習					
bā	bē	bī	bō	bū	bȳ
pa	pe	pi	po	pu	py
fa	fe	fi	fo	fu	fy
va	ve	vi	vo	vu	vy
ma	me	mi	mo	mu	my
ăb	ěb	ĭb	ŏb	ŭb	
ap	ep	ip	op	up	
af	ef	if	of	uf	
av	ev	iv	ov	uv	
am	em	im	om	um	

次に此練習の読み方を述べてありますが、まかし二十六文字の名稱を呼んで綴るというよりは、獨學者に取りてやりにくいかも知れませんが、若しそうなら、名稱を一々呼ぶよりは、しばらくやめさし、只bは「ブ」、āは「エイ」、pは「プ」、ēは「イー」と呼んで、綴りを練習しても、差支はありません。

それは兎に角此練習の讀み方は、次の通りです、これも慣れると随分面白いです。

ba	ハ b (エイ)	a (エイ)	ba (ベイ)
be	ハ b (エイ)	e (イー)	be (ビー)
pi	ハ p (エイ)	i (アイ)	pi (パイ)
fo	ハ f (エフ)	o (オウ)	fo (フォウ)

と讀むのが習慣です、又

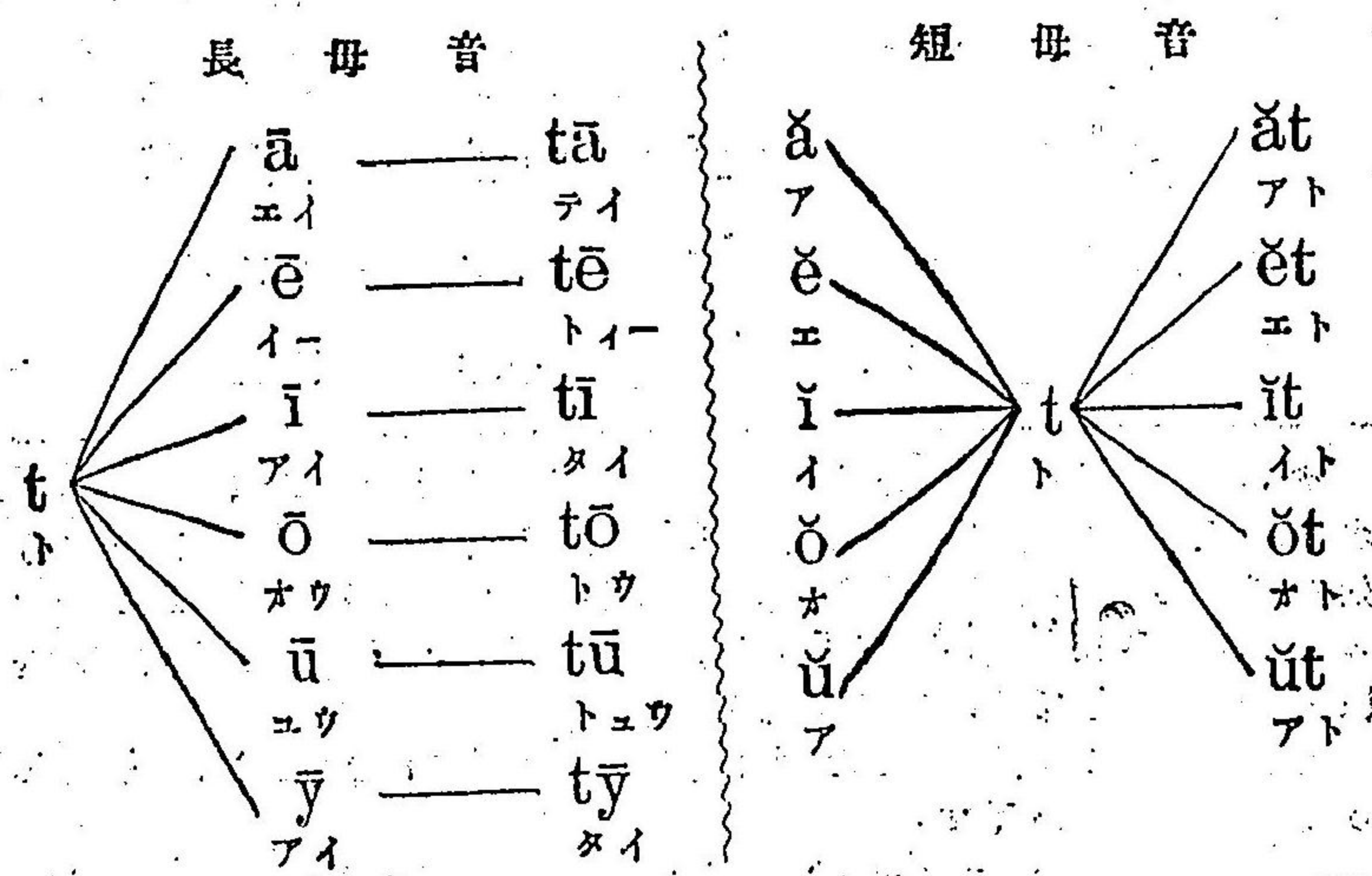
ab	ハ a (エイ)	b (エイ)	ab (アブ)
up	ハ u (ユウ)	p (エイ)	up (アブ)
av	ハ a (エイ)	v (ヴイ)	av (アヴ)

と讀むのです。それですから母音の長短に拘はらず、何んでも文字の名稱をさなえては、綴りの音を言うのです。此の綴り方

第四課 Lesson 4.

T - ト

此字は我が五十音の「タ、テ、ト」の音を生ずる父字ですが、「チ、ツ」は發しません。此父音「ト」を發するには、舌端を前上齒の裏に着けて、「ト」と發音するのです。これを母音と配合すれば、次の如くになります。



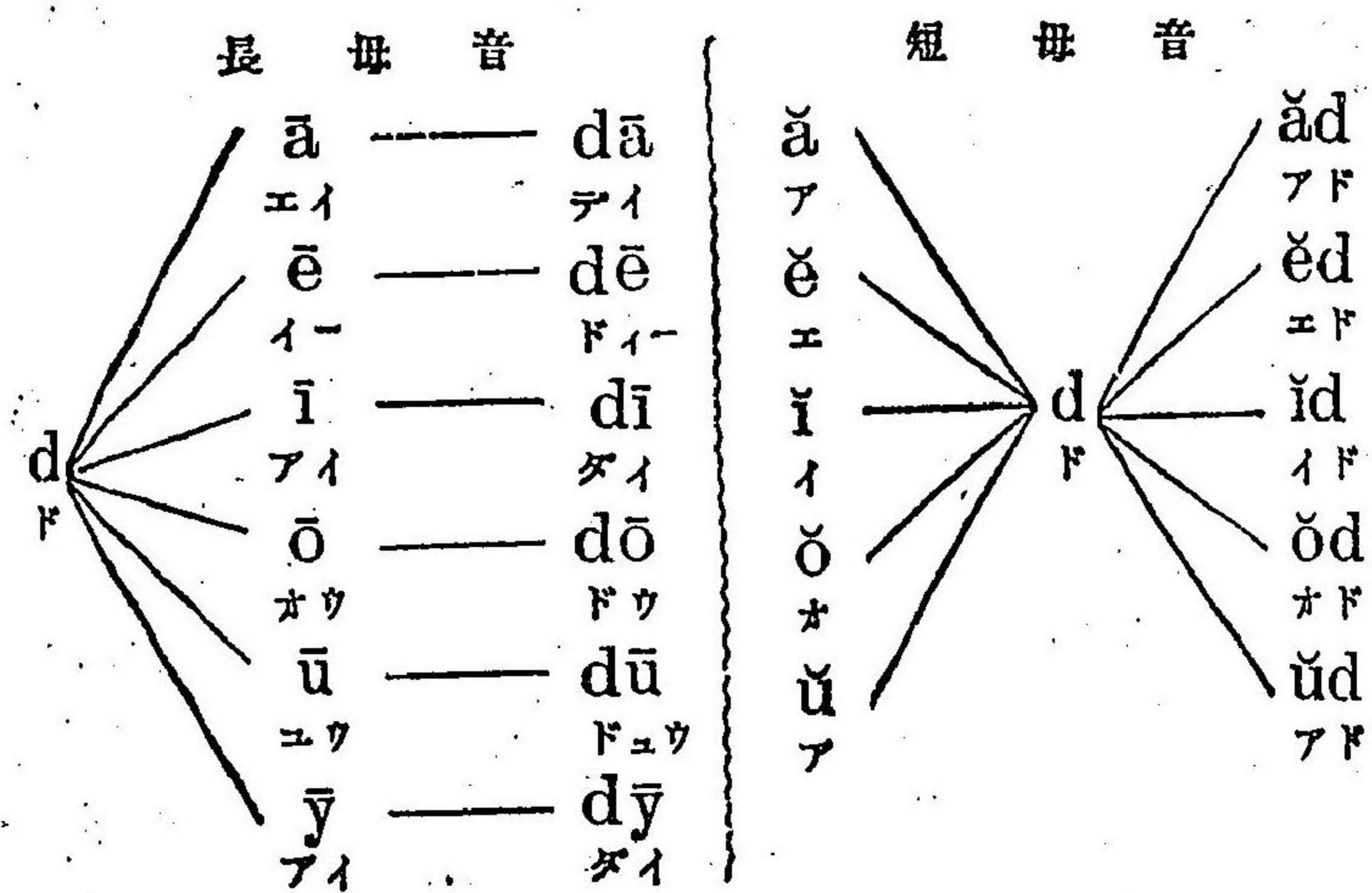
が達者に出来る様にならなければ、英語に熟達するとは出来ないのだから、馬鹿らしいように、大聲をあげて數十回も数百回も暗誦するがよい。綴りと發音が英語學の土音である、講義者の言うを守つて勉強すれば、キツト速成するのは請合です。今日博士だとか何爵だとか威張つて居る人も皆んな一度はこれをやつた人が多いのです。

tē (テイ) は「ティー」と「トイー」の間音です。

tū (トユウ) は「テユウ」と「トユウ」の間音です。

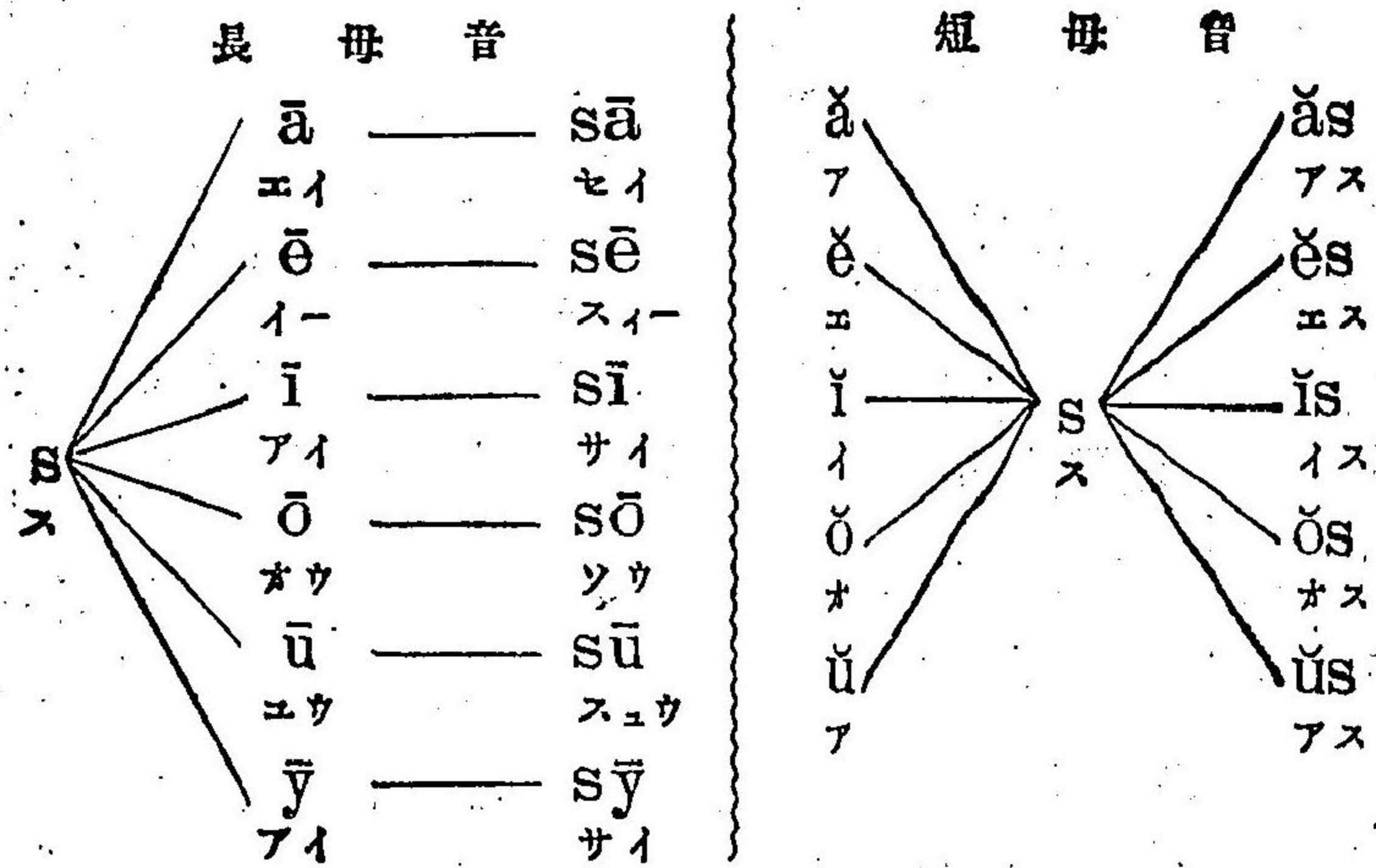
D - ド

此字は我が五十音の「ダ、デ、ド」の音を生ずる父字ですが、「ヂ、ヅ」の二音は發しません。此父音を發するには、「t」を發すると同様に、舌端を前上齒の裏に着けて、「ド」と發音するのです。t と異なる所は只清音と濁音の差いです。これを母音に配合すると次の如くになる。



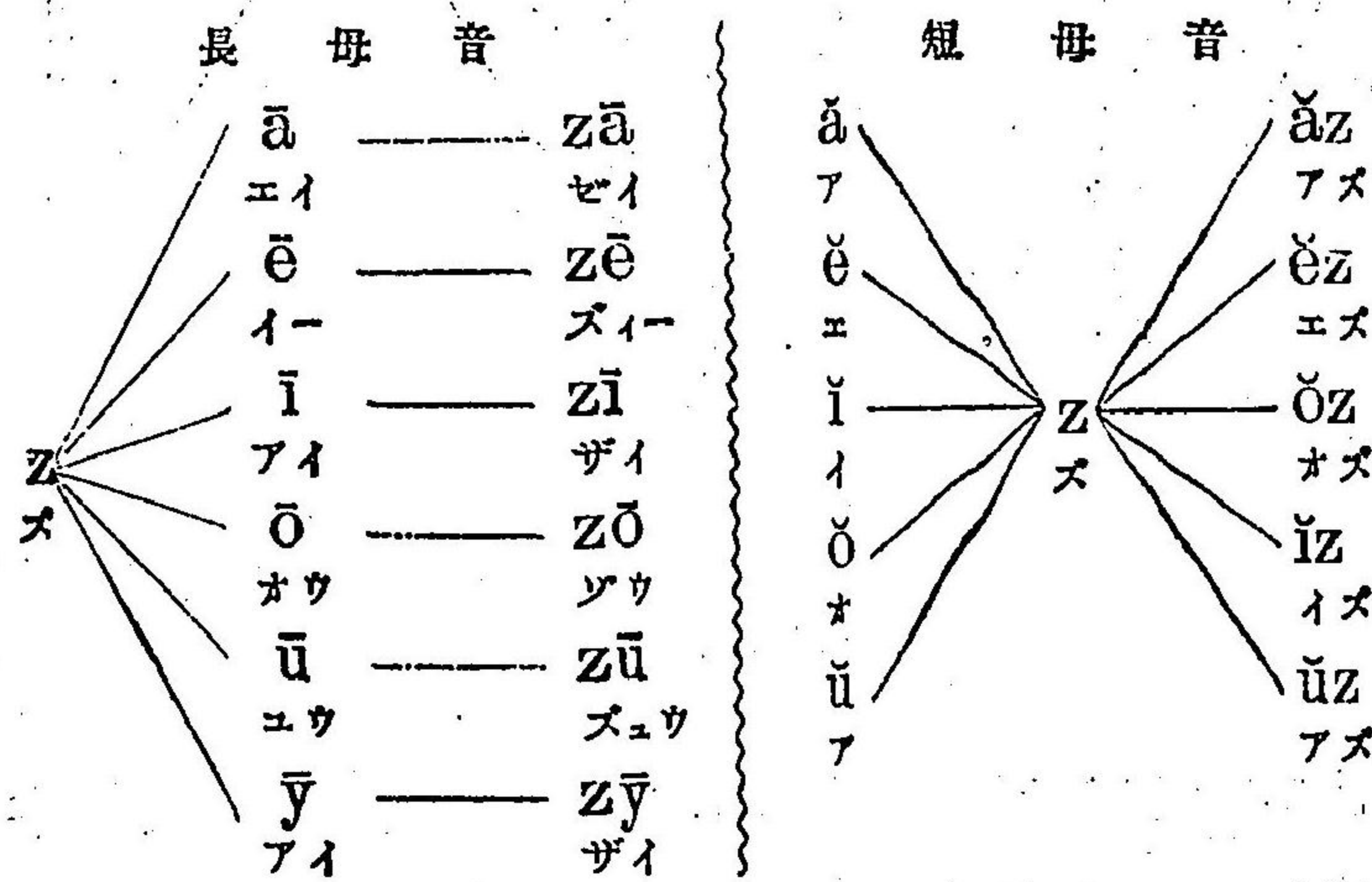
S - ス

此字は我が五十音の「サ、ス、セ、ソ」の音を生ずる父字ですが、「シ」といふ音は發しません。之を母音に配合すると次の如くです。



Zーズ

此字は五十音を表わす場合には、「ス」の濁音を發する父音として、「ザ、ズ、ゼ、ヅ」といふ音を發します。



是は時々「ズ」といふ音を發する場合があります、其時には次の如き記號を付けます。「ズ」—^z 記號。

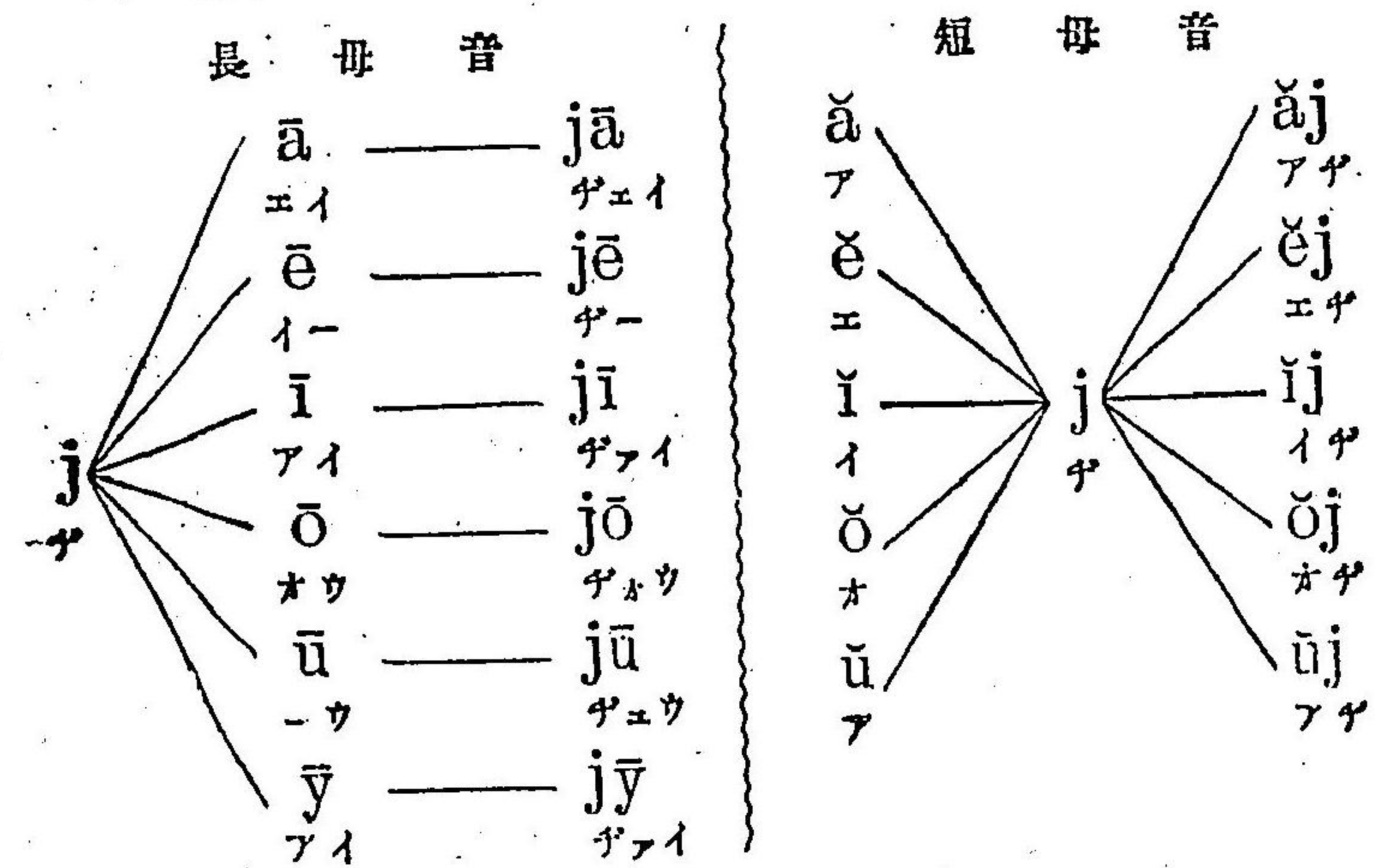
Xークス

此字は綴り(音節)の首めにあるときは「ズ」と同様に「ズ」と響くなれど、其中間又は末尾にあると「クス」又は「グズ」と響きます。此字の綴りの首にあるとは稀れですから、末尾にある例を示しましょう。

- äx アクス
- ëx エクス
- ix イクス
- öx オクス
- ux アクス

Jーヂ

此字は日本の「ヂ、ヂ、ヂュ、ヂユ、ヂョ」といふ音を發する父音ですが、日本の「ヂ」よりも少し口の奥の方で發音する様である。チャンプレン氏は日本の「ヂ、ヅ」兩音を一時に發音する如くにすべしと言ふてあります。



練習

tā	tē	tī	tō	tū	tŷ
da	de	di	do	du	dy
sa	se	si	so	su	sy
za	ze	zi	zo	zu	zy
ja	je	ji	jo	ju	jy

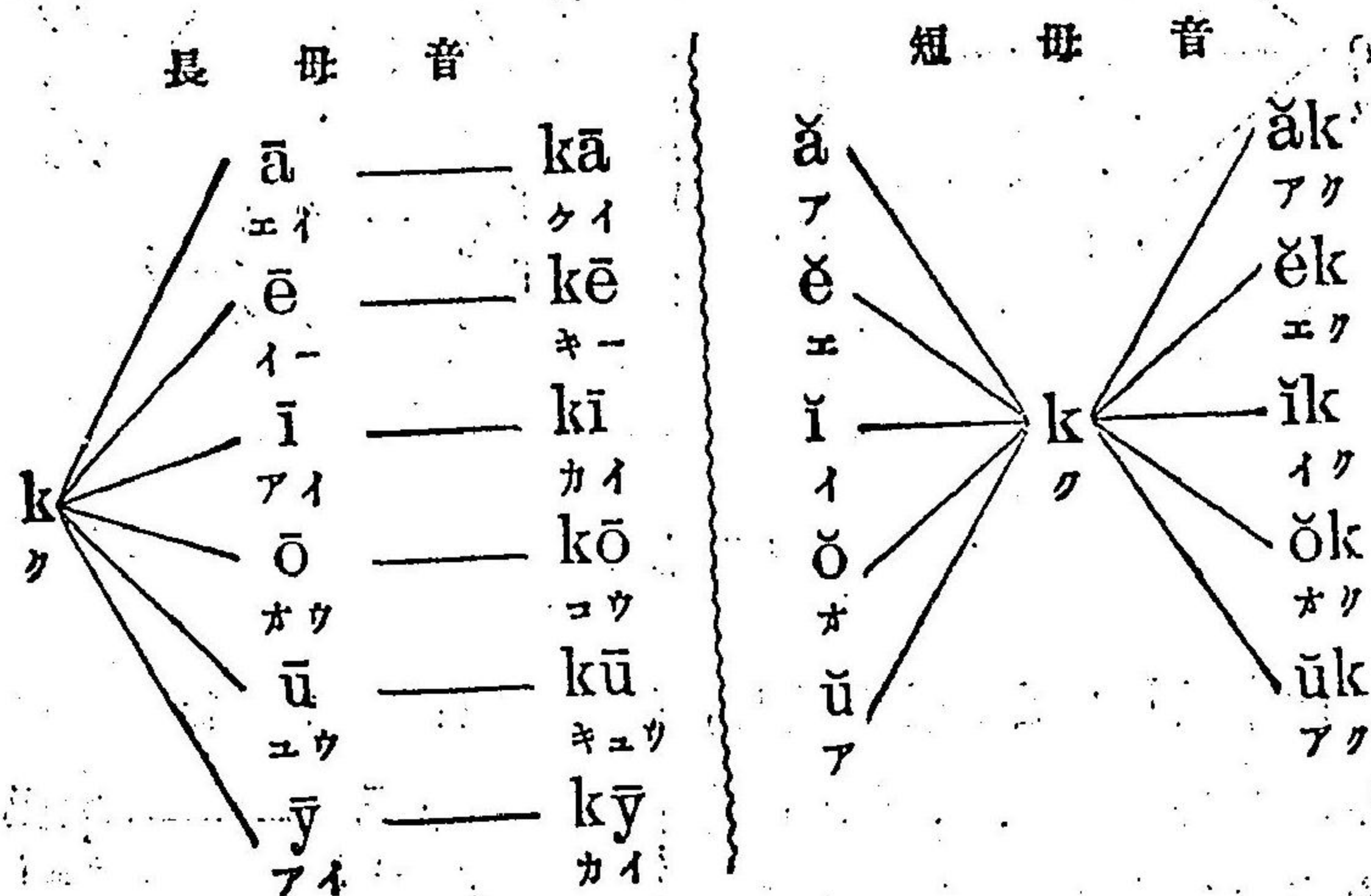
āt	ēt	īt	ōt	ūt
ad	ed	id	od	ud
as	es	is	os	us
az	ez	iz	oz	uz
ax	ex	ix	ox	ux
aj	ej	ij	oj	uj

此練習の読み方は前の練習の読み方と同様で、文字の名称をさなわては、発音するのです。前にも言いましたが、類りにくりかへして數十回、数百回暗誦して、綴りを言へばすぐ発音が出来る様にしなければいけません。此事は呉々も念つてはいけませんよ。

第五課 Lesson 5.

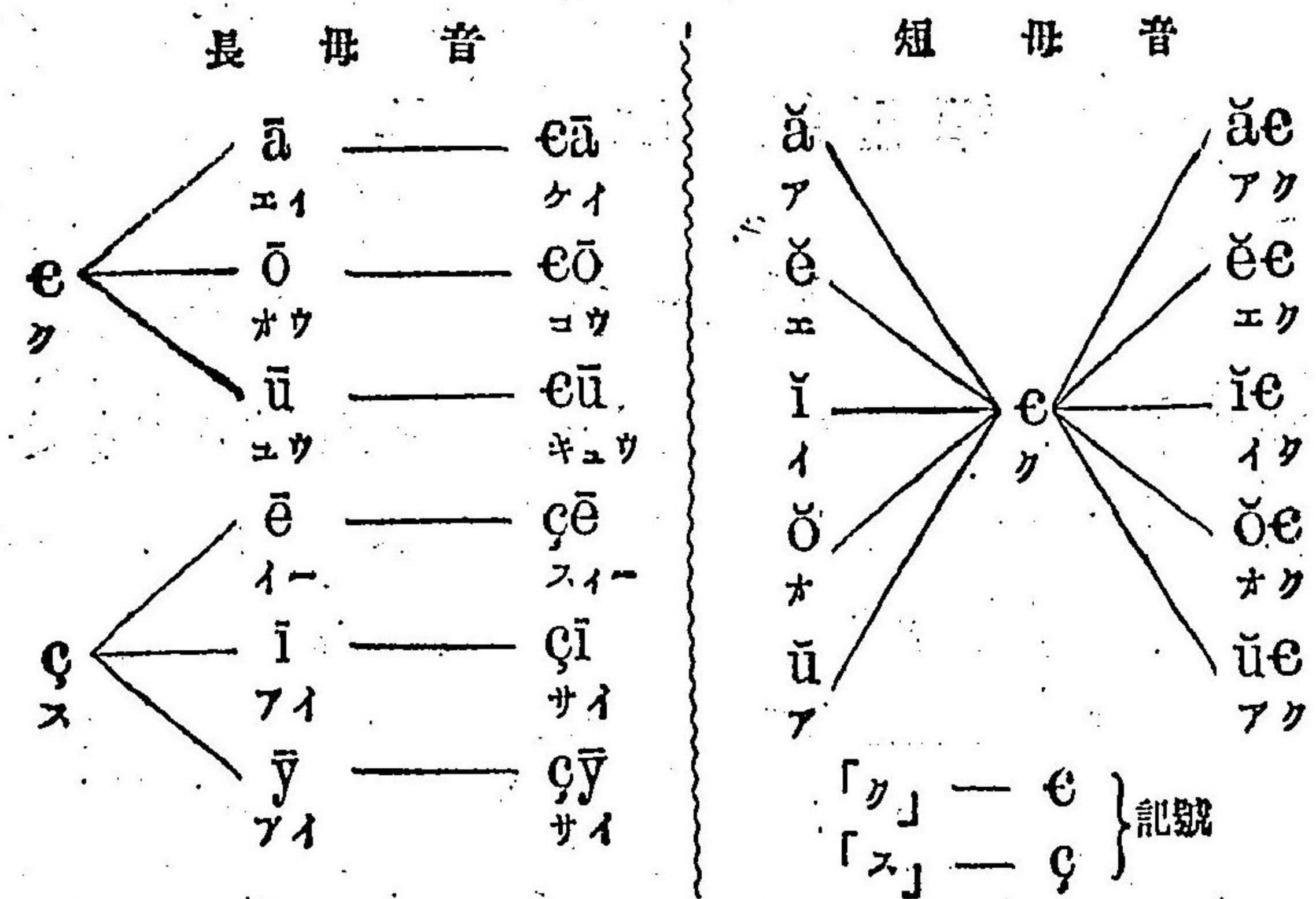
K-ク

此字は日本の「カ、キ、ク、ケ、コ」の音を發する父字でして、これを母字に配合すると次の如くになります。



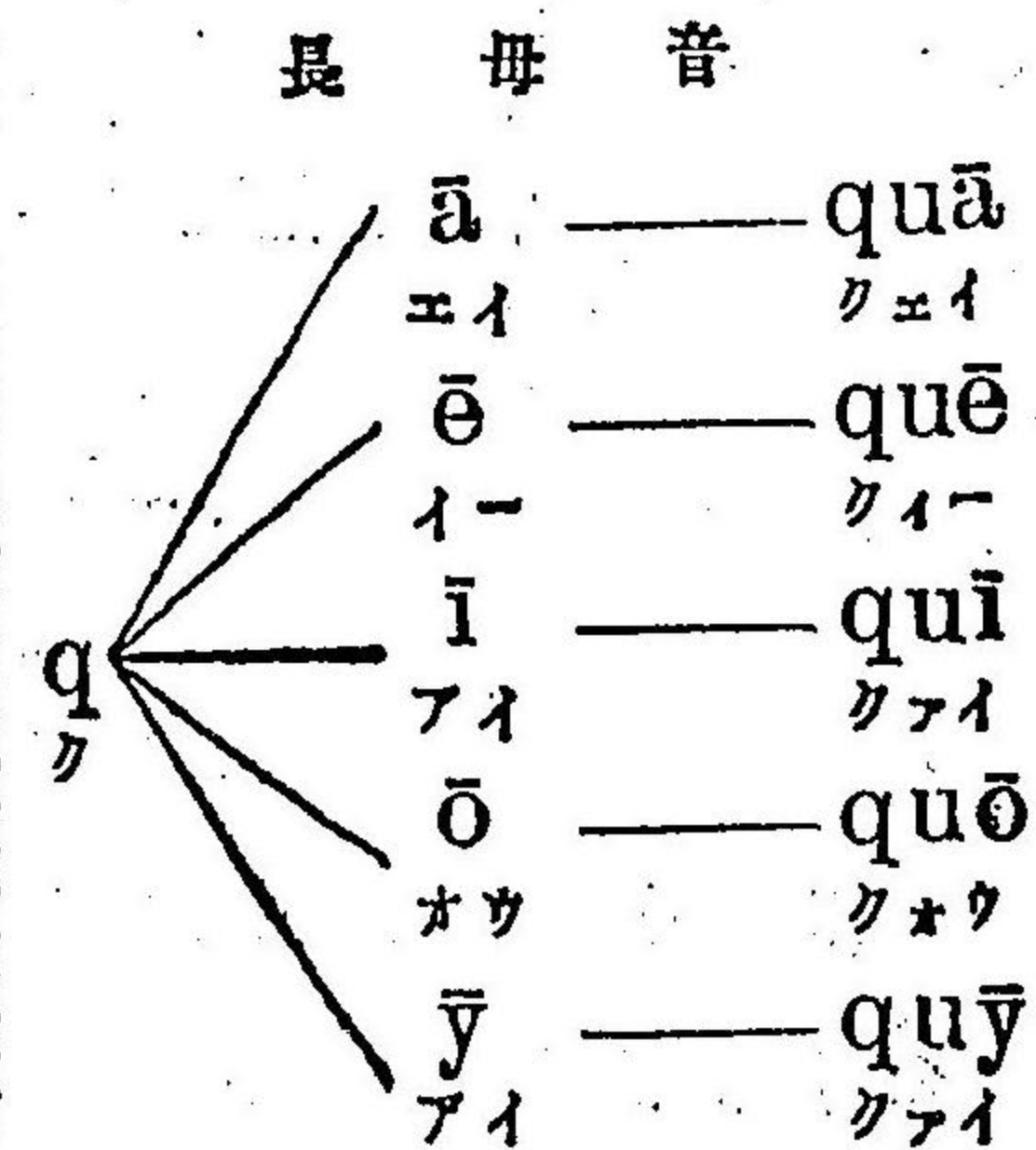
C-ク

此字は「k」と同じく日本の「カ、ク、コ」の音を發する父字なるが、しかし「キ、ケ」は發せずして、「ス、サ」の音を發すると、恰も「s」の如くです。次の如く母音と配合すれば、その發音が知れます。cが「ク」音を發すると「ス」音を發するに従つて、記號を付けます。



QU — ク

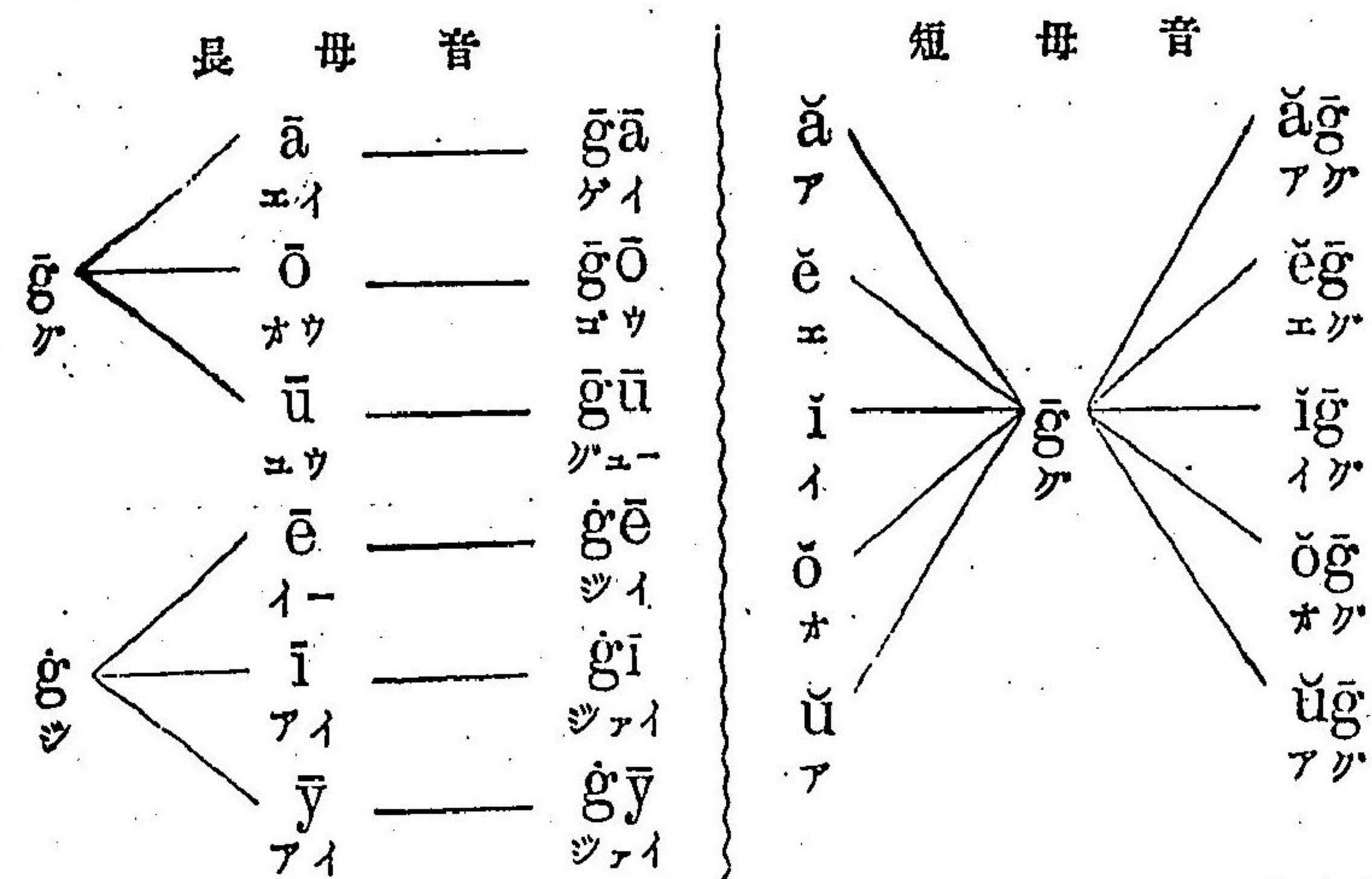
此字は「k」と同音を發し、常に「u」と合して「ク」音を表わします。此字を用ゐるとは甚だ稀です。



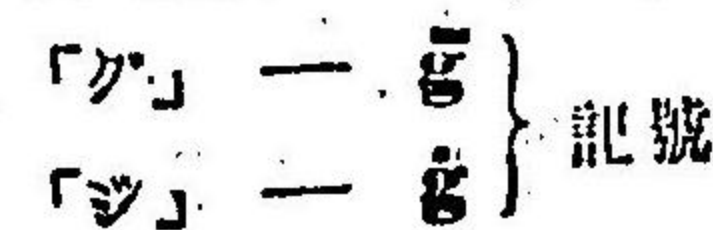
要するに「e」の次に「e, i, y」の三字の中何れか来れば、「ス, サ」の音を發するのです。しかし e が母音の次に來るときは、常に「ク」音を發します。

G — グ

此字は日本の「ガ, キ, グ, ケ, コ」の音を發する父字として、即ち「k」音の濁音を表す。しかし此音は日本の語辭の初めにある音、例せば「ぐあん (愚案) の「ぐ」音 (顎音) です。「かせぐ (稼ぐ)」「いそぐ (急ぐ) の「ぐ」音 (鼻音) ではありません。鼻音の「ぐ」は英音の ng (ング) と同様です。去りながら此に注意すべきは、英語に於ては、「g」の次に「e, i, y」の母音があるときは (但し同音節の中にあるもの)、其「g」は大抵「j」(ヂ) と同音を發すると、恰も「c」の次に「e, i, y」の母音のあるときに、其「c」が「s」(ス) と同音を發する如くであります。

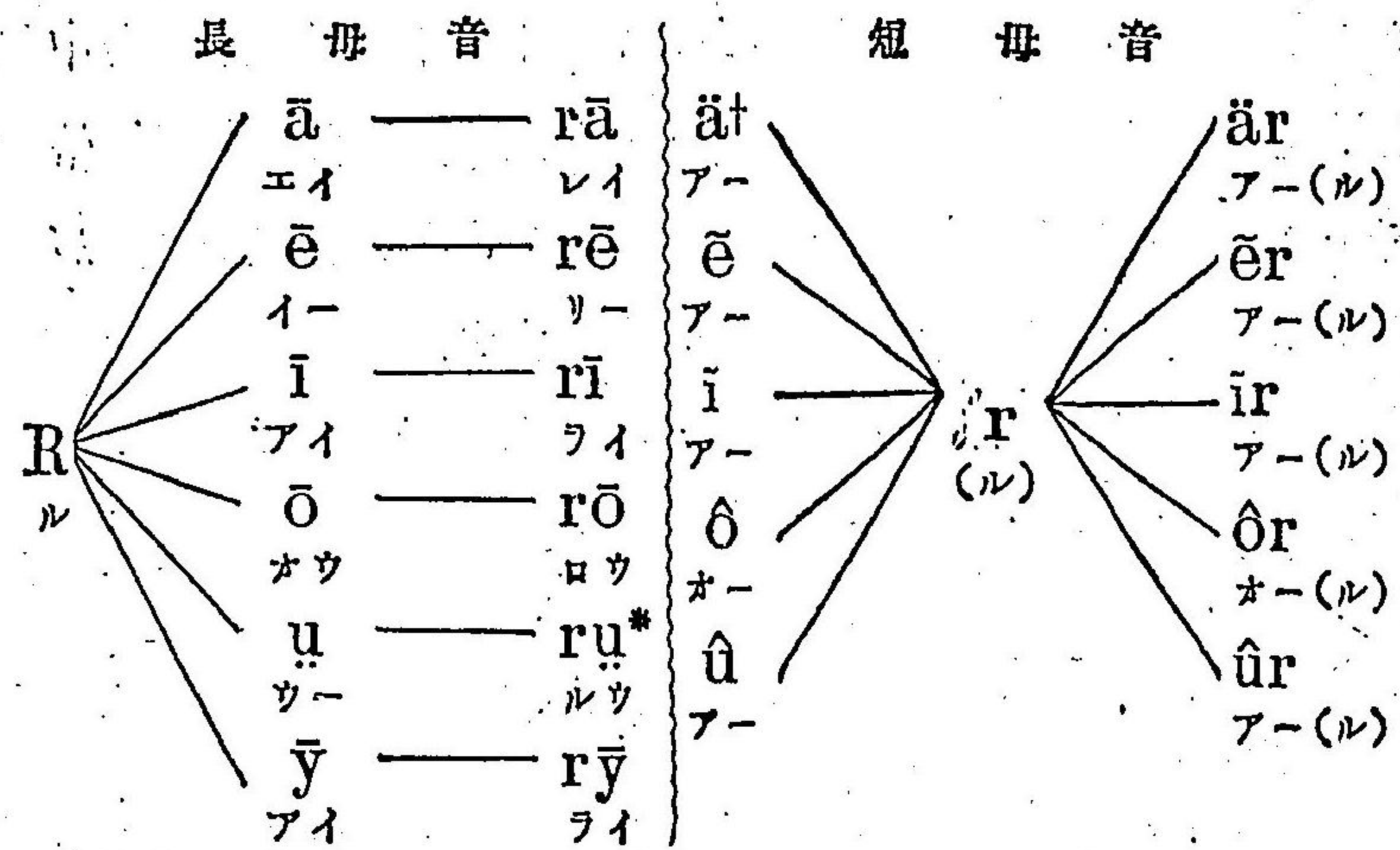


「グ」と「グ」の發音を區別するために、次の如き記號を付けます。



R-ル

此字は母字の前にある時は、日本の「ラ、リ、ル、レ、ロ」の音を發する父字であります。母字の後にあるときは、其母字の音を其儘延ばして言い乗つるか、又は「ア」と發聲すれば、よろしいです(脚註を看よ)。サテ又此字の發音「ラ、リ、ル、レ、ロ」は少し巻き舌に言ふので、まづ東京の^下等社會に行はるゝ音調に似て居ます。之を發音するとき、「ウ」の微音を頭に附ける心持にて發音すると宜しい。

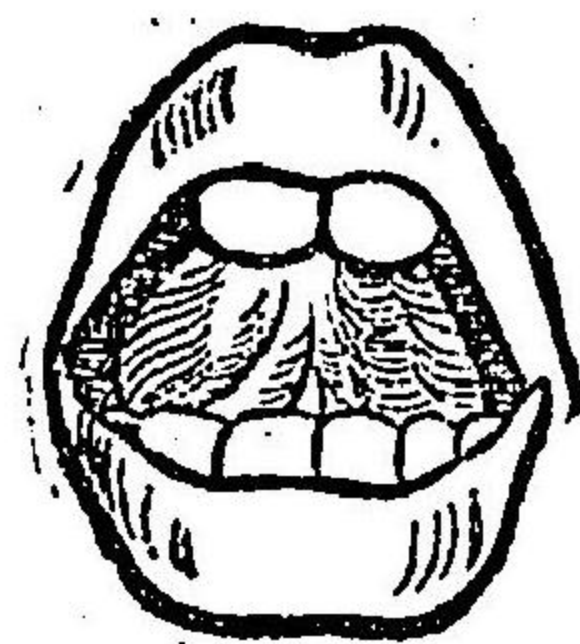


*rの次のuは常に「ウー」即ち「ū」の如く響きます。rの前にある a, e, i, o, u は上の假名附の如き音に似た音になります。本文の (ル) は微音を示すので、殆んど無聲の如くです。本文に r が母字の後にあるとき云々と言へるは、チアンプレン氏の説に従つたのです。氏の言ふ様、日本人が既に爲し來れる如く、成るべくは母字の後にある r (ル) 音を廢する方がよろしい其理由は二個ある。一つには英米兩國の高等教育を受けたる人々の多數は益々此の如き r (ル) 音を廢する傾きがある。又一つには、日本人が此の如き位置にある r (ル) 音を發音せんとするも、動もするも「l」の「ル」音と混する。l と混するも音葉が解らなくなる云々。或人は r (ル) 音を發するをよしと云いますが、チアンプレン氏の言は尤もだと思ひます。

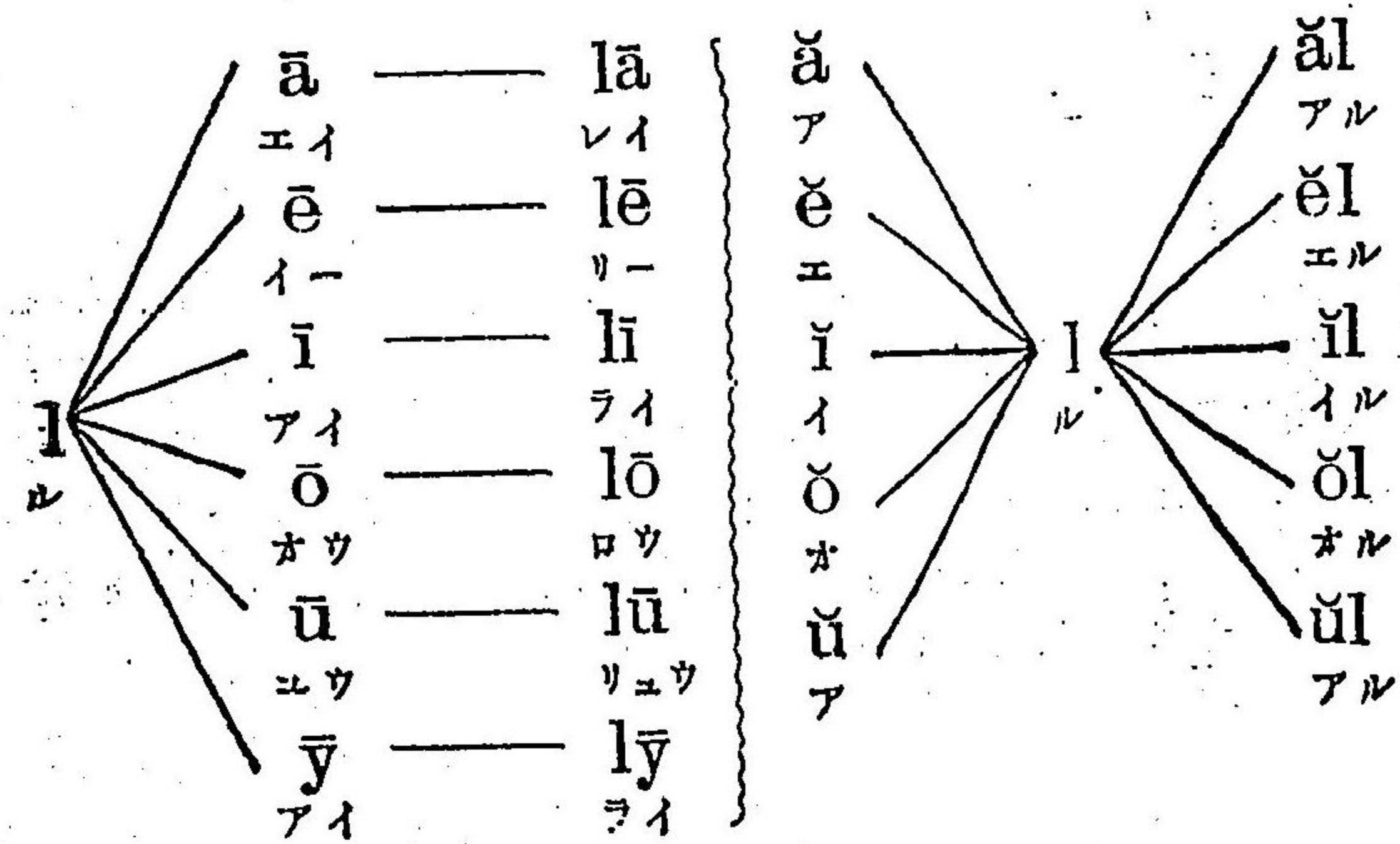
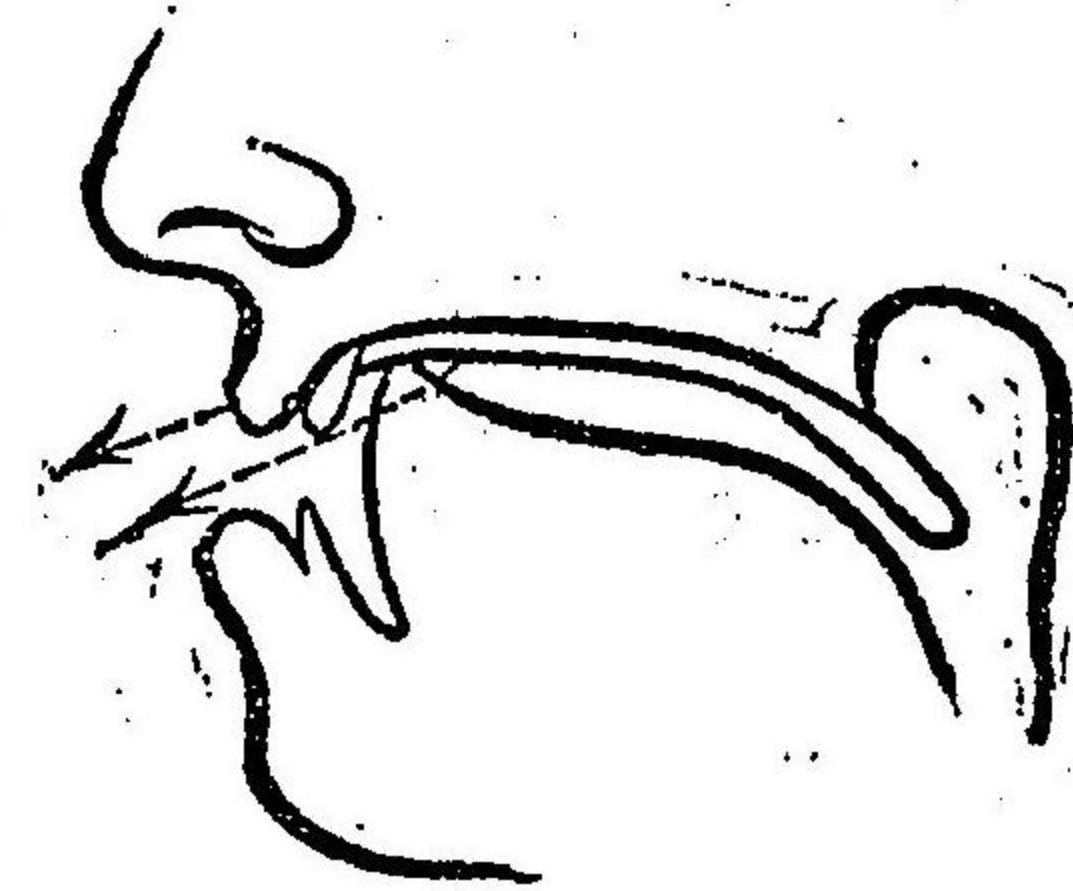
L-ル

此字の表わす「ル」音は日本にはありません。その發音の仕方は、舌を巻き上げて上顎に堅く着け、そして「ル」を發するのです。此發音は外國音の中でも一番六ヶ敷ものですから、十分に勉強しなければ出来ません。若し R の「ル」音と間違えると歐米人には解りません。

Lノ發音法



Lノ發音法



練習

kā	kē	kī	kō	kū	kȳ
ea	⁽¹⁾ çē	çi	eo	eu	ey
qua	que	qui	quo	qu	quy
gā	⁽²⁾ gē	gi	gō	gū	gȳ
ra	rē	ri	ro	⁽³⁾ ru	ry
la	lē	li	lo	lu	ly

ǎk	ĕk	ĭk	ök	ŭk
aē	eē	ie	oē	ue
aġ	eġ	iġ	oġ	uġ
⁽³⁾ är	ēr	īr	ōr	ūr
al	el	il	ol	ul

(1) ee, ei, ey の e は「ス」を發音するを忘れてはならぬ。
 (2) ge, gi, gy の g は大抵「ツ」を發音するに注意なさい、但し「ク」を發音し、「ギー」「グアイ」を發音するともないではないのです。(3) r の次の「u」は r の前の a, e, i, o, u は、一種の音を發するに注意なさい。

第六課 Lesson 6.

H - ハ

此字は日本の「ハ、ヒ、ヘ、ホ」の音を發する父音です。少し無理ですが、假りに「ハ」という音を附けて置きます。純粹の「ハ」という音ではありません、「フ」と「ハ」の間の音で喉から出る音であります。次の配合を見て如何なる音なるかを味つて見るがよろしい。

長母音			
h ハ	ā	hā	h が母音の後に在るときは、 或は
	エイ	へイ	
	ē	hē	ah } ア- } の如く母字の音を延 oh } オ-
	イー	ヒー	
	ī	hī	
	アイ	ハイ	
	ō	hō	ばし、或は自身は無聲となる。
	オウ	ホウ	
ū	hū		
ユー	ヒウ		
ȳ	hȳ		
アイ	ハイ		

h の音を表わすべき假名を附するのは極めて困難です。拙著英語學大全其他には「フ」を附けたれど、不穩當なる故、今「ハ」と改めました。岡倉氏は「ホ」を附けられました、これも一説であります。(序に参考までに申しますが、此字の獨逸名は「ハー」といいます。)

W - ウ

此字は五十音の「ワ, ヰ, ヱ, ヲ, ナ」の音を表わす父字ですが, 此「ワ」行の音は日本では現今明かに存して居ませんから, 此父字の音には特に「ウ」音を冠らせて發するがよろしい。

長母音	
ā	Wā
エイ	Wēi
ē	Wē
イー	Wī
アイ	Wī
ō	Wō
オウ	Wō
ū	Wū
ユウ	Wū

Y - イ

此字は父字としては日本の「ヤ, ユ, ヨ」の音を表わします。i(イ)よりも少し強い氣味があります。

ā	yā
エイ	yēi
ē	yē
イー	yī
ō	yō
オウ	yō
ū	yū
ユウ	yū

N - ナ

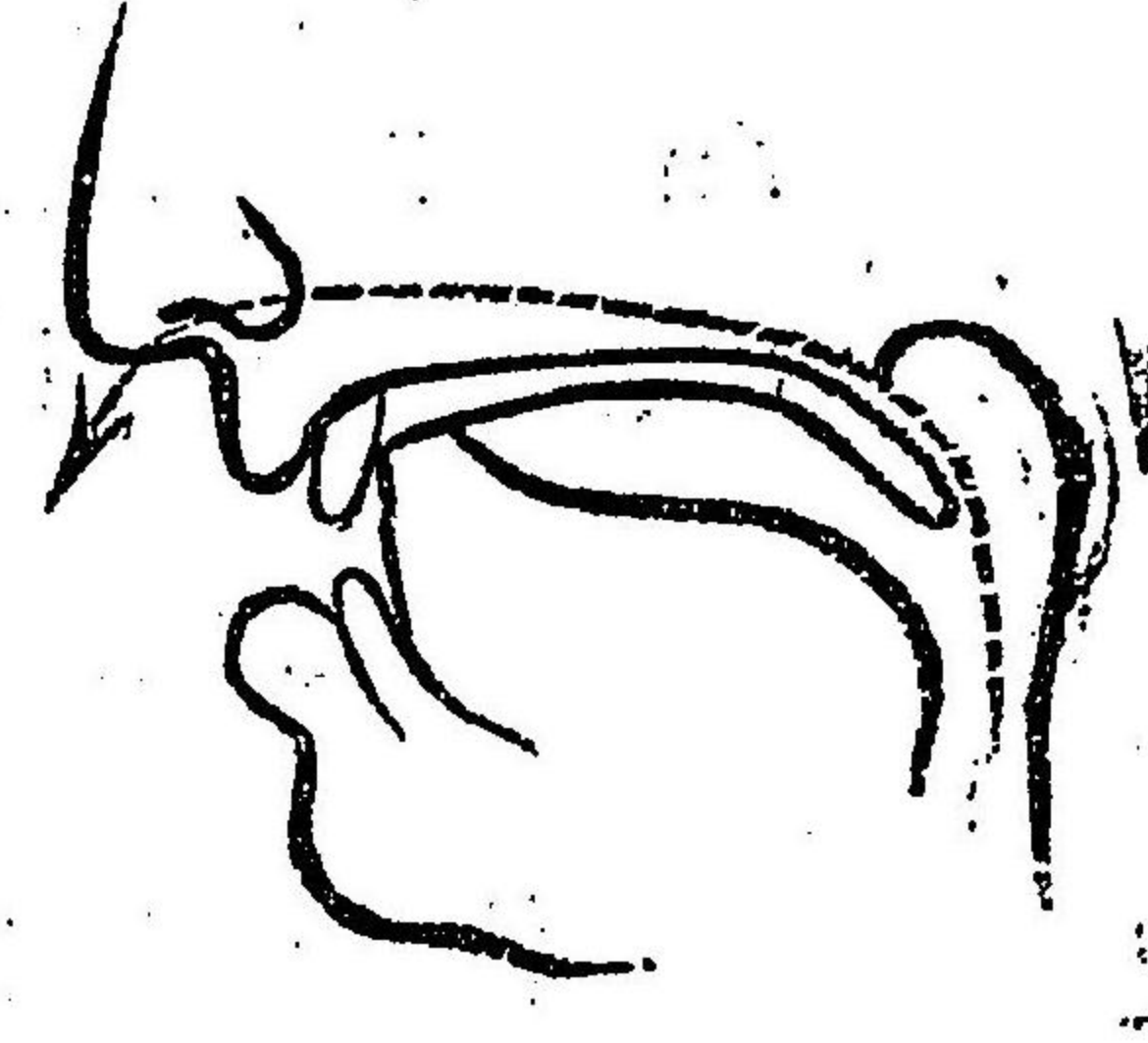
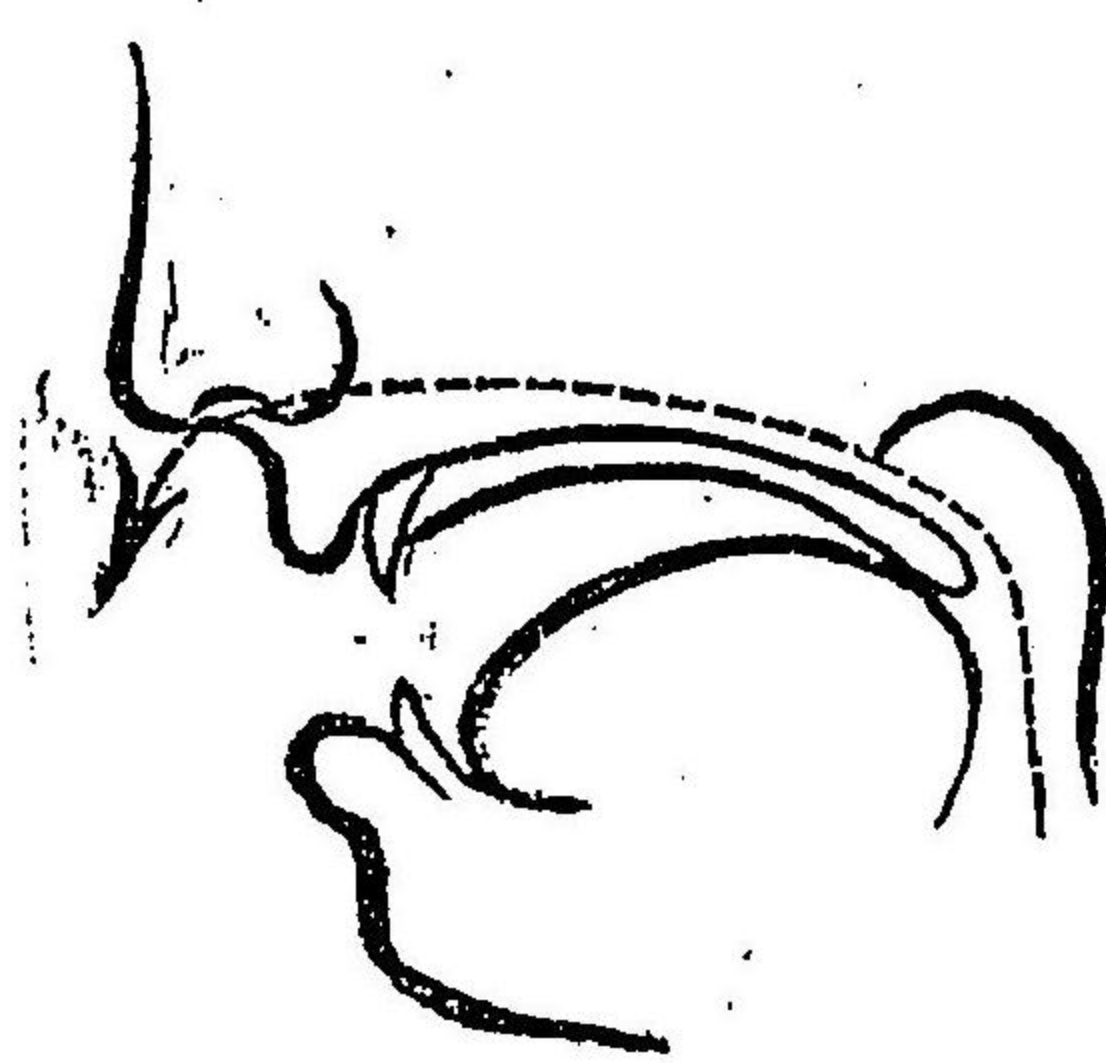
此字は日本の「ナ, ニ, ヌ, ナ, ノ」の音を表わします。

NG - ング

の「ン」と混せぬ様に發音するには, 「kin」は「キン」と發音し, 「king」は「キング」と發音し, 「pan」は「パン」と發音し, 「pang」は「パング」と發音するがよろしい。

Nノ發音法

NGノ發音法



長母音	
ā	nā
エイ	nēi
ē	nē
イー	nī
アイ	nī
ō	nō
オウ	nō
ū	nū
ユウ	nū
ī	nī
アイ	nī

短母音	
ă	ăn
ア	ăn
ě	ěn
エ	ěn
ī	in
イ	in
ō	on
オ	on
ū	un
ウ	un

練習

hā hē hī hō hū hȳ

wa we wi wo wu wy

ya ye yo yu

na ne ni no nu ny

ǎn ěn ĩn ōn ŭn

ang eng ing ong ung

第七課 Lesson 7.

以上に掲けたる所にて、父音の重なる者は済みましたが、此外に父字を二個合せて、一種の音を發するものがあります、其中最も普通に用いらるゝ者は、「ph, ch, sh, th」の四個ですから、此四個を一通り説明しましょう。

PH - フ

此複父字は f(フ)と同様な音を發します。これを母字と配合すれば、次の如くになりますが、参照のために「f」の綴も出します。

fā fē fi fō fū fȳ
フエイ フィー ファイ フォウ フェウ ファイphā phē phī phō phū phȳ
フエイ フィー ファイ フォウ フェウ ファイ

CH - チ

此複父字は先づ日本の「チ」の音に似て居ますが、少し強く響きます、即ち「チ」音よりも、口の奥の方にて發する心持ちにすればよろしい。これは「チシ」を合して、一時に發音する様にすれば、直きに學べます。

chā chē chī chō chū chȳ
チエイ チイー チアイ チョウ チュウ チアイǎch ěch ĩch ōch ŭch
アチ エチ イチ オチ アチ

此 ch が時としては、「ク」或は「シ」と響くことがあります、これは後に此く響く語が出て來たら説明します。

SH - シ

此複父字は「シャ, シ, シュ, シェ, ショ」と言う拗音を發する父字です。此「シ」音は日本の「シ」よりも強く響きます。ch(チ)の如く口の奥の方で發音するのです。

shā shē shī shō shū shȳ
シェイ シー シャイ ショウ シュウ シャイǎsh ěsh ĩsh ōsh ŭsh
アシ エシ イシ オシ アシ

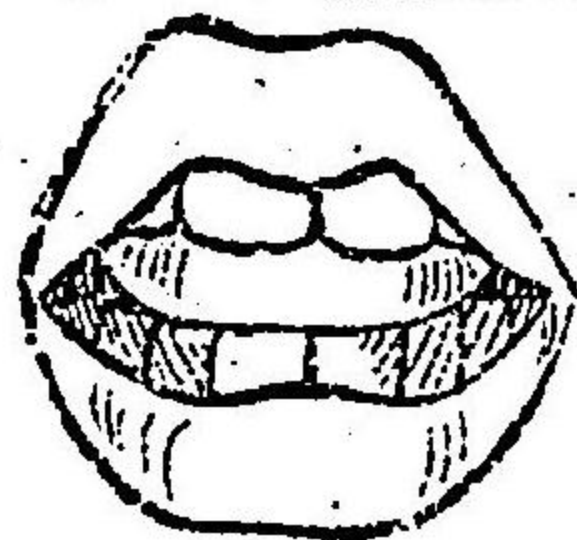
sh の音と s の音とを混ぜぬ様に氣をおつけなさい、次に此二音を比較して見ましょう。

sā	sē	sī	sō	sū	sȳ
セイ	スイー	サイ	ソウ	シュウ	サイ
shā	shē	shī	shō	shū	shȳ
シェイ	シー	シャイ	ショウ	シュウ	シャイ

TH - ス

此字の音は日本にありません、これを發音するには、前上齒と下齒との間に舌を置いて「ス」と發音すると圖解

TH の發音法



の如くにする。又此「ス」音は清音ですが、これが濁音になりて「ズ」と響くところがある。此濁音も清音と同じ様にして發音するのであります。練習のために母音と配合して見ましょう。

清音	thā	thē	thī	thō	thū	thȳ
	スエイ	スイー	サイ	ソウ	シュウ	サイ
濁音	thā	thē	thī	thō	thū	thȳ
	ズエイ	ズイー	ズアイ	ズオウ	ズユウ	ズアイ

本文に掲げたる外 gh (フガ), zh (ズ), dh (th の濁音ズ), ts (ツ), 等の字もあれど、今は畧しおき後に便宜に隨て説き明かしましょう。th は濁音の印です。

練習

phā	phē	phī	phō	phū	phȳ
cha	che	chi	cho	chu	chy
sha	she	shi	sho	shu	shy
tha	the	thi	tho	thu	thy
tha	the	thi	tho	thu	thy

第八課 Lesson 8.

發音の規則

The Rules of Pronunciation.

以上第三課より第七課迄に掲げたる綴字と發音を熟視しますと、自から規則があります。

第一則 同音節の中にて父字の次に母字があつて、それで其音節が終れば、其母字の音が長く延びる。

音節とは英語の Syllable として、一切れ目の音をいい、一音節の中には、必ず母音を含んで居ます。日本の假名字は皆一音節を表わして居ます。be, di, do, などは各一音節です。

第二則 同音節の中にて母字の次に父字があつて、
それで其音節が終れば、其母字の音が短くつまる。

それですから、例を挙げれば、

ba ハ 「バ」ではなく、「バイ」である。

ab ハ 「エイブ」ではなく「アブ」である。

尤も此規則外のものもある又羅馬字綴りの發音方は、
これとはちがいます、それは又追つて説明しましょう、ま
づこれはこれで理會して置けば、よろしい。

第一則の母音練習

此練習には既に掲けたる綴りの中にて、互に類似せる
もの、又は同一なるものを、主として出したれば、其相違
を比較對照して、彼れ此れの區別の確かと判る様に練習
なさい。

ba	be	bi	bo	bu	by
va	ve	vi	vo	vu	vy
pa	pe	pi	po	pu	py
fa	fe	fi	fo	fu	fy
pha	phe	phi	pho	phu	phy
ha	he	hi	ho	hu	hy
ma	me	mi	mo	mu	my

ta	te	ti	to	tu	ty
da	de	di	do	du	dy
sa	se	si	so	su	sy
sha	she	shi	sho	shu	shy
tha	the	thi	tho	thu	thy
tha	the	thi	tho	thu	thy
ga	ge	gi	go	gu	gy

ja	je	ji	jo	ju	jy
cha	che	chi	cho	chu	chy
ea	çe	çi	eo	eu	çy
ka	ke	ki	ko	ku	ky
qua	que	qui	quo	qu	quy
ga	ge	gi	go	gu	gy

ra	re	ri	ro	ru	ry
la	le	li	lo	lu	ly

wa	we	wi	wo	wu	wy
ya	ye	—	yo	yu	—
na	ne	ni	no	nu	ny

第二則の母音練習

ab	eb	ib	ob	ub
av	ev	iv	ov	uv
ap	ep	ip	op	up
af	ef	if	of	uf
am	em	im	om	um

at	et	it	ot	ut
ad	ed	id	od	ud
as	es	is	os	us
ash	esh	ish	osh	ush
az	ez	iz	oz	uz
ax	ex	ix	ox	ux

aj	ej	ij	oj	uj
ae	ee	ie	oe	ue
ak	ek	ik	ok	uk
aġ	eġ	iġ	oġ	uġ
är	ēr	ir	ör	ür
al	el	il	ol	ul
an	en	in	on	un
aṅ	eṅ	iṅ	oṅ	uṅ

第九課 Lesson 9.

母音の長短變化

1. 以上の練習を幾回も繰り返し、これに熟達したら、これから長音が變じて短音になる工合を説きましよう。此事はこれ迄人が注意しなかつたので、日本人には英語の發音が殊に六ヶ敷思はれましたが、此變化の規則を能く呑み込みますと、餘程發音を學ぶのが容易になりましよう。(既知)と記るしたるのは、既に學びたるもの、(未知)と記したるは始めて出したるものです。

長音	短音	長音	短音	長音	短音
bā	băt	pā	păn	rā	răd
	バト		パン		ラド
bē	bět	pē	pěn	rē	rěd
	ベト		ペン		レド
bī	bīt	pī	pīn	rī	rīd
	ビト		ピン		リド
bō	bōt	pō	pōn	rō	rōd
	ボト		ポソ		ロド
bū	būt	pū	pūn	ru	rūd
	ブト		プソ		ラド
bȳ		pȳ		rȳ	
(既知)	(未知)	(既知)	(未知)	(既知)	(未知)

2. 以上は長母音(第一則の如く)の音節の末尾に一個の父字を加えたるのみなれども、その長母音が變じて短母音(第二則の如く)となりたるものです。此所には一二の例を示したるのみなれども、fa 行でも、ma 行でも、ta 行でも、其他いづれの行にても、皆此の如く末尾に父字一個を加えれば、長母音が短母音となるのです。今一々舉げて見せませんから、讀者は自から試みにやつて御覽なさは。

第十課 Lesson 10.

母音の短長變化

1. それから次には、上の如く長音が變んじて短音となつた、その短音がまた再び變じて、長音となる法を説きましよう。他の綴りを取りて説明してもよろしいが、前のを用ゐる方が解り易いからそうします。

短音	長音	短音	長音	短音	長音
băt	bāte	păn	pāne	răd	rāde
	ベイト		ペイン		レイド
bět	bēte	pěn	pēne	rěd	rēde
	ベート		ペーン		リード
bīt	bīte	pīn	pīne	rīd	rīde
	バイト		パイソ		ライド
bōt	bōte	pōn	pōne	rōd	rōde
	ボウト		ポソソ		ロウド
būt	būte	pūn	pūne	rūd	rūde
(既知)	ビュウト (未知)	(既知)	ピュソソ (未知)	(既知)	ルウド (未知)

2. 以上は前課に示したるもの、反對でして、短母音(第二則の如く)の音節の末尾に一個の「e」という母字を加えたため、前の短母音が變んじて長母音となるのです。それから今一つ例を舉げれば、次の如きものもあります。

短音	長音	短音	長音	短音	長音
ās	āse エイス	āb	ābe エイブ	ān	āne エイン
ēs	ēse イース	ēb	ēbe イーブ	ēn	ēne イーン
īs	īse アイス	īb	ībe アイブ	īn	īne アイン
ōs	ōse オウス	ōb	ōbe オーブ	ōn	ōne オーン
ūs	ūse ユウス	ūb	ūbe ユーブ	ūn	ūne ユーン

是は、前の bā が bāt となり又 bāte となりたる例と少し趣きが違いますが、其理合は同様でして、「e」を末尾に加えたため、矢張り前の母音が長く延びるのです。扱此の如く「e」が末尾に加わると「第一則」に従つて「e」の音が長く響くかと云うに此の如き場合には「e」は大抵無聲となりて、響きませんから、此の如き末尾の「e」は第一則に關係がありません。しかし此「e」が加わつた爲に前の母音が長く延びるのですから、第三の規則が立ちます。

第三則 父音にて終る短母音の音節の末尾に「e」字が加わると前の短母音が延びて長くなる。但し此末尾の「e」字は無聲なり。

3. 尙は上に示したる母音の變化を一目に明にせんために、下の例を掲げて置きますから時折参考なさい。

長母音	短母音	長母音
dō ドゥ	dōg ドグ	dōge ドゥジ
hā ヘイ	hāt ハト	hāte ヘイト
mā メイ	mān マン	māne メイン

短母音	長母音
āp アブ	āpe エイブ
īc イク	īce アイス

4. 上來說明したる所は綴字と發音の基本となるものですから、充分にこれに通曉すれば、如何なる多き音節の語にても、其發音が左程六ヶ敷くはありません、只一音節を幾個も合わせたものです。故に綴字と發音の事は、特別に説くとはこれで暫らく止め置き、讀本の講義をなすつゝ、時々綴字と發音の項を問に挿んで説くことにしましょう。然し母字と父字の發音の中で、未だ説明しなかつたものもありますから、其全体の表を次に掲げて、先づ讀者に知らせて置きましょう。

母音表

單母字の音					
正音		變音			
長音	ā	エイ	{ ō オー ö オ ō オ ō オ ō オ ō オ		
	ē	イー			
	ī	アイ			
	ō	オウ			
	ū	ユウ			
	ÿ	アイ			
短音	ä	ア(エア)	{ û アー u ウー u ウ (此に記るした る如き記號を 用ゐて發音を 區別します)		
	ē	エ			
	ī	イ			
	ō	オ(オア)			
	ū	ア(ウア)			
	ÿ	イ			
複母字の音					
{ ai	エイ	ea	エ	{ ou	アウ
{ ay	エイ	ew	ユー	{ ow	アウ
{ au	オー	ey	イ、エー、イー	{ ou	オー
{ aw	オー	{ oi	オイ	{ ow	オー
{ ea	イー	{ oy	オイ	{ oa	オー
{ ee	イー	{ ōō	ウー		
{ ei	イー	{ ōō	ウ		
{ ie	イー	{ ōō	ア		

父音表

唇音		齒音		顎音		喉音	
b	ブ	t	ト	k	ク	h	ハ
v	ヴ	d	ド	e	ク	w	ウ
p	プ	s	ス	eh	ク	y	イ
f	フ	ç	ス	q	ク		
ph	フ	sc	ス	g	ク		
wh	ホ	th	ス	gh	クル		
		sh	シ	r	ル	鼻音	
		z	ズ	l	ル	n	ニン
		th	ズ			ng	ンク
		z	ズ				
		x	クス、グズ				
		ch	チ				
		g	ジ				
		j	ヂ				

父表音に掲げたる外に

bb プ gg ク ss ス gh フ ll ル dd ド
ff フ ck ク

の如く重複したる父字を語尾に付するのもありますが、これは別に説明するには及びません。

此二表は時々参考して、發音を研究なさい。又發音の事を説明する際には、間々此表を参照せしむるにありましよう。

習字の注意

英習字は是非習字帖に就て練習せねばなりません。講義録の内に一頁や二頁ばかり入れても、只外形を飾るのみで役には立ちませんから、本社はそれは止めにして、習字帖購求の便利を社友に得せしむることにしましたが、委細は巻末に掲げてあるから、御覧なさい。尤も a b c 二十六文字の大小二様の文字は、巻首に掲げてあるから、最初はこれを手本として、練習すればよろしいです。

第二編

譯讀、綴字、及發音

オシヨナル 第一讀本 FIRST READER.

第一部 Part I.

第一課 Lesson 1.

	s	ス	t	ト	d	ド
長音	si	サイ	ti	タイ	do	ドカ
短音	is	イズ	it	イト	dog	ドク

it ツレ is アル dog 犬 a dog 一疋ノ犬

イト It (1) ツレハ イズ is (2) アル エ ドク a dog (3) 犬テ (原書には一疋の犬) の畫を挿入す

(1) 英語は漢文の如くに轉讀しなければ、日本人には意義が通じないから、上の如く轉讀する習慣になりましたが、段々に英語に熟達すると、只棒讀みにしても、意味のわかるものです、そうなければ談話は出来ません。故に成るべく速く、棒讀みのわかる様にするには、最初から

音讀(本書にては英語を語辭の順序のまゝに讀むを音讀といひ、日本語に譯して轉讀するを譯讀といひます)を勉強するがよろしい。

(2) it is は慣用語でありまして、時々は別段にこれという意味のないとがあります。此所でも It is a dog. といふは只「犬が居る」という位のとて、itは重い語ではありません。(3) a とは「一ツ」という義でありまして、多くの犬の中の一つを指しますが、此の様な場合には、日本語では別に a に譯を下すに及びません。

(4) 原書には「Slate Exercise」(スレイトエキサーサイス)といふがあります、これは「石盤上の練習」という意味で、石盤に文字を書き習うとを言うのです、これは一々譯しません。(5) 英語の下に引きたる線は、その數語をまとめて譯することを示すのである。こうすると初學者にはわかり易いから、余は從來用いて居ります。

第二課 Lesson 2.

b	ブ	th	ス	n	ヌ	n	ヌ	s	ス
bō	ボウ	th	ズ	ān	アン	ŭn	ウン	sē	セイ
boy	ボウイ	thē	ズイ	ānd	アンド	rŭn	ラン	sēe	セイ

新語 NEW WORDS.

boy 男ノ子 the 此 and ト run 走ル see 見ル

See the boy and the dog. (原書に男の子と犬の走る語を挿入す)
(1) 御覽 (2) 此男ノ子 (3) 此犬ヲ

The boy and the dog run.
(1) 此男ノ子 (2) ト (3) 此犬ガ (4) 走ッテ居ル

(1) the は「此の、其の、彼の」などと、或るものを指して云う語ですから、日本の語法にはづれない限りは、譯するがよろしい。或る人は都て譯するに及ばぬと言いますが、現に意味のある字で、日本にこれに當る語が勿論あるのですから、譯せる場合には譯するがよろしい。よしや原語がなくとも、意味の存するときは、譯を下すもよろしい、況んや原語のあるときは、大抵其語に意義があるのですから、譯するのは當然である、但し日本語の法に違ふときは、畧するもよいです。

(2) and は此所にては「と」という義ですから、「而して」と譯するのは間違つて居ます。(3) 此二文の相違は一は冒頭に「See」があり、一は末尾に「run」があるばかりです、この See と run は働らきを表わす語です。

* see の最後の「e」は響きませんから、「イタリツク」という字體にて印刷してあります。以下も皆同様です。原本には線を引いて削してあります。

(4) それから本書の始めに、大字は文の首めに用ゐるものだというと言つて置きましたが、此二文の See と The の頭字は即ち大字で書いてあります。

(5) 日本語には「ハ、ガ、ニ、ヲ、ノ」即ち「テニヲハ」があつて、言語の主位と従位がわかるのですが、英語には漢語と同じく、「テニヲハ」がありませんから、之を譯して讀むには、只語辭の位置と前後の意味にて、主言であるか、従言であるかを見別けて、「テニヲハ」の捨假名を付けて讀むのです、一口に言えば、回り點のない白文の漢書を轉讀する様なものであります。

第三課 Lesson 3.

r	ル	b	ブ	e	エ	g	グ	th	ズ
ät	アト	ig	イグ	än	アヌ	ët	エト	is	イス
rät	ラト	big	ビグ	eän	エアン	gët	ゲト	this	ズイス

新語 New words.

rat 鼠 big 大キナ can 出来レ get 取ル this 此

ズイス This is a big rat. (原書には犬の鼠を) (1)コレハ (3)アル (2)大キナ 鼠ヲ 追う齒を挿入す

Can	the dog	get	the rat?
(4)出来マスカ	(1)此犬ハ	(3)取ルヲガ	(2)此鼠ヲ
The dog	can get	the rat.	
(1)此犬ハ	(3)取ルヲガ出来マス	(2)此鼠ヲ	

(1) 第一課の It is a dog と This is a big rat を比較して見ると This は It よりも意味が重くある。(2) a は第一課の a と同じく數に重きを措いて言うのではないから、此の様な場合には日本語では譯するには及びません。

(3) 第二の文と第三の文とを比較して御覽なさい、只 Can の置き所がちがらばかりです。抑も Can get 二語で「取ることが出来る」という意味であるが、第二の文の如く Can を文の頭に置くと疑問語になり、第三の文の如く The dog の次に置くと説示語になるのである。それですから前にも言つた通り、語辭の置き處に依りて、問の言葉にもなり、又は答の言葉にもなるのです。

(4) 説示語の末尾には「ピリオド(.)」を置き、疑問語の末尾には「クエッションマーク(?)」を置くのが普通の法です。

a は如何なる意味のある冠詞ですか?
the も冠詞ですか、其意味はどうですか?

第四課 Lesson 4.

h	ハ	n	×	b	ブ	n	×	n	×
hē	ヘー	nē	ネー	bō	ホウ	nō	ノウ	nī	ナイ
hēn	ヘン	nēst	ネスト	bōx	ボックス	ōn	オン	īn	イン

新語 NEW WORDS.

hen 牝鶏 nest 巢 box 箱 on 上 in 内

See the hen and the nest.
(1) 御覽 (2) ト (3) 此巢ヲ

第二課の See the boy and the dog. という文を参照して、何處がちがうかを吟味なさい、boy と dog という二語がちがうばかりでしょう。(原書には牝鶏が巢の上に乗せる畫あり)

The hen is on the nest.
(1) 此牝鶏ハ (2) 巢ノ上ニ (3) 居ル

The nest is in a box.
(1) 此巢ハ (2) 箱ノ内ニ (3) アル

(1) 此二文の on と in という二語は小語なれども、能く其意味の相違をわきまえておかないと、誤解すると

がある。(2) is は活動物に就て言うときは、大抵「居る」と譯し、不活動物に就て言うときは、「在る」と譯すがよろし。尤も he is kind (彼の人は親切である)などの場合には、「ある」と譯するは言うまでもなし、要するにこの場合の意味に従つて都合よく譯するがよろしい。

第五課 Lesson 5.

e	ク	g	ツ、グ	w	ウ	n	×	t	ト
eā	ケイ	gē	ツー	wī	ウワイ	nā	ナイ	tā	タイ
eāt	カト	ēg	エカ	will	ウイル	ān	アヌ	āt	アト

新語 NEW WORDS.

cat 猫 egg 卵 will アロウ an 一ツ at 側ニ、自掛ケテ

The big cat is at the nest.
(1) コノ大ナ猫ガ (2) 巢ノ側ニ (3) 居ル

(1) big cat を big rat と比較して、big の字の用法を考へて御覽なさい。(2) at は「側ニ」という意です。(原書には牝鶏が巢の側に居る猫に飛掛らんとする畫あり)

and はどんな用をなす言葉ですか?

* g と l に就ては第一編の第五課を参照すべし。

ウイカ		ゲト	アヌ	エガ
Will	the cat	get	an	egg?
(4)マシヨウカ	(1)此猫ハ	(3)取り	(2)卵ヲ	

此文を第三課の文と比較して見ましょう。

Will the cat get an egg? } 取ろうとすれば取れ
 Can the dog get the rat? } るか、此猫が取ろうか
 どうかというは Will です。鼠は速やいから此犬に取る
 とが出来るかというは Can です。此二文は疑問
 文ですが、

The cat will get an egg. } とすれば、説示文とな
 The dog can get the rat. } ります、これで疑問文
 と説示文の組み立て方がわかりましたらう。

an egg の an は「一つ、或る」などの意味がある語でして、此所では(書を看よ)五六個の卵の中「どれか一つ」というのである。

スイ	ズイ	ヘヌ	ラヌ	アト	ズイ	カト
See	the	hen	run	at	the	cat!
(4)御覽	(1)アノ牝鶏ノ	(3)走ルノヲ	(2)アノ猫ニ向ツテ			

(1) 此文を第二課と第四課の文と比較しましょう。

See the hen run at the cat! } 本課の文は前の
 See the hen and the nest. } 二文とは組み立
 See the boy and the dog. } て方が少し違が

いますし、且つ又文尾に「エキスクラメーションマーク」

see と run は何んな種類の言葉ですか?

といふ感動點 (!) が附いて居る、これがついて居るから、只何々を御覽と静かにいうのではない、急な場合又は驚いた場合であることがわかります。

(2) run at the cat. } 一つは向うてと譯し
 is at the nest. } 一つは側にと譯すから、初學者は疑いましょうが、一つの at の前には run (走る) と云う働らきの言葉があるから、at はその働らきの「方向」を定め、一つの at の前には is (居る) と云う存在の言葉があるから、その存在の「位置」を定めたるのでして、よく考えると元の意義は同じで、日本の譯語が違うのです。故に其所に適當する様に譯するのが上手なのである。

ラヌ	ヘヌ	ラヌ	それ走れ牝鶏走れよと
Run,	hen,	run!	
走レ	牝鶏	走レヨ	「はげます」言葉である。

さて此所で一番冠詞というを説明しなければなりません。冠詞とは、名詞即ち名稱語の上に冠するから、こゝ譯したので、英語にて Article ^{アーティクル} といいます。

第一課の	a dog	} を比較して見ると、いずれも } 或る一つの云々と云ふ意で、 } a と an とは意味に違いは } ない、どちらも「これ」或は } 「それ」と定らない意義です、故に此二冠詞は「不定冠詞」と名けます。そこで a と an は意味が同じなるに、なせ
第三課の	a big rat	
第四課の	a box	
本課の	an egg	

語形が違ふかとなれば、それは全く發音の都合で、語路を滑にするためです。日本でも

お前様 } など意味が同じでも、語路の都合で言い
おん前様 } 回わしが違います。そう云ふ譯で、「a」
は父音の前におき、「an」は母音の前にくのです、即ち
上の例の通りである。

a dog ハ「アドグ」と聽える程につまり

an egg ハ「アエグ」と聽える程につまります。

第二課の the boy } 此 the という語は前にも言
" the dog } つた如く、「此、彼、其」なんど
假定の the egg } いう意味があつて、a や an

と同じく名詞の前に置く語であるから、矢張り冠詞と名づけますが、これは「これ、それ」と、ものを指して云ふ場合に用ゐるから定冠詞です。そして此語は a, an の様に母音の前と父音の前に従つて、形がかわるとはありませぬ、常に同じです。しかし

母音の前では オェ } どでも云ふ様につまつて聽え
父音の前では オフ } ます。

獨逸語では冠詞が色々様々に變化しますが、英語の冠詞は、a と an の變化ざりで、數がたつた二つです、なんと簡單ではありませんか。しかのみならず、近頃では冠詞は形容詞の一種だと言つて、別に項目を分けて論じない位です。去りながら冠詞の用法は中々他國人にはわか

らない、英米人でも、なせ此所に冠詞をつけるかその理屈は知らないが、それでもこゝになければならぬと申す様な事もありますから、常に注意して研究しなければなりません。

第六課 Lesson 6.

音讀復習 Reading Review.

此課は讀者が既に學んだ語を用いて、新たに文を書き、又は前の文を再び出したのですから、前課がよく讀めれば、サツサと讀める筈です。若しこれが自在に讀めないなら、それは未熟の證據だから、もう一偏初めから勉強するがよろしい、巻首の「讀者の心得」はかようなときの「用心棒」にするつもりで書いておいたんです、諸君、鳥渡やつて御覽なさい、謹聽して居ますから。(音讀復習とはしてありますが、譯讀も復習なさい)。

I.

See the boy and the dog.

Is it a big dog? (第一課と第二課参照)

II.

The dog can get the big rat.

Is this hen on the nest?

(第三課と第四課参照)

III.

Is the nest in a box?

The big cat is at the nest.

(第四課と第五課参照)

IV.

Will the cat get an egg?

The hen will run at the cat.

(第五課参照)

摘要講話 第一

余は特に此項目を設け、既に前六課にて學びたることをも、彼れこれ比較し、又は解剖して、英語の講成法を説きあかそうと思ひます。此れは中々有益ですから熟讀玩味なさい。三度の食事は忘れても、これは忘れてはいけません。

- 1. It is
 - This is
 - The nest is
 - The big cat is
- 此 is は、これは日本語に譯すると色々様々になります、其例を少し挙げましょう、

である
です
だ
なり
居る
在る

此外にもあるかもしれませんが、まづこんなものでしょう。兎に角談話にも、書面にも、何んにでも、これがなければ、用が便じない程常に用ゆる語ですから、英語に達しようと思えば、こんな小さい語の用法を第一に研究するのが一番肝要です。

それはなせとなれば、此語は様々に變化するからです、變化は追々に説きますが、先づ次の事を記憶なさい。

- (1) is は單數といつて一個のものに使う事。
- (2) is は現在眼のあたりの時に使う事。
- (3) is は僕が云々、君が云々という如き話す人と聽く人とは使わぬ、即ち「彼の人か」、「此の物が」という様な第三者にのみ使う事。

- 2. the boy and the dog } 此 and は「と」と譯し
- the hen and the nest } ましたが、所に依りては色々な譯し方がある、「而して」「及」「故に」「そこで」などをどう譯しようもある、然るにいつでも「而して」とのみ譯するのは極くわるい習慣じや。それから此語は「is」のような風に少しでも文を書けば、きつと使わなければ

ならん常用語でして、語と語を結び付け、文と文を結び付ける言葉だから、英語では接續詞といいます。接續詞の事は後に説明します。

3. See the boy..... } 此所に「イタリック」體
 the dog run } 即ち傾斜體で印刷してあ
 Can the dog get... } る語は皆な働らきか存在
 The dog can get... } を表わして居る語であり
 Will the cat get... } まして、英語にては之を
 Run, hen, run! } 働詞と稱し、語の中で最
 The nest is in..... } も大切なものです。彼
 の is も働詞の仲間です、追々説明しますが、鳥渡注意し
 て置きます。

4.on the nest. } 此 on (上), in (内), at (側)
in a box. } at (向つて) は日本語で言
at the nest. } えば、「チ=ハ」の如き働
at the cat. } らきをする語で、英語に
 之を前置詞という、名詞の前に置くところがあるからそうい
 うのですが、必らず前にのみない、後にあるともあるから、
關係詞と譯する方がよろしかろう。それは語句の「關
 係」を表わすからです。此等の語も短かくつて小さいが、
 大切でもあり、又六ヶ敷のであるから、決して輕蔑しては
 なりません。

5. 前諸課に色々な名稱がある
 dog, box, } の八語が即ち名稱で、此類の語は英
 boy, nest, } 語にて名詞といいます、これは別に
 rat, egg, } 六ヶ敷事はありません、何でも事物
 hen, cat. } の名稱は皆此種類に屬する語であり
 ます。形の無いもの、名でも矢張り名詞です、例えば忠、
 孝、仁、義、空氣、電氣、などもそうです。

6. 英語では言葉の種類を八つに分類してあります。
 最初からこんなとを委しく説明するつもりではないが、
 上に既に働詞とか、接續詞とか、いう名を掲げたばかりで
 おくと、幾くつあるか數が知れないため、記憶がはつきり
 出来まいかと恐れますから、只其八類の名ばかりを此所
 に出しておきます。

語辭の類別

- (1) 名詞 (2) 代名詞 (3) 形容詞 (4) 働詞
- (5) 副詞 (6) 前置詞 (7) 接續詞 (8) 感動詞

綴字練習 Spelling Exercise.

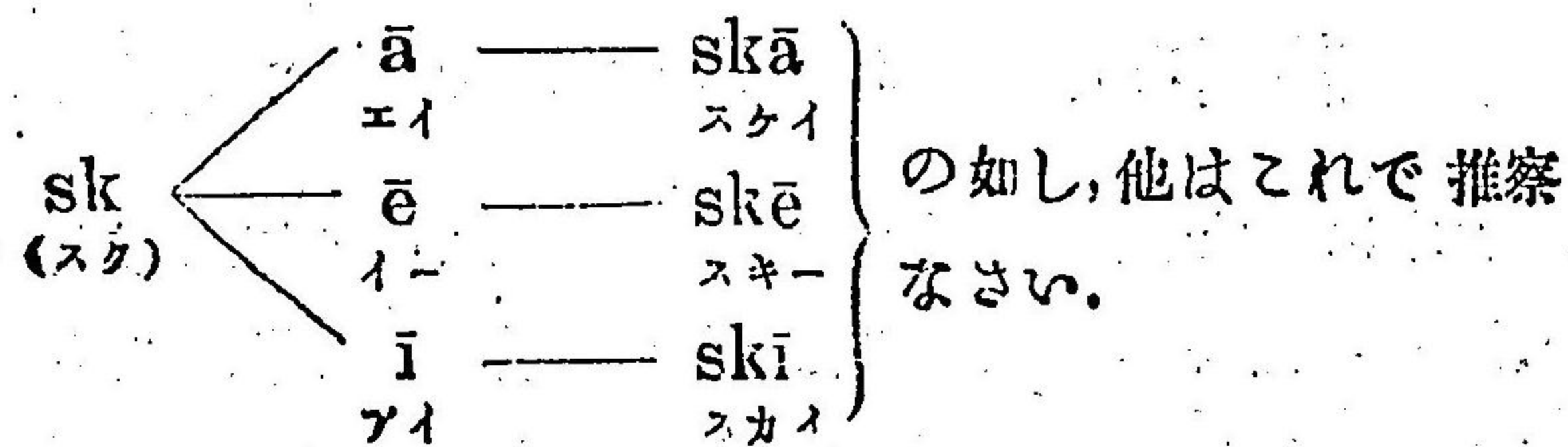
原本には此處に Spelling Review というがありまし
 て、前の數課にて學んだる語の綴字發音を復習せしむる
 こととしてありますが、此講義書に於ては、各課の首めに、

課中にある新語を、一々解剖して、その發音を示教しましたから、再び此所にそれをくりかえすには及びませぬ。故に此所には、第一編の綴字發音の續きを掲ぐるとにしました。以下も皆同様です。

ā (エイ) ē (イー) ī (アイ) ō (オウ) ū (ウ) ŷ (アィ)

sk (スク)	skā スケイ	skē スキー	skī スカイ	skō スコウ	skū スキュウ	skŷ スカィ
se (セ)	seā セエイ	seē セイー	seī セアイ	seō セオウ	seū セユウ	seŷ セァィ
sp (スピ)	spā スペイ	spē スピー	spī スパイ	spō スポウ	spū スピュウ	spŷ スパィ
st (スト)	stā ステイ	stē ステイー	stī スタイ	stō ストウ	stū ストュウ	stŷ スタィ
sw (スウ)	swā スウェイ	swē スウィー	swī スワイ	swō スウォウ	swū スウィュウ	swŷ スワァィ

此綴字發音の理合は第一編のものと同様です、例せば



第七課 Lesson 7.

實物練習 Object Exercise.

See the 男ノ子 and the 犬 (二課参照)
 (4) 御覽 (1) 此男ノ子 (2) ト (3) 此犬ヲ

原書には實物の畫を文の間に挿んであるのですから、此所には實物の代りに日本語を入れて置きました、此日本語を英語に直して見るのです。此文も前のが讀めれば、自然にわかる。

The 犬 ran at the 猫 (五課参照)
 (1) アノ犬ガ (3) 走ツタ (2) 猫ヲ目掛ケテ

此文の ran at..... } を比較して御覽なさい、少しの
 第五課の run at..... } 相違ですが

ran は過去の働詞で
 run は現在の働詞です。

The 牝鶏 ran at the 猫 (五課参照)
 (1) アノ牝鶏ガ (3) 走ツタ (2) アノ猫ヲ目掛ケテ

Can the 猫 get the 鼠? (三課参照)
 (4) 出来マスカ (1) アノ猫ハ (3) 取ルヲガ (2) アノ鼠ヲ

at, in, on, の意味はなんですか?
 此種類の語はどうか云う役をつとめますか?

The 卵 ^{イズ} is ^{イヌ} in the 巢 (四課参照)
 (1)此卵ハ (3)アル (2)巢ノ中ニ

The 卵 ^{イズ} is ^{イヌ} in the 箱 (四課参照)
 (1)此卵ハ (3)アル (2)箱ノ中ニ

第八課 Lesson 8.

ig	イズ	äst	アスト	ës	エス
hiç	ヒズ	fäst	ファスト	yës	イエス
öt	オト	ëm	エム	ag	アズ
nöt	ナト	them	ズエム		

新語 NEW WORDS.

his 彼ノ fast 迅ク yes エー not ヌ無
 them 彼レ等ノ as 如ク

^{ズイス} This ^{イズ} is ^エ a boy ^{アンド} and ^{ヒズ} his dog
 (1)此レハ (5)アル (2)男ノ子 (3)ト (4)彼レノ犬ヲ

(原書には小供と犬の走る畫あり。) (1) This は畫圖を指して言うのです。(2) 此文の中にて新語は his にして、此語は前の「男の子」boy を指すのである。「男の

子の犬」と云うても差つかえはないが、わづらわしくもあり、口調もよくないから、his を boy の代わりに用いたのです、これが即ち代名詞である。

Can the boy and his dog
 (5)出來マスガ (1)此男ノ子 (2)ト (3)彼レノ犬ハ

run fast?

(4)速ヤク走ルヲガ

(1) 前には a boy と云い、此度は the boy と云うのはなせですか。前には多くの男の子の中の一人とぼんやり云つたのですが、今度は既にどれと定まつたので、the という冠詞を加えたのです。(2) Can.....run は走ることが出来るの意ですが、どれ程走れるかを表わすため、更らに fast (速ヤク)を副けたのです、これが即ち副詞というのである。

イエス 此語は速やく走れるという答である。日本語 Yes では「アー」とか「エー」とかいう返答の仕方が色々ありますが、「左様でございます」「はいそうです」「ろうだ」など種々ありますが、英語では貴賤男女の差別なく此 yes を使うのです。

スイー ズエム ラヌ (1) them は男の子と犬の See them run 代わりに用いた語にして、兩者 (2) 御覽 (1)彼レ等ノ走ルヲ を一時にまとめて受けて居るのである。(2) 第五課に

本文の中から名詞即ち事物の名稱を擧げてごらん下さい。

See the hen run とあるこれを本文の

See them run と比較して御覽なさい。

ズイ	ホッイ	カヌ	ナト	ラヌ	アズ	ファスト	アズ
The boy		can not run			as fast as		
(1) 此男ノ子ハ		(4) 走ルコト出来マセン			(3) 様=速ヤク		

ズイ	ドグ	ラヌ	ホッイ	ラヌ
the dog.		Run, boy run!		
(2) 犬ノ		走レ	男ノ子	走レ

(1) fast は上文にある通り「速ヤク」という意味である、それに as.....as を加えれば、.....「の様に速ヤク」となるのである。そこで此 as fast as は can not run というと、即ちどれ程走れないかというその度合を示して居るのです。

(2) 本文の Run, boy, run! } を比較すると、只
 第五課の Run, hen, run! } dog と hen の相違のみです。

第九課 Lesson 9.

whit	ホイト	lit	リト	bir	バー	egg	エグ
white	ホソイト	*lit ^{le}	リットル	bird	バード	eggs	エグズ
yō	ヨウ	är	アー	öd	オド	ī	アイ
you	ユウ	äre	アー	do	ド(ツ)ウ	I	アイ

本文の中に疑問文がありますか？ どれが疑問文ですか？

新語 NEW WORDS.

white 白キ little 小サイ bird 鳥 eggs 卵

you 汝、君 are アル do マス I 私

ドウ	ユー	スイー	ズイス	リットル	バード
Do you see			this little bird?		
(2) 汝(アナタ)ハ見マスカ			(1) 此 小 鳥ヲ		

(原書には小鳥が巢の側に止り居る畫あり。) (1) see は「見る」、Do は「ます」に當る。Do はなくとも、see 一語にても見るという意味ですが、疑問語と否定語(.....ハ.....セヌ)には、Do を附することが慣例であります。

(2) you の發音は變則でして、o が「ウー」と響きます。you は「君」「アナタ」などという語で、貴賤、老若、男女、とも誰れに向つても、you と言えよいのですから、誠に簡單だ、日本語には、「アナタ」「君」「御前」「そこもど」「貴殿」など一々擧げきれぬ程に差別が多い實に閉口ですな。(3) bird の「i」は r の前にあるから、「アー」と響きます、第一編第五課の「R」音の説明を参照なさい。

*二音節以上より成る語には、聲音を強く揚げる音節がある、その音節に強聲符(´)を附けて、抑揚を示すのが通例の法です、little (リットル) が其一例です、よくこれに注意して發音しない、談話がわかりません。do の音は「ドゥ」と「ツウ」の中間の音でして、舌端を上齒と上顎との間に着けて發音すべし。

イエス アイ スィー ズイ リットル バード
 Yes, I see the little bird.

(1)ハイ私ハ (3)見マス (2)其小サイ 鳥ヲ

(1) I は「私」という語でして、これも you と同じく、男女貴賤に拘はらず話をする人は誰れでも、これを用ゐるのです、尤も一人の意味で、「私ハ」「私が」という格にのみ使うのである。

(2) this little bird } this は此鳥と指し示して云い
 the little bird } the は其鳥と話を受けて云う
 のです。

(3) Do you see } 問には Do を使い
 I see } 答にはこれを用いません。次の
 問答も同様です。

ドゥ ユウ スィー ズィス リットル ネスト
 Do you see this little nest?

(2)汝(アナタ)ハ見マスカ (1)此小ライ 巢ヲ

イエス アンドアイ スィー ズイ エグズ イヌ イト
 Yes, and I see the eggs in it.

(1)ハイソウシテ私ハ (4)見マス (3)卵ヲ (2)其内ニ

(1) 英語の名詞には単数即ち一個数と複数即ち二個以上の数を區別するために、複数語の語尾には s を附けるとが規則です。eggs は s が附いて居るから數個の卵の意です。又此 s 字は「ズ」と響きます、これも前に言つ

white, little, big は形容詞ですが、なぜそう云います?

た如く、語路の都合から起るのである。此 s の清濁音の事は後ちに説きましよう。(2) it は nest を指す。

ズイ エグズ イヌ ズイ ネスト アー ホワイト
 The eggs in the nest are white.

(2)卵ハ (1)巢ノ中ノ (3)白ロウゴザイマス

are は is と同じ意味ですが、複数にばかり用ゐる語です、即ち(摘要講話第一参照)である、です、だ、なり、居る、在る、などの意味です、只異なる所は

is は一個のもの即ち単数に用い

are は二個以上のもので即ち複数に用いるのです。

第十課 Lesson 10.

ăn アヌ	ēr アー	ās アズ	hī ハイ
ănн アヌ	hēr ハー	was ヴァズ	likes ライクス
ăn アヌ	īr アイ	lā レイ	
răn ラヌ	gīrl グァール	plāy プレイ	

新語 NEW WORDS.

Ann 少女ノ名 ran 走ツタ play 遊ブ girl 女兒

her 彼女ノ was アツタ likes 好ム

ドゥ ユウ スィー ズイ リットル グァール アンド
 Do you see the little girl and

(4)汝(アナタ)ハ見マスカ (1)此小サイ 女兒 (2)ト

ハー カト
her cat?

(3)彼女ノ猫ヲ

スイー ズエム プレイ
See them play.

(2)御覽

(1)彼レ等ノ遊ブノヲ

(原書には娘が小猫を)
ぢあらし居る箇あり

(1) 本課の the little girl and her cat }
第八課の the——boy and his dog }

此二文を比較すると girl は her にて受け, boy は his にて受けて居る, 即ち her は女性に用い, his は男性に用ゐるのです。

(2) 本課の See them play } も比較すると面白
第八課の See them run } い。

ズイス リットル グァール イズ アヌ
This little girl is Ann.

(1)此

小サキ 女兒ハ

(2)あねデス

アヌ ライクス ハー カト
Ann likes her cat.

(1)あねハ

(3)好ム

(2)彼女ノ猫ヲ

ズイス カト ウツズ イヌ エ ネスト
This cat was in a nest.

(1)此

猫ハ

(3)居マシタ

(2)巢ノ中ニ

was は過去の事を言い表わす語である。

エ ヘヌ ラヌ アト ハー
A hen ran at her.

(1)一羽ノ牝鶏ガ

(2)彼レヲ目掛ケテ走ツタ

代名詞はどれですか、本文の中から挙げてお見なさい。

(1) her は猫を指す。英語にては猫, 月, 舟其他穩靜なる性質のものは, 大抵女性と見做します。

(2) 本課の A hen ran at } 前にも言いました
第五課の the hen run at } が run は現在の言葉で, ran は過去の言葉である。

第十一課 Lesson 11.

öp オフ	äs アズ	in イヌ	ow オウ	äke エイク
töp トフ	häs ハズ	spin スピヌ	how ハウ	mäke メイク

新語 NEW WORDS.

top 獨樂 has 持 spin 廻ハス how 如何ニ

he 彼レガ, ハ makes...セシムル

ズイ ボーイ ハズ エ ビグ トフ
The boy has a big top.
(1)此男ノ子が (3)持テ居ル (2)一ツノ大キナ獨樂ヲ

スピヌ Spin! Spin! Spin!
アラ廻ハル 廻ハル 廻ハル

スイ ハウ ヒー メイクス イト スピヌ
See how he makes it spin!
(3)御覽ヨ (1)ドウシテ彼レガ (2)ソレヲ 廻ハスカ

(1) makes は「……セシムル」「サセル」などの意味にて、之に spin を付け加えると「廻はさしむる」「廻はす」となる。(2) しかし how があつてどんな鹽梅にという意味になる。

カヌ ヌウ スピヌ エ トプ
Can you spin a top?

汝(アナタ)ハ獨樂ヲ廻ハスコトガ出來マスカ

第三課の *Can the dog get* } (1) Can は出來
此文の *Can you spin* } るという意味で、此
所では疑問語だから「カ」を付ける。(2) a top とはど
れこれに限らず、只或る獨樂の義です、これは前にも言
いましたが、a の用い方に注意なさい。

イエス
Yes, I can spin a top.
(1) エー (2) 私ハ (4) 廻ハスコトガ出來マス (3) 獨樂ヲ

A boy likes a big top.
(1) 男ノ子ハ (3) 好ミマス (2) 大キナ 獨樂ヲ

- (1) A boy は「凡そ男の子というものは」の意。
(2) likes は「好むものだ」と通常の嗜好を云うので
す。

you は言葉の何の種類ですか?

第十二課 Lesson 12.

音讀復習 Reading Review.

さあ此復習をやつて御覽なさい、前のど少し文の違が
うのもあるが、考えればきつと出來ます。

I.

The boy and his dog can run fast.
Do you see them run? Can the dog
run as fast as the boy? Yes, he can.

(第八課参照)

II.

I do not see the little bird. I see the
eggs in the nest. Are the eggs white?
Yes, the eggs are white. (第九課)

III.

Was the girl Ann? Yes. Her cat
likes play. Was the cat at the nest?
Yes, and the hen ran at her. (第十課)

IV.

The boy has a top. See how fast he makes it spin! Can you spin a top?

Yes, I can spin a top. (第十一課)

どうです出来ましたらう。出来んなら Try again (再び御試みなさい)

摘要講話 第二

第八課から第十課までを吟味すると、新たに二十七語を覚えましたが、又色々注意すべきともあります。

- 1. 第八課の his dog
第十課の her cat
at her
第十一課の he makes
これは皆代名詞といふものですが、「ガノニ」の格に従つて用語が違います、且つ男女に従つて違います。

男性 { he ハ, ガ
his ノ
女性 { her ノ
her ニ, ヲ
かよらになるのです、此區別は確と記憶して居らないと、讀書にも、作文にも、談話にも差支えます。

I } 此二語も「代名詞」でして話をする本人と話を聴く相手を表わす、但し男女の區別はありません。

- 2. 第八課の can run fast
can run as fast as the dog
第十二課の can run as fast as the boy

fast は只「速やく」にて、as fast as は「犬や男の兒の様に速やく」と比較して云うのです。

- 3. 第九課の this little bird
this little nest
第十課の the little girl
第六課の a big dog
第十課の a big top
little (小サイ) も big (大キイ) も事物の状態大さを表わす語でして、これを形容詞といひます。第九課の white も形容詞です。

- 4. 第九課の Do you see (問)
第十課の Do you see (問)
第九課の I see(可定)
第十二課の I see(可定)
I do not see(否定)
前にも少し言いましたが、問の語と、否定の語には Do を加えて do.....see と言いますが、可定の語には只 see と言います。此事は See ばかりそうだと言うのではありません、どの働詞でもこう云う様です。

摘要講話の中に説明した事は、追々問題として讀者に問いますから、I can not (出来ません) と言はぬ様に今から用心なさい。 Good bye (左様なら)。

第十三課 Lesson 13.

綴字練習 Spelling Exercise.

	rā	rē	rī	rō	ru	rȳ
	(レイ)	(リー)	(ライ)	(ロウ)	(ルウ)	(ライ)
b	b-rā	b-rē	b-rī	b-rō	bru	b-rȳ
(ブ)	ブレイ	ブリー	ブライ	ブロウ	ブルウ	ブライ
e	e-rā	e-rē	e-rī	e-rō	e-ru	e-rȳ
(ク)	クレイ					
d	d-rā	d-rē	d-rī	d-rō	d-ru	d-rȳ
(ド)	ドレイ					
f	f-rā	f-rē	f-rī	f-rō	f-ru	f-rȳ
(フ)	フレイ					
g	g-rā	g-rē	g-rī	g-rō	g-ru	g-rȳ
(グ)	グレイ					
p	p-rā	p-rē	p-rī	p-rō	p-ru	p-rȳ
(プ)	プレイ					
t	t-rā	t-rē	t-rī	t-rō	t-ru	t-rȳ
(ト)	トレイ					
w	w-rā	w-rē	w-rī	w-rō	w-ru	w-rȳ
(無聲)	レイ	リー	ライ	ロウ	ルウ	ライ

第十四課 Lesson 14.

eē	イー	ts	ツ	ōor	オーア	on	オヌ
rēe	リー	āts	アツ	ōur	オーア	one	ワン
trēe	トリ	cāts	カツ	fōur	フォーア	tw	トゥ
thrēe	スリー	rāts	ラツ	fōor	フロア	two	ト(ツ)ウ

新語 NEW WORDS.

tree 木	cats (複数)	four 四	one 一
three 三	rats (複数)	floor 床	two 二
	birds (複数)		

ワン ワン ワン
One, one, one,
(1)一ツ 一ツ 一ツノ

リトル ドグ ラン
Little dog, run.
(2)小サイ犬ヲ (3)走レ

トゥー トゥー トゥー
Two, two, two,
(4)二ツ 二ツ 二ツノ

カツ シー ヌウ
Cats see you.
(2)猫ガ (4)見ル (3)汝ヲ

スリー スリー スリー
Three, three, three
(1)三ツ 三ツ 三ツノ

バーツ イヌ トリー
Birds in a tree.
(2)鳥ガ (3)木ノ内ニ(居ル)

フォーア フォーア フォーア
Four, four, four,
(1)四ツ 四ツ 四ツノ

ラツ オヌ ズイ フロウア
Rats on the floor.
(2)鼠ガ (3)床ノ上ニ(居ル)

(1) 此文は韻文即ち歌でありますから、韻を履んである。

一{one × 三{two ヲ 五{three リー 七{four -ア
二{run × 四{you ヲ 六{tree リー 八{floor -ア

此通りである面白いではありませんか。 in a tree と on the floor との前には「are (居ル) と云う語が略してあるのです、これは歌の調子がわるくなるからである。

(2) 名詞の複数. bird, cat, rat は前によみましたが、これは一個を表する単数の語です、これをして數個を意味せしむるには、前にも述べた如く、語尾に「s」を附けます、即ち本課にある如くにするのである。 ts は「ツ」、ds は「ッ」と響く。名詞はどれでも大抵は此通り語尾に s を附けると複数になるのです。

第十五課 Lesson 15.

ōōd	ウフ	ōll	オル	mām	マム
gōōd	グフ	dōll	ドル	mām mā'	マムマ
gā	ガイ	li	ライ	new	ニユウ
gāve	ガイヴ	like	ライク	to	ト(ツ)ル

on と in の意味はいかん。

新語 NEW WORDS.

good 善キ doll 人形 mamma 母 gave 與エタ
like 好ム new 新ラシキ hat 帽子 to =

(原書には小女が人形を抱き居る畫あり)

Ann has a new doll.
(1) あんが (3) 持テ居ル (2) 新ラシイ人形ヲ

Her mamma' gave it to her.
(1) 彼女ノ 母ガ (3) ソレヲ與エマシタ (2) 彼女ニ

(1) it は人形を指す。(2) 前の her は「彼女の」と云う意、後のは「彼女に」という意、同形なれど用格が違がう。

Ann likes the doll, and
(1) あんが (3) 好ム (2) 此 人形ヲ (4) ソレダカラ

will get it a new hat.
(6) ソレニ買テヤリマシヨウ (5) 新ラシイ帽子ヲ

(1) and は上より受けて「それだによつて」と輕ろく言う言葉です。(2) will は「……しようと思ふ」と云う意味の語である。

to の音は「ト」に「ツ」の中間の音にして、舌端を前上齒と上顎との間に着けて發音すべし。

ア- ヌウ エ アド ガール
 Are you a good girl?
 (3) アルカ (1) 汝ハ (2) 善イ 女ノ兒テ

ドッ ヌウ ライク エ ドル
 Do you like a doll?
 (4) マスカ (1) 汝ハ (3) 好ミ (2) 人形ヲ

likes) どちらも好むという語で、意味は同様だが、な
 like } せ一つには語尾に「s」が附て居ますか。此事
 は鳥渡初學者に合點させるのが六ヶ敷いが、
 (複数) the girls like } という二文を比較して御覽な
 (単数) the girl likes } さい、girl が複数だと like
 に「s」を附けないが、girl が単数だと like に「s」を附
 けてある、まづ此ために「s」の附くと附かぬとになるの
 です。

第十六課 Lesson 16.

0	オウ	mē	ミー	mī	マイ
tō	トウ	mā	メイ	ūt	ウト
tōō	ト(ツ)ウ	māy	メイ	put	プト
rī	ライ	tā	タイ	wī	ワイ
ride	ライド	take	タイク	with	ウィズ

do の音は第九課を参照せよ。do はどう云う時に用いま
 すか? will の意を説明してお見なさい。

新語 NEW WORDS.

0 オー me 私ト、ニ my 私ノ
 too 亦 may ヨロシイ put 冠アル
 ride 乗ル take 連レ行ク with 共ニ

Ann, ^{ウィル ヌウ テイク エ ライド} will you take a ride ^{ウィズ ミー} with me?
 (1) おあんサン (3) アナターツ乗リマスカ (2) 私ト一緒に

(原書には男女二人の小供が馬車の側に立つ畫あり)
 Will.....take a ride の四語にて、「一つ乗りますか」と
 おあんの心持ちを尋ねたのです。take a ride を譯して
 「乗りを取る」などというは、甚だよくありません、日本には
 るんな言葉はない筈です。

オー イエス アイ ウィル
 O Yes, I will.
 (1) エーエー (2) 乗リマシヨウ

メイ アイ テイク
 May I take
 (2) 連レテ行ツテモヨロシイデスカ

マイ ドル トッ
 my doll, too?
 (1) 私ノ 人形 モ

(1) O Yes は待ち設けたる様に「エーエー勿論」と云
 う意。will の後にtake a ride with you を加えて御
 覽なさい。May I take は「連れて行つてもよろしいか」
 と相手の許しを請う意です。too は人形「も」という語。

with はどんな種類の詞ですか?

(1) I will } の I は英語には一々付けて云う
 May I take } 慣習なれども、日本語にては一々
 譯するに及ばざる場合が多い、但し稽古中は成るべく譯
 する方がよろしい。又 I (私) は常に大字にて書する例
 です。

イエス ユウ メイ テイク ズィ ドル
 Yes, you may take the doll.

(1)アア (2)アナタハ (4)連レテ行テモヨロシイ (3)人形ヲ

Ann will put on her hat, and
 (1)あんハ (3)被アリマシヨウ (2)彼女ノ帽ヲ (4)而シテ

テイク ハー ドル トッ ライド
 take her doll to ride.
 (5)彼女ノ人形ヲ連レテ (6)乗リマシヨウ (will)

take の前に will が畧してある。 will take her doll
 to ride を「乗るべく彼女の女の人形を取るであらう」など
 と譯するは、甚たよくありません。これも日本語ではな
 い。日本語でないわけのわからぬ言葉に譯するなら、初
 から譯さぬがよい、國語はどこまでも重んじて、これを攪
 亂しないようにつとめるのは、日本人の義務である、但し
 漢字は支那のもので且つ不便なものだから、これはどう
 でもよろしい、余の云うのは日本の「言葉」を重んせよと
 いうのだ、誤解してはなりません。

may の意味を聴かせてください。

第十七課 Lesson 17.

th	ズ	fī	ファイ	ōw	オウ
thāt	ズアト	fīve	ファイヴ	snōw	スノウ
they	ズエイ	vēr	ヴェー	prēt	プレト
thōse	ズオーズ	vēr'y	ヴェリ	pret'ty	プリティ

新語 NEW WORDS.

that アノ five 五ツノ snow 雪
 they 其レ等ハ very 甚 pretty 奇麗ナ
 those 其レ等ノ we 我等ハ

(原書には兩兒の馬車に乗り居る畫あり)

How fast we ride! I like to ride,
 (1)ドウモ速ヤク (2)行キマス子 (1)私ハ乗ルヲ好ミマス

and my doll likes it, too.
 (2)而シテ (3)私ノ人形 (5)ソレヲ好ミマス (4)モ

it は to ride を指す。

Ann, do you see those five
 (1)おあんサン (4)汝(アナタ)ハ見マスカ (3)アノ 五羽ノ

little birds on that tree?
 小 鳥ヲ (2)アノ 木ニ居ル

that は單數} ですが、日本語では此の如き場合に、同
those は複數} じく「アノ」と言うのみで、その單複は
前後の言語にて區別します。

オー イエス アイ スィー セエム アー プエイ ナト
O Yes, I see them. Are they not
(1) オーソーチ (2) ソレが見エマス (2) アリマセンカ

ヴェリ プリテイ バーツ 此様な所は日本語にて
very pretty birds? は, they は I と同じ
(1) 甚タ 奇麗ナ 鳥デハ

く、譯さないでも意義が通じます。

Yes. They are snow-birds.
ソウデス (1) アレハ (2) 雪鳥デス

O Yes, I see..... } O Yes は次の文に接續して居る
Yes. They..... } から、「,」にて切つてありますが、
Yes は次の文と關係がありませんで、只上の間に應じて、
「そうです」と言つて、其事はそれぎりで終わりますから、
「,」を以て切つてあります、此邊の事をよく注意なさい。

第十八課 Lesson 18.

音讀復習 Reading Review.

また復習の課が來ました。諸君もだいふ語を覚えま

本文の中から働詞をお舉げなさい。

したから、もうさつさと讀めましようと思ひます。 サア
やつて御覽なさい。

I.

I see one dog and two cats. Do you
see the three birds in the tree, and the
four rats on the floor? (第十四課參照)

II.

Yes, and I see the new doll my good
mamma' gave to Ann. I like the doll.
It is a very pretty one. May I take it
to ride? (第十五、第十六及第十七課)

III.

O Yes, and I will put on my hat and
take a ride, too. Do you see me with
my doll? (第十六課)

IV.

Do we not ride fast? See those five
snow-birds in that tree. Are they not
pretty birds? (第十七課)

those は何語の複數ですか? 形容詞を擧げてお見なさい。

摘要講話 第三

1. 第十四課と ^{ワズ} { one (一) ^{トウ} two (二) ^{スリー} three (三) }
 第十七課の { ^{フォー} four (四) ^{ファイブ} five (五) }

此れが日本の一三四五で、英語の形容詞である。

2. 第二十課の *in a tree.* } 前にものべました
 第十八課の *in that tree.* } 如く、*in* (内=) や
 ” *in the tree.* } *on* (上=) は「てに
 第十四課の *on the floor.* } をは」の様なもの
 第十七課の *on that tree.* } で、語句の間の關

係を表す言葉だから、中々大切です、其意味や用法に注意して能く世話をして下さい。

3. 第十五課の *to her.* } 此 *to* (=) *with*
 第十八課の *to Ann.* } (ト共=) の二語
 第十七課の *with me?* } も矢張 *in, on* と
 第十八課の *with my doll.* } 同じく前置詞で

あつて、語句の間の關係を表す語です、これは新參ものですが、*in* や *on* 同様に御忘れなく可愛いがつて下さい。實に此關係詞といふものは、讀者がどんな六ヶ敷い書物を読む様に進歩しても、きつと諸君の側を離れない、股肱の忠臣ですから、諸君も其つもりで、今からよく目を掛けてやらんければならんと思います。

4. 英語の働らきの詞、即ち働詞には、現在、過去、未來といふ三段の時間を表わす法があります。例へて見ると第十五課の

Ann has a new doll. の *has* は現在

Her mamma' gave it... の *gave* は過去

Ann.....will get it の *will get* は未來です。

此三段の區別をよく注意して讀みませんと、間違います、まだ細目もあるが、それは追々どにしましょう。

5. これまで既に學んで來た、人稱代名詞の中 第一人稱のものを一緒に勢い揃えをして見ると、

	單 數	複 數
第 一 人 稱	I 私ハ、ガ	we 私等ハ、ガ
	me 私ニ、チ	(us 私等ニ、チ)
	my 私ノ	(our 私等ノ)

です。尤も括弧の内に入れてあるのは、これまでは出ませんかつたが、もうじきに出て來る筈ですから、此所に吹聴して置きます。第一人稱即ち談話人の代名詞は、英語にてはこれぎり、外にはありませんから、速やく記憶して置くがよろしい。

6. *can* } *can* は「出来る」「能う」などの意 }
may } *may* は「よろし」「許す」などの意 }

此二字も常に用ゐる字で大切です。

第十九課 Lesson 19.

綴字練習 Spelling Exercise.

	lā	lē	lī	lō	lū	lȳ
	(レイ)	(リー)	(ライ)	(ロウ)	(リュウ)	(ライ)
b	b-lā	b-lē	b-lī	b-lō	b-lū	b-lȳ
(ブ)	ブレイ	ブリー	ブライ	ブロウ	ブリュウ	ブライ
e	e-lā	e-lē	e-lī	e-lō	e-lū	e-lȳ
(ク)	クレイ	クリー	クライ	クロウ	クリュウ	クライ
f	f-lā	f-lē	f-lī	f-lō	f-lū	f-lȳ
(フ)	フレイ	フリー	フライ	フロウ	フリュウ	フライ
g	g-lā	g-lē	g-lī	g-lō	g-lū	g-lȳ
(グ)	グレイ	グリー	グライ	グロウ	グリュウ	グライ
p	p-lā	p-lē	p-lī	p-lō	p-lū	p-lȳ
(プ)	プレイ	プリー	プライ	プロウ	プリュウ	プライ
s	s-lā	s-lē	s-lī	s-lō	s-lū	s-lȳ
(ス)	スレイ	スリー	スライ	スロウ	スリュウ	スライ

第一編にも述べた通り、綴字発音には第一熟達しなければ、英語は進みません。そこで之に熟達するには、唯くりかえしくりかえし何十偏も大聲にて讀みより外に方法はありませぬ。馬鹿らしい様だが、初學の人は小學校の生徒にかえつた心持ちで、無暗に暗誦するがよろしい。しかしながら發音の理合は、篤と書物の説明を讀んで、よく考へて、すつかり之を合點して居なければ、なりません。

第二十課 Lesson 20.

ād	アド	g	グ	hē	ヒー	hȳ	ハイ
bād	バド	gō	ゴウ	hēre	ヒーア	whȳ	ホイ
īd	イド	ōf	オフ	āv	アヴ	Rō	ロウ
dīd	ダイド	ōff	オフ	hāve	ハヴ	Rō'vēr	ロウヴァー

新語 NEW WORDS.

bad 悪シキ **go** 行ク **here** コラ **why** ナゼ
did ナシタ **off** 去ル **have** 連レ行ク **Ro'ver** 犬名

Here, Rover, here! **That is my hat!**
ヒーア ロウヴァー ヒーア スアット イズ マイ ハット
コラ ロウヴァー コラ (1)ソレハ (2)己レノ帽子ダヨ

Do not run off with it!
ドゥ ナト ラヌ オフ ウィズ イト
(2)逃ゲルナヨ (1)ソレヲ持テ

(原書には犬が帽子をくわいて走るのを小供の追う畫あり)

(1) here は此所では「コラ」「コレ」など譯するがよろしい、「こゝ」と譯しては違います。(2)「！」此印は感動點であるから、音讀するにも譯讀するにも、その心持ちでお讀みなさい。それだから此處には「ヨ」という感動詞

を加えてあります。(3) with は前に「と共に」としてあつたが、此所では、「持て」という意になるのです。

(4) run off は二語にて「逃げ去る」という意です。(5) is は「……ダ」といふ意、摘要講話第一(六二頁)を参照せよ。Do not run に就ては摘要講話第二(七八頁)を参照せよ。

ユウ アー エ バド ドグ トッ ラヌ オフ
You are a bad dog to run off
(3)手前ハ 悪ルイ 犬ダ (2)逃ゲテ行クトハ

クイズ マイ ハト ナト
with my hat. You are not
(1)己レノ帽子ヲ以テ (1)手前ハ (3)ナイ

グド
a good dog. are not は二語にて「無い」と譯す。
(2)善イ 犬デハ

You are a bad dog } 此二文は意味が同一
You are not a good dog } です。

ホライ ディド ゴウ オフ
You bad dog! Why did you go off
手前 悪ルイ 犬ダ (1)ナゼ (3)手前ハアツチエ行ツタカ

with my hat? You bad dog! は You are bad dog の意味なれど、語氣が迫まつて「are」を畧したのです、日本語にもかようなのがよくあります。

代名詞を本文の中から名指してお見なさい。

第二十一課 Lesson 21.

it	イト	aw	オー	ft	フト	eat	カト
kit'ty	キタイ	saw	ソー	soft	ソフト	catch	カッチ
ûr	アー	ts	ツ	sh	シ	all	オール
fûr	ファー	its	イツ	she	シー	small	スモール

新語 NEW WORDS.

kitty 小猫 saw 見ヌ soft 柔ラカキ catch 捕エル
fur 毛皮 its ツノ she 彼女ガ、ハ small 小サキ

(原書には大猫が箱の上にて鼠を捕りたるを小供と小猫が見て居る畫あり)

ズイス イズ マイ リトル キタイ
This is my little kitty.
(1)コレハ (3)アル (2)私ノ 小サキ 小猫デ

ハウ ソフト アンド ホワイト イツ ファー イズ
How soft and white its fur is!
(2)ドウモ 柔カ デ 白ク (1)ソノ毛皮ガ (3)アルヲ

イズ イト ナト プリテイ ズイ カト イズ
Is it not pretty? The cat is
ソレハ奇麗デハナイデスカ (1)此猫ガ (3)居ル

オヌ ズイ ボクス
on the box.
(2)箱ノ上ニ

She saw a big rat and
 (1)此猫が (3)見タ (2)大キナ 鼠ヲ (4)而シテ

ran to catch it.
 (5)ソレヲ捕エントテ走ツタ

to catch it は上の如く譯すがよろしい、又は「それを捕えるために」とするもよろしいが、此 to という語を兎角「べく」と譯し、「捕えるべく」云々など云うは、よろしくありません。to catch 二語を一語と見ればよろしい。

The kitty was too small to catch
 (1)此 小猫ハ (5)アツタ (4)餘リ 小サク (3)捕エルニハ

the rat. (1) too ハ前には「亦」即ち「も」と譯
 (2)アノ 鼠ヲ しましたが、此所では「餘り」又は「過ぎる」と譯す。(2)此 to catch も上の説明の如く「捕えるべく」と譯してはいけません。此文意は「小猫はあの鼠を捕えるには小さすぎた」というのです。

名詞を五個列記してお見なさい。

第二十二課 Lesson 22.

il	イル	æk	アク	mēr
hill	ヒル	bæk	バク	mēr'ry
dō	ドウ	boy	ボーイ	vēr
down	ダウン	boys	ボーイズ	ō'vēr

新語 NEW WORDS.

ho ホー(掛聲) hill 小山 mer'ry 愉快ナル
 up 上 back 後 over 上テ
 down 下 boys 小供等

How, ho! How we go!
 ホウ ホウ ハウ サイ ゴウ
 ホラ ホラ ドウモ善ク行クチー

Down the hill, Over the snow.
 (4)下に (3)小山ノ (2)上テ (1)雪ノ

Ho, ho! Back we go,
 ホウ ホウ バク サイ ゴウ
 ホラ ホラ (4)我等ハカエル

Up the hill, over the snow.
 アプ ズイ ヒル オーヴァー ズイ スノウ
 (3)小山ノ上ニ (2)雪ノ上テ

ダウ^ン ヒル^ズ ア^ンド^ズ オ^ーバ^ーズイ^ズ スノ^ウ
Down the hill and over the snow,

(1)小 山ノ 下ニ (2)而シテ (3)雪ノ 上ニ

ウイ^メエリ^{ボー}イズ^ズ ハウ^{ファ}スト^ウ ウイ^ゴウ[!]
We, merry boys, how fast we go!

(4)我等 愉快ナ 小供ガ (5)ドウモ 速ヤク (6)行クヲ

此文は降雪の後小供が橇に乗りて、阪の上より滑り下りては又登り、滑り下りては又登る様を歌に作つたものです、如何なる様にすべり遊ぶやは、原書の書を参照すれば、粗、わかります。歌である故口調を主としてありますから、語辭の前後しておる所が多い。Back we go は we go back という順序にして見ればよるしい。

第二十三課 Lesson 23.

rā レイ	lěd レド	ou アウ	iv イヴ
rāçe レイス	slěd スレド	out アウト	gīve キヅ
ōōk ヅク	ūrt アート	ow アウ	gīr グアー
lōōk ルク	hūrt ハート	now ナウ	gīrls グァールズ

新語 NEW WORDS. (これも前課と同様の遊びなり)

race 競走 sled 橇 out 戸外 give シムル

look 見ル hurt 怪我 now サー if ナラバ

ズイ^{ボー}イズ^ズ ア^ンド^ズ グ^ァールズ^ズ ア^ー アウ^ト ア^ト プレ^イ
The boys and girls are out at play.

(1)此 男ノ子等 ト 女ノ子等ハ (3)出テ居ル (2)遊ビニ

ルク^アウト^{ボー}イ
Look out, boy!

氣ヲオツケヨ男ノ子

ドウ^ナト^ゲト^ハート
Do not get hurt!

怪我ヲシナサルナ

ウイ^ル ユ^ウ キ^ヅ ミ^ー エ^{ライド}
Will you give me a ride,

(3)マスカ (1)汝(アナタ)ハ (2)私ニ一番乗ヲシメ

リ^ットル^{ボー}イ
little boy?

(4)小サイ男ノ子

give me a ride は「一乗りを私に與える」という意なり。

オウ^{イエ}ス
O yes,

(1)ア、イイトモ

ユ^ウ
you

(2)汝ハ

メイ^{ライド}
may ride

(4)乗ツテモヨロシイ

オ^マイ^ニユ^ウ スレ^ド
on my new sled.

(3)私ノ新ヲシイ橇ニ

ナウ^{ウイ} ウイ^ル ハ^ヴ エ^{レース}
Now, Rover, we will have a race.

(1)サーローグァヤ

(2)一ツ競走ヲシヨウ

ラ^ム ファ^{スト}
Run fast, Rover!

速ヤク走レ ローグァヤ

イ^フ ユ^ウ
If you

(3)ト (1)オ前ガ

ド^ウ ナ^ト ラ^ム ファ^{スト} アイ
do not run fast, I

(2)速ヤク驅ケヌ (4)已レガ

ウイ^ル カ^{ッチ} ユ^ウ
will catch you!

(5)オ前ニオツクン

boys と girls は單數ですか?

- (甲) *Do not get hurt.* } 甲は「怪我をする」
 (乙) *will.....give me a ride* } (傷を得る)
 (丙) *will have a race* } 乙は「乗らしむる」
 (乗りを與える)。丙は「競走する」(競走を持つ)。

英語の組み立法は此の如くして、*have* (持つ) とか、*take* (取る) とか、*give* (與える) とか、*get* (得る) とか云う語を度々用いますが、其譯し方は上の例に従つて、日本語に戻らぬ様にするのがよろしい。

第二十四課 Lesson 24.

音讀復習 Reading Review.

I.

Ann likes her small kitty. Its
 fur is soft and white. It saw
 the cat catch the big rat. (第二十一
 課参照)

II.

Ann likes Rover, too. She saw

run え *fast* を副ねるさどういう意味になりますか?

Rover run off with the hat. Here,
 Rover, here! You are a bad dog!
 Why did you run off with the hat?

(第二十課参照)

III.

Ho, ho! Look at the boys and
 girls. See them go down the hill,
 over the snow. Now they go back,
 up the hill.

(第二十二課参照)

IV.

They are out at play. They will
 not get hurt. How merry they are!
 Ann, I will give you a ride on my
 sled. We will have a race with
 Rover and see how fast we can
 run.

(第二十三課参照)

run off, go down, go back の意味はなんさいいますか?

摘要講話 第四

- 1. 第二十四課の Look at (視る)
- 第二十三課の Look out(注意する)
- 第二十三課の ride on...(乗る)
- ” run fast (速く走る)
- 第二十課の run off...(逃る)
- 第二十課の go off.....(去る)
- 第二十四課の go back (還る)
- 第二十課の go down(下る)

これは皆動詞と他の語が、結び着いて出来た句であります。かように同じ run でも、go でも、look でも、これに結び着く語次第に従つて、意味が違つて参ります。恰も漢字の熟語と同じです。讀書の際によく注意なさい、これに注意するとせんとでは學業の進歩が非常に違います。その違い方は、譬へて云うと月と鼈ほどであります。しかし兎と龜との競争に龜が勝利を得たためしもあるから、ツリツリと一歩一歩進む方がつまり勝ちます、兎の様に飛んではいけません。

- 2. take a ride (第十六課)
 - give me a ride (第二十三課)
 - have a race (第二十三課)
- 此「a」に注意して見ると「一番乗る」とか「一つ競走しよう」とか云う意味である。

3. do you see (第十七課) do.....see は現在
did you go (第二十課) did.....go は過去
です、do と did の相違に目をわつけなさい。

4. How soft... (第二十一課)
How we go (第二十二課)
How fast... (”)
How merry (第二十四課)

此所の How は「どうも」「いかにも」「なんと」などいう感動の意味です。しかし How do you do (御機嫌よろしいか) という時などの How は「いかに」という意味です。そうですから、常に之を譯して「いかに」とばかりいうは、誤りである。

5. 形容詞もだいたい學びました、近いのを少し拾つて見ると、まづこんなものです。

- new (新らしい), good (善き), pretty (奇麗な)
- soft (柔らかき) bad (悪き), small (小さき)
- merry (愉快な) white (白き)

一つ序に諸君に問いたいとがある、鳥渡英語でやります。Are you diligent? (君方は勉強家であるか) と云う。私が言たら、側に居た一人の博言學者が抑も此 diligent (ディリヂェント) は之を日本語に當て、見ると、「チリ々々前途に進む」と云ふ意だと言いました、呵々。

Please excuse me. (御免なさい)

Beg your pardon. (御免を願ひます)

Good night. (ねやすみなさい)

第二十五課 Lesson 25.

綴字練習 Spelling Exercise.

	ā	ē	ī	ō	ū	ȳ
	エイ	イー	アイ	オウ	ユウ	アィ
sp sp	sp-lā spレイ	sp-lē spリー	sp-lī spライ	sp-lō spロウ	sp-lū spリュウ	sp-lȳ spライ
se sk	se-lā skレイ	se-lē skリー	se-lī skライ	se-lō skロウ	se-lū skリュウ	se-lȳ skライ
sp sp	sp-rā spレイ	sp-rē spリー	sp-rī spライ	sp-rō spロウ	sp-ru spルウ	sp-rȳ spライ
st st	st-rā stレイ	st-rē stリー	st-rī stライ	st-rō stロウ	st-ru stルウ	st-rȳ stライ
se sk	se-rā skレイ	se-rē skリー	se-rī skライ	se-rō skロウ	se-ru skルウ	se-rȳ skライ
sh sh	sh-rā shレイ	sh-rē shリー	sh-rī shライ	sh-rō shロウ	sh-ru shルウ	sh-rȳ shライ

以上の綴りと発音は、前から順序を履んで勉強して来た方には、容易くわかると思ひますが、念のため一應述べましょう。

sp $\left\{ \begin{array}{l} \text{lā} \text{ --- } \text{splā} \text{ 此の様になるのです。} \\ \text{lē} \text{ --- } \text{splē} \text{ 此に注意すべきは、l と} \\ \text{lī} \text{ --- } \text{splī} \text{ r の発音の相違です、第} \\ \text{ライ} \text{ 一編の R と L の発音} \end{array} \right.$

方を参考して誤らぬ様になさい。

第二十六課 Lesson 26.

ōm	オム	wā	ウェイ	āt	アト	sō	ソウ
rōm	ロム	wāy	ウェイ	hāt	ハト	sōō	スウ
fōm	フロム	āwāy'	アウェイ	what	ホウト	sōōn	スウーヌ
eōme	カム	bē	ビー	thēre	ズエア	of	オフ

新語 NEW WORDS.

from カラ away' アチラ what ドウモ soon 直ニ
come 來ル be アル there ソコニ of ノ

Bad boy! bad boy! Come down
(1) 悪ルイ 兒ダ (2) 悪ルイ 兒ダ (2) 降リテオ出テ

from that tree. Do not take the eggs.
(1) 其木カラ (2) 取りナサルナ (2) ソノ卵ヲ

from the nest. What a bad boy, to take
(1) 其巢カラ (2) ドウモ 悪ルイ 兒ダ (2) 取ルトハ

the eggs of a bird! 此文は小兒が樹上に登り
(1) 鳥ノ卵ヲ て巢から卵を取らんとする
るを止むる様を書いたものです。

off は「オフ」、of は「オフ」を發音す。

(1) Come down は二語にて「降りて来れ」の意となる、前課の go down (降る)を参照なさい。

(2) from that tree } 此 from の意味に注意なさい、
from the nest } 「横濱から」とは from Yokohama とかきます。

(3) 第二十課の

You are a bad dog to run off with my hat. と
what a bad boy, to take the eggs of a bird!

とを比較して見ると文の組立方がよくわかる。

ゴウ アウェイ バド ボーイ ドゥ ナト テイク
Go away, bad boy; do not take
(1)アチラ=行キナサイ (2)悪ルイ 兒 (4)取りナナルナ

ズイ エグズ アンド スーン ズェア ウィル ビー
the eggs, and soon there will be
(3)卵 チ (5)ソウスレバ直キニ (8)出来 マ ス

スリー プリティ バーズ イヌ ズイ ナスト
three pretty birds in the nest.
(7)三羽ノ 奇麗ナ 鳥ガ (6)其巢ノ 中ニ

(1) Go away (アチラ=行ク) } を互に比較して考
go down (降ル) } えると、よく意味
go up (登ル) } もわかり又英語の
語法もわかります。

(2) and は卵を取らなければという意味となる。

egg を複数にするにはどうしますか? and の用法は如何?

(3) there will be は「産れ出るならん」という意味です、be は元來「ある」という意味であるから、此くの如き意義となるのです。若し「そこに三羽の奇麗な鳥があるであろう」などと譯したならば、少しも意味がわからぬ。これ迄の直譯という譯方は大抵今いう様な不都合な譯し方をしたのであるから、そんな馬鹿な真似をせん様にしたいものです。

第二十七課 Lesson 27.

Rō	ロウ	ŭm	ウム	är	アー	üb	アブ
oy	オイ	rŭm	ラム	ärch	アーチ	rüb	ラブ
Roy	ロイ	drŭm	ドラム	märch	マーチ	rüb'-ä-düb'	ラブアダブ
ēat	イート	ŭn	ウム	ŭn	ウム		嚙入ノ原書
bēat	ビート	gŭn	グム	fŭn	フム		参照

新語 NEW WORDS.

Roy 人名 drum 太鼓 march 進ム rub/adub' 太鼓ノ音
beat 打ツ gun 鐵砲 fun 面白イ

ノウ ロイ ヌー ビート ズイ ドラム アンド
Now, Roy, you beat the drum, and
(1)サーロイサン (2)君ハ (3)太鼓ヲオタキ (4)ソウスレバ

ウィ ウィル マーチ アイ ハヴ マイ ニュウ
 we will march. I have my new
 (5) 僕達ハ進ムヨ (1) 僕ハ (3) 持テ居ル (2) 新ラシイ

ハト アンド グァン ナウ ゴウ ナム ラブ ア ダブ
 hat and gun. Now go on. Rub-a-dub,
 帽子ト鐵砲ヲ サーヤレヤレ ドンドコドンドコ

ラブ ア ダブ ヒア ウィ ゴウ マーチ
 rub-a-dub! Here we go! March,
 ドンドコドンドコ ホラ行クゾ 進メ

マーチ マーチ ドゥ ユウ ライク トゥ マーチ
 march, march! Do you like to march,
 進メ 進メ (2) 君ハスキカエ (1) 進ムヲ

ロイ Roy? 本課の文は小供が六七人にて兵隊の真似
 (3) ろいサン をして居る様を寫したのです。

(1) and は上より受けて、そうすればといふ意味です。
 (2) my は譯せざるも意味が明です。 (3) go on は「やれ」と云ふとです。

イエス ホワト ファム イト イズ トゥ ビート エ ドラム
 Yes. What fun it is to beat a drum
 アー(スキダ) (4) ノハドウモ面白ロイ子 (1) 太鼓ヲ打テ

アンド マーチ ウィズ エ グァン
 and march with a gun!
 (2) 而シテ (3) 鐵砲ヲ持テ進ム

it は次の文即ち「太鼓を打つて而して鐵砲を持って進む」と云ふとを受けたのです。そのとが「どうも面白い」といふのである。さて又此所の Yes は「ピリオド」の點

で切つてあるから、次の文とは少し縁が離れて居るので、第十七課の説明を参照なさい。

第二十八課 Lesson 28.

ēd	エド	ān	アヌ	ūr	アー	āp	アプ
nēd	ネド	ānd	アンド	our	アウア	āp'ple	アプル
ēt	エト	hānd	ハンド	your	ユーア	ōm	オム
lēt	レト	nō	ノウ	ūs	アス	sōme	サム

新語 NEW WORDS.

Ned 人名 hand 手 your 汝ノ apple 林檎
 let... ショウ nō 否 us 私共 some 幾個

(畫入原書参照)

ヒア 子ド カッチ ズイス アプル
 Here, Ned, catch this apple
 (1) コラ ねごサン (3) 此林檎ヲ取リ

イヌ ユーア ハンド
 in your hand.
 (2) 君ノ手テ

ノウ アイ ウィル カッチ イト イヌ マイ ハト
 No, I will catch it in my hat.
 (1) イイエ (3) ソレヲ受ケヨウ (2) 私ノ帽子テ

Ned は Edmund の略。

(原書には兄が林檎の木に登りて菓實を取り弟が樹下にて之を受取る畫あり)

前の文と此答を對照して見るどころなる。

Here, Ned, catch this apple in your hand.

No, I will catch it in my hat.

ナウ アイ ハヴ イト
Now I have it.
サ ア 取 ツ タ

ホソト エ ビク アプル
What a big apple
ドウモ 大キナ 林檎

イト イズ
it is!
ダ 丁

I will catch の I
I have it の I と it
it is の it } コレ等の語は一々譯を附けないでもわかる場合には略するも勝手です、此所にその例を示して置きます。

レト アス テイク サム トッ マムマ
Let us take some to mamma'.
(3)持ッテ行コウデハナイカ (2)幾ツカ (1)オツ母サンノ所へ

Let us は「私等をして……させろ」と云う意味ですから、Let us take は「持つて行こうではないか」と譯するのです。此の風で、Let us go は「行こうではないか」、Let us run は「走けようではないか」と譯すがよろしい。此本文を譯して、「私等をして取らしめよ」などいうは穩當でありませぬ。

it は何を指しますか? Let us take を譯してお見なさい。

オウ イエス シー ライクス ズエム
O Yes, she likes them.
(1)ア、ソウダ (2)オ母サンハ (3)林檎ガオ好キダ

アイ ウィル ゲト ハー サム
I will get her some.
(1)私ハ幾ツカヲオ母サンノタメニ取ロウ

(1) she は「彼女」、them は「其れ等を」という意なれど、日本語にては此の如き場合に多くは代名詞を用ゐず、其實物を稱するもね、上の如く譯したのです。her も同様です。(2) some は若干という意味で、その数は定つて居ません。

ウイ ウィル テイク ズエム トッ ハー
We will take them to her
(1)私等ハ (2)ソレヲ持テ行コウ (3)オ母サンニ

イン マイ ハト
in my hat.
(2)私ノ帽子ニ入レテ

オウ ヒーア イズ エ ズェリ ビク アプル
O here is a very big apple.
(1)ア、コノニ (3)アル (2)極ク 大キナ 林檎ガ

ウイ ウィル ギヴ ハー ズイス ワン トッ
We will give her this one, too.
(2)オ母サンニ上ケヨウ (1)此モノモ

(1) one は林檎の代わりに用ゐたる語として、日本語の「此のもの」「彼のもの」などの「もの」に相當します。
(2) 此課には will という語が、いくつもあります。

I will catch } この will は前にも言つた通り、
 I will get } 「好み」や「決心」を示す言葉でし
 we will take } て、I will は小供の一人が「こ
 we will give } うしたい」というので、we will

は二人の小供が言うのです。

第二十九課 Lesson 29.

hē	ヒー	mā	メイ	mō	モウ	ād	アド
hēre	ヒーア	ma'nŷ	メンニ	mōre	モーア	lād	ラド
whēre	ホエア	ēar	イーア	pō	ポウ	glād	クラド
ap'ples	アップルズ	nēar	ニア	pōnd	ポンド	ām	アム

新語 NEW WORDS.

ap'ples (複数) ma'ny 多ク more モット多ク glad ヨロコバシイ
 where 何處 near 近キ pond 池 am アル

(林檎を母のもまに持来りたるまこゝろ)

ルク Look, マママ mamma'! スィー See
 (1)ゴランナサイ (2)コラオ母サン (3)ゴランナサイヨ

ズイ ビク アブルズ ウイ ハヴ
 the big apples we have!
 (4)此 大キナ 林檎ヲ (1)私共ノ 持テ居ル

オー ホエア デイド ユウ ゲト ズエム
 O where did you get them?
 (1)アヲ何處テ (2)オ前達ハ得マシタカ (3)ソレ等ヲ

フロム ズイ ビク アブル トリー ニーア ポンド
 From the big apple-tree, near the pond.
 (3)カラ (2)アノ大キナ林檎ノ木 (1)池ニ近キ

ドゥ ユウ ライク マママ
 Do you like apples, mamma'?
 (1)アナタハ林檎ヲ好キアスカ (2)オ母サン

オー イエス アイ アム グラド トゥ
 O Yes. I am glad to get them.
 アソウサ好キダヨ (2)私ハ悦バシイ (1)ソレヲ得テ

ハウ メンニ ハヴ
 How many have you?
 (1)イ ク ツ (2)オ前達ハ持テ居ルカエ

ファイヴ アンド ズエア アー モーア
 Five, and there are more
 (1)五ツデス (2)而シテ (1)モットアリマス

オム トリー
 on the tree. How many & more の次に
 apples が省略してあります。
 (3)アノ木ニ

メイ ウイ キヴ サム トゥ アヌ
 May we give some to Ann?
 (3)ヤツテモヨウゴザイマスカ (2)チツト (1)あぬニ

May は許可を請ふ言葉。

イエス シー ライクス アブルズ トゥ
 Yes. She likes apples, too.
 (1)彼女 (3)林檎ヲ好キダヨ (2)モ

第三十課 Lesson 30.

音讀復習 Reading Review.

Boy, come down from that tree!
Come away, and soon there will be
little birds in the nest.

What a bad boy, to take the eggs
of a bird. (第二十六課参照)

Did you see the boys with the drum
and gun, Ned?

Yes. I saw Roy beat his drum,
rub-a-dub, rub-a-dub! I am glad
the boys have a drum. It is fun
to march, march, march! (第二十七
課参照)

Will you give me the apple you
have in your hand, Ned?

No. I will give this one to mam-
ma'. I have some more apples in
my hat, and will give you one.

Let us see how many you have.
One, two, three, four, five. Where
did you get them, Ned?

From the big apple-tree, down near
the pond. (第二十八、九課参照)

摘要講話 第五

1. 第二十六課より第二十九課までに新に學んだ語は
三十あります。其中第一に注意すべきは、第二十八課の
no と其他の yes です。

no } no は「いゝえ」「否な」「そうではない」「然らず」
yes } yes は「はい」「そうです」「然り」などいう語に
て、最も多く使用せらるゝものです。此兩語の使い方は
日本語とは少し違がう所がありますから、一寸注意して
置きましょう。

(甲) 君は書物を持 { yes (持て居ます) } 日本語と同じ
つて居ますか { no (持て居ません) }

(乙) 君は書物を持 { yes (持て居ます) } 日本語と反對
て居ませんか { no (持て居ません) }

from は何種の言葉でして何さいう意味ですか?

甲の問に對する答は日本語と同様なれど、乙の問に對しては、日本にては、持つて居なければ、「はい (yes) 持つて居ません」と答え、持つて居れば「いいえ (no) 持つて居ます」と答うるを通例とするのです。然るに英語にては、甲乙いづれの問に對しても、持つて居るときは yes、持つて居ぬときは no と返答します。此事はよく承知して居ないと、トンマ間違が起るかも知れません。

2. 摘要講話第三に第一人稱の代名詞をならべて説明したとき、もうおきに出て來るといいました us (私等 =, 予) が二十八課にありました、それから第二人稱の代名詞も大抵揃つた様だから、これも排列して見ましょう。

	單 數	複 數
第 二 人 稱	you 汝ハ、ガ	you 汝等ハ、ガ
	you 汝ニ、キ	you 汝等ニ、キ
	your 汝ノ	your 汝等ノ

此通り單數も複數も語の形は同じです。此第二人稱といふのは談話を仕掛けらるゝ人を指している代名詞でして、此外に古體の形ちもあるが、まづ通例はこればかりですから、なんのぞうさもありません。日本語だとそれは種々様々の語があります、君、あなた、お前、そこ、貴様、其許、貴殿、尊君、など擧げて見ると際限がありません。

3. 次に話して置きたいのは、文体の事です。これ迄の諸課を見るに色々な文句がありますが、要するに次の四種です。

- 肯定文 其例 you like apples.
- 否定文 „ you do not like apples.
- 疑問文 „ Do you not like apples?
- 命令文 „ Do not take the eggs from the nest.

4. それから音讀をするときに、句讀即ち音聲の切り方の事を能く心得て居らねばならんです。極くわかりやすく云うと

「,」コンマ の處は一番短い切れ目で、一と算える間聲を停め聲は其儘の調子で抑揚はしないのです。

「;」セミコロン の處は「コンマ」よりも少し長くし、一二と算える間聲を停め且つ音調を低くするのです。

「:」コロンの處は一二三四と計える間聲を停めて音調を低くするのです。

「.」ピリオド の處は文(センテンス)の終りでありますから、一番長く停止します、即ち一二三四五六と算える間停聲して聲を低くするのです。

「?」インタロゲイション の處は、其疑問が yes か no で答えらるゝときには、聲が揚がり、そうでない時には聲が下がる、而して一二三四五六と算する間停止す

るのである。

「！」エキスクラメーションの處は驚嘆悲喜を表はすつもりで読み、單語の次にあるときは、例せば O! の如き單語の次にあるときは、一と算える間停止し、聲を揚げるのです。一文(センテンス)の終りになるときは、一二三四五六と算える間停止し且つ聲を低くするのです。

第三十一課 Lesson 31.

綴字練習 Spelling Exercise.

讀者諸君！如何ですか、最早だいふ進んで來ました、第二編になつてからも、三十一課という聲を「聴くようになり、毎課の冒頭には、きつと新語の綴字發音を解剖して、ちやんと食べやすく、又こなれやすい様に、滋養を專一にして來ました、おまけに綴字練習を數回やりましたから、諸君の英(營)養も定めし増したに相違ありませんが、餘り滋養もすぎると、毒になるろうですから、Reader(讀本)の料理は暫時引きまして、Grammar(文法)という舶來の薄茶を一服献じたいと思います。(講義の分冊には次に文法を入れまして、紙數は別に付け、他日合本にするの便利を計りました。) 就ては、少し古るくさい昔話の様であります、第一編の終りの方(第一編第八課と第十課)に

ありました、綴字發音の規則を此所でもう一度さらつたら、どうだろうと心附きました。故きを温ねて新らしきを知るとは、孔夫子の曰はれた千歳不磨の格言です、それに又孔夫子は三十にして立つと言はれた、我々も最早三十課年、否や第一編の十課年を加えると、分別さかりになりましたから、余輩の此心附きも尤でしょう。さて上の三則はどうであつたか、鳥渡三十九頁と四十六頁を開けて見ましょう。

第一則 同音節(つり)の中にて、父字の次に母字があつてそれで其音節が終れば、其母字の音は長く延びる。

第二則 同音節の中にて、母字の次に父字があつて、それで其音節が終れば、其母字の音が短くつまる。

第三則 父音にて終る短母音の音節の末尾に「e」字が加わるさ前の短母音が延びて長くなる、但し此末尾の「e」字は無聲にて音を發せず。

まづ此通りでした、此所に前に出した例を掲げますから、よく理屈を考へて、確かと覺えてお置きなさい、もしまたわからん所があるなら、早速質問書を講師に送りたまへ、尤も以上の三則に當てはまらん例外のものも少しはありますが、それ等はほんの少しばかりで、算うるには足りません。

(1) are は前に説明した通り、「在る」といふ意味ですから、此所では「来ました」というとに當ります。第二十六課の *will be three pretty birds.....* の「will be」(在るであろう)を「出来るだろう」と譯したのと同じ流義です。よそから池の側にやつて来たことになる。(2) ship は三本桅の船です。(3) one は ship の代わりに置いた語でして、「もの」という意味であるから「の」と譯してあります。

(4) May I take it? (本課)

May I take my doll.....? (第十六課)

これをくらべて御覽なさい。どちらも May があるから許るしを請う言葉です。

^{イエス} Yes, ^マ you may; ^バ but ^{ハート} do not hurt it.
 (1) ア、持テモヨウゴザイマス (2) ガガ (3) ソレヲカ損ツテナイヨ

^{ウイル} Will it ^{セイ} sail ^{ファスト} fast, Ned? fast は前にもあり
 ソレハ速ヤク走ルカエ ねつゴサン ました。

ride fast how fast } 此の如くです。故に語は
 run fast sail fast } 前に暗記すれば後に活用
 すると囊中の物をさぐる様です。語學上達の秘傳は熟
 讀と暗記にあります。

Yes, ^{ヴェリ} it will sail very fast.
 (1) ア、 (2) ソレハ (1) 走リマス (1) 甚々速ヤク...

fast に very を加えて、速やさの度を示す。此の如き very は副詞といひます。

Mamma', ^マ may ^{アイ} I have a ship,
 (1) マツ母サン (5) ヨウゴザイマスカ (2) 私 (4) 船ヲ持テモ

too? ^{アイ} Yes, ^{ナラ} if ^{オ前ガ} you ^{グド} are a good
 (3) モ (1) アイヨ (4) ナラ (2) オ前ガ (3) 善イ娘(コ)

^{グァール} girl, ^{アイ} I ^{ゲト} will get ^{ナイス} a nice one
 デアル (5) 私ハ (8) 買ツテ上ゲヨウ (7) ヨイノヲ

^{フォー} for you. for は「爲めに」という意味にて、in,
 (6) オ前ニ on, at などと同様に前置詞であります。

第三十三課 Lesson 33.

bōok	ブック	oyz	オイズ	sk	スク
mān	マン	toyz	トイズ	āsk	アスク
ōl	オル	ēft	エフト	āme	エイム
ōld	オールド	lēft	レフト	eāme	ケイム
īsh	イシ	nōw	ノウ	fūn	ファン
dīsh'eg	ディシエズ	knōw	ノウ	fūn'nŷ	ファンニ

for の意味ハ如何?

新語 NEW WORDS.

book 書物 toys 玩具 ask 問ウ
 man 人 left ^{オイテ} _{イツタ} came 來ツタ
 old 老タル know 知ル fun'ny 妙ナ
 dish'es 皿

(男女の小兒兩人が色々の玩具を眺め居る畫あり)

O Roy, ^{ルク} ^{ヒーア} do look here! ^{ホソト} What
 (1) オイろーいサン (2) コ、チゴ 覽ヨ (1) ドウモ

^{プリティ} ^{トイズ} pretty toys! ^{ホエア} Where ^{ズエイ} ^{カム} did they come
 (2) 奇麗ナオモチヤダ (1) フコ (3) ソレガ來マシタカ

^{フロム} from? Here ^{ドラム} is ^{シブ} a drum, a ship, and
 (2) カラ (1) 此ニ (4) アル (3) 太鼓ト 船ト

^{トプ} a top ^{フォー} ^{ユー} for you; and ^{ドル} a doll, ^{ブック} a book,
 獨樂ガ (2) オ前ノ (5) 而シテ (7) 人形ト 書物

^{サム} and some little dishes ^{リトル} ^{ディシズ} for me.
 ト 少シバカリノ小サイ 皿ガ (6) 私ノ

for you } for の用法を視よ。お前の爲めに、私の爲
 for me } めに他所から贈りて來たの意味なり。

Did ^{ママ} mamma' ^{キダ} ^{ズム} give them to us,
 (4) マシタカ (1) オ母サンガ (3) ソレチ下サイ (2) 私達ニ

Roy? ^{ノウ} O no, ^{フニ} ^{オールド} a funny old man
 (5) ろーいサン (1) イ、エ (2) 或ル妙ナ 老人ガ

^{ケイム} came and ^{レフト} left them for us.
 (3) 來 (4) チ (6) ソレチオイテ行ツタノ (5) 私達ニ

What old man was it, Roy?
 (1) ドンナ老人デ (2) ソレガアツタカエ (3) ろーいサン

I do not know what old man it was,
 (3) 私ハ知リマセン (1) ドンナ老人デ (2) ソレガアツタカ

but we will go and ^{アスカ} ask mamma'.
 (4) シカシ私達ハ (7) マシヨウ (5) 行ツテ (6) オ母サンニ聽キ

^{リトル} Little girls and boys, do you know
 (1) 小サイ 女ノ兒 ト 男ノ兒達ヤ (4) アナタ方ハ知ツテ居マスガ

^{フカ} who left the toys for Roy and Ann?
 (3) 誰レガ玩具ヲオイテ行ツタカ (2) ろーい ト あーんノタメ

此最後ノ一文は記者ガ讀者ニ向つて問いたる言葉です。此玩具の「いつの間にか」此所に置かれたるは、これ歐米諸國に行わるゝ一種の奇風によるものです。即ち基督教を信奉する國々に於ては、年々十二月二十五日に基督の降誕祭を行ふ習にて、老幼婦女の之を楽しみ待つと、

本邦に於て正月を待つが如くである、其日には小兒え贈物をするは勿論、大人も相互に物品を贈答すると最も盛にして、日本の歳暮に物品を遣り取りする様でして、特に小兒のためには、種々の玩具などを靴足袋に入れ、小供の寝て居る間に枕元につるし置き、これはサンタクローズといふ肥えた白髪の老人がやつて来て置いていつたんだというのです。本文に小兒が兩人にて玩具を見出したるは、即ち此老人の贈物だともいたまえ。

第三十四課 Lesson 34.

Mā	メイ	īn	イヌ	ūn	アヌ	āde	エイド
Mā'ry	メイリ	tō	ト	dēr	ダー	māde	メイド
hō	ホウ	īn'tō	イント	ūn'dēr	ウンダー	āy	エイ
hōld	ホールド	chīcks	チクス	wēll	ウェル	hāy	ハイ

新語 NEW WORDS.

Mary 女名 into 内 under 下 made 成シタ
hold 持 chicks 雛 well 井 hay 乾草

ルク 子ド ヒーア 子スト
Look, Ned, here is a nest!
(1) コラ ネドサン (2) コ、ニ (3) 巢ガアルヨ

Look は御覽という意味ですが、「コラ」という注意の言葉であるから、上の如くに譯するもよろしい。

イト メイド ズイス ヘイ アンド
It is made in this hay, and
(2) 造ッテアルノ (1) 此枯草ノ内ニ (3) 而シテ

ホウルド ヘヌ
the old hen is in it. (1) It は巢を指す代名詞ですが、前に巢といいましたから、一々譯を附けないでも、It is made を合わせて「造つてある」と言えばよろしい、尤も譯を下しても差つかえはない。(2) the old hen はそこに居る「老いたる牝鶏」をいう。

プト ユーア ハンド イント マリー
Put your hand into the nest, Mary.
(2) アナタノ手ヲガ入レヨ (1) 巢ノ中ニ (3) めいりサン

into は「外から内へ」という意味のある語でして、此所では put into の二語にて「外から中に入れる」という義になるのです。これも to や from と同様前置詞です。

オ ノ ザ ヘン ウィル ノット レット ミー
O no, the hen will not let me!
(1) イ、ニ (2) 此牝鶏ハ (3) 私ニ入レサセマスマイヨ

will not let me put my hand into the nest を

will の意味を説明ないさ

畧して, will not let me と言つたので, 即ち will not let は「.....することをさせますまい」という意味です。

^{バト} But, ^{マリー} Mary, ^{ホールド} I will ^{ハー} hold her.
(1) ソウダケド めいリサン (2) 私が鶏ヲオサエテ居マシヨウ

her は牝鶏を指す, 前にも言つた如く, 生物の雌雄に従つて, 代名詞が違がいます。女や牝鶏や牝牛などは, 皆女性の代名詞で受けます。其他月や船やなど 静穩なものは, 雌雄の別がなくとも, 女性の代名詞を用ゐる例です。或る説によると, 古の野蠻人中には, 男の用ゐる名詞と女か用ゐる名詞とが違つて居つて, 女の用ゐる名詞は女性の代名詞で受け, 男のは男性の代名詞で受けたりする。それで其慣用が今尚ほ存して居つて, 古の女の用いた語は, 事實女性でなくとも, 女性の代名詞にて受くるのであると云います, 或はそうかも知れません。

^{ウェル} Well, ^{ネド} Ned, ^{イフ} if ^{ユウ} you ^{カヌ} can ^{ホールド} hold ^{ハー} her,
(1) ソウカエレジサン (4) ナラ (2) アナタガ (3) 鶏ヲ持テ居ラレル

^{プト} I will ^{ハンド} put ^{イントゥ} my hand ^{子スト} into the nest.
(7) 入レマシヨウ (6) 私ノ 手ヲ (5) 巢ノ 中エ

will hold } 前には will hold と言ひ, 後には can
can hold } hold といふ。一つは「持つて居ましよう」一つは「持つて居ると出来る」といふことになる。

O Ned, ^{ズエア} there are ^{サム} some ^{リトル} little ^{チクス} chicks
(1) アラレジサン (4) 居マスヨ (3) 幾ツカ小サイ雞ガ

^{アウダー} under the hen! ^{アー} Are there?
(2) 牝鶏ノ下ニ 居マスカ

^{テイク} Do take ^{オフ} her off ^{フロム} from the ^{子スト} nest ^{アンド} and
(2) 牝鶏ヲオ取シナサイ (1) 巢ノ中カラ (3) 而シテ

^{スィー} let us ^{ズエム} see ^{ザム} them. take.....off は二語にてを取んなさい。
(4) ソレヲ見マシヨウデハナイカ

let us see them (それを見ましようではないか)

let us take some (幾つか持つて行こうではないか)

此の如く, 本文と第二十八課の文とを比較して, let us の用法を考へて御覽なさい。

第三十五課 Lesson 35.

âre	エーア	ōod	ウーフ	īx	イクス
eâre.	ケーア	fōod	フーフ	sīx	スイクス
ēar	イーア	ēed	イーフ	īek	イク
dēar	ディーア	fēed	フィーフ	chīek	チク
tēr	ター	hī	ハイ	īngz	イングズ
wā'tēr	ウァーター	hīde	ハイフ	wīngz	ウィングズ

Let us see の譯に注意なさい。

新語 NEW WORDS.

care 世話 food 食物 six 六
 dear 可愛イ feed 餌ヲヤル chick 雛
 water 水 hide カクス wings 翼

^{ノウ} Now, Ned, ^{オフ} the hen ^{チスト} is off the nest,
 (1) サー ねごサン (2) 牝 鶏 ガ (3) 巢ヲ 離レ マシタ

and we can see ^{チクス} the chicks. ^{ズエム} There are
 (4) カラ (6) 見ラレマス (5) 雛 チ (2) 居マス

^{スイクス} six of them. is off は「離れて居る」の意.
 (1) ソノ六ツガ we can see は「私達は見ると

が出来る」の意味ですから、上の如く譯するがよろしい。
 There は發語の言葉で、別に意味はありません、are と共に合わせて「居る」と譯す。

^{ディーア} O the dear ^{リトル} little ^{チクス} chicks! ^{ハウ} How ^{プリティ} pretty
 アラ 可愛ラシイ 小サナ 雛ダコト (1) ドウモ可愛ラシイ

^{ズエイ} they are! they は雛を指す代名詞ですが、譯語の
 (2) コト子一 都合より譯を下さいるもよろし。

We ^{ウィル} will ^{フィード} feed ^{ズエム} them, Mary.
 (1) 私達ハ (3) 餌ヲヤリマシヨウ (2) ソレニ (4) めいりサン

them は何を指しますか。

Yes, I will ^{ラヌ} run and
 (1) エー (2) 私ハ (7) シヨウ (3) 走ケテ行テ

^{ゲト} get ^{サム} some ^{フード} food and ^{ギヴ} give ^{ズエム} them
 (4) 少シ 食物ヲ 持ツテ來テ又 (6) 雛ニヤリマ

^{ウチーター} some water.
 (5) 少シ水ヲ

^{ヒーア} Here, ^{チク} chick, ckick, chick! Here
 (1) コラ (2) ヒヨチ ヒヨチ ヒヨチ (1) コノニ

is some water ^{for} you.
 (3) 水ガアルゾ (2) オ前達ノ

a nice one *for* you (32 課)
 some little dishes *for* me (33 課)
a top *for* you (33 課)
 some water *for* you (本 課)

これ等を比較して for の用法と意味を考へて
 くらんなさい。

^{ウィル} Will the old hen ^{テイク} take ^{ケア} care of
 (4) シヨウカ子一 (1) 此婆サン鳥ハ (3) 世話ヲシマ

them, Ned? them は雛の代名詞にて、「それ等を」と譯するもよろしいが、

they と them の用法はどう違いますか。

日本語では「雛を」と譯する方よろし。

O yes. She will hide them
エーエー (1) 牝鶏ハ (3) 雛ヲカクシマシヨウ

アンダー
under her wings.
(2) ソノ翼ノ下ニ

本課の中に

will hide }
will run and get } があります。此 will はいづれ
will hold..... } も、意向を示す言葉で又未來の
will put } 事を云うのです。これ迄も度々
will feed } 々出會いましたが、能く目を掛
けて (take care of) おやんな
さい。

又 under the hen }
under her wings } の under は「下」という意味
の前置詞です。

第三十六課 Lesson 36.

音讀復習 Reading Review.

See, mamma! What a nice ship Ned has!

Yes, it is a very nice ship. You and

Ned may go down by the pond and sail it, but do not get into the water.

(以上第三十二課参照)

Come, Ned, let us go. Did you see Roy?

Yes, and I saw the pretty toys the funny old man left for Mary.

What old man, Ned?

I do not know, but he came and left a ship, drum, book, and some little dishes.

O how good! Look, here is Mary.

I will ask her to let me see them.

(以上第三十三課参照)

Now let us go and see the nest the hen made in the hay.

Well, come on. Mary will go, too.

Here is the hen, Ned. Let us see if

there are some little chicks under her.

Ned, you hold the hen, and Mary will put her hand into the nest.

Is there a chick under her, Mary?

O yes. Take the hen off the nest.

Well! well! Do look at the dear little chicks. One, two, three, four, five, six of them.

Run, Ned, get some food, and we will feed them.

Will the hen take care of them?

Yes, she will hide them under her wings.

(以上三十四、五課ヲ參照)

此音讀復習の中で鳥渡耳新らしく聴ねる文句は
 may go down by the pond. (池の側へ下つてもいい).
 do not get into the water. (水の中はおは入りでない).
 O how good! (オーどうも善いこと).
 Well, come on. (サアお出で).

Do look at the dear little chicks (此可愛らしい小さい雛を御覽よ).

let us go. (行きましょう).

to let me see. (私に見せて呉れる様に).

let us see if (か) there..... (何々が居るか見ましょう).

(if は下より回えりて何々が居る「か」という疑問です).

摘要講話 第六

1. 冠詞の事で一言注意して置きましょう。

{ 甲 a girl 此 a は girl を形容して居る。
 乙 a good girl 此 a も girl を形容して居る。

{ 甲 a ship 此 a は ship を形容して居る。
 乙 a very nice ship 此 a も ship を形容して居る。

{ 甲 an egg 此 an は egg を形容して居る。
 乙 an old egg 此 an も egg を形容して居る。

{ 甲 the chicks 此 the は chicks を形容して居る。
 乙 the dear little chicks 此 the も chicks を形容して居る。

「甲」の行にある a と an と the の冠詞が何の名詞を形容するかというとは、讀者諸君にすぐわかるでしょうが、「乙」の行の a と an と the とは、名詞との間に

外の語があるから、どの詞を形容するか、或はわからんかと思ひます。 どうですか、たゞい外の語が間に挿まつて居ても、冠詞はやはり其次に来る名詞を形容して居るのです、これは何處まで行つても、通例は此通りであります。

2. can と may とは意味が違ひますが、間違ひ易いから、又々此所にも一言しましょう。

Can I go? (私は行くことが出来ますか) 自分力の有無を問う。

May I go? (私は行つてもよろしいか) 自分が行くのを許るすや否を問う。

You can go. (汝は行くことが出来る) 汝は行く力がある或は権利がある。

You may go. (汝は行つてもよろしい) 汝に行くことを許るす。

まづ通例はこんなものと思つて居ればよろしいです。英文を學ぶに大切な要點は、かような文字の用法や意味にあるのですから、篤と覚えてお置きなさい。

3. What old man was it? } 此 was は「あつた」
What old man it was? } と云ふ意味で、is という語の過去の形ちです。

The cat was small but she is big now. (此猫は小さく「あつた」(was) けれども、今では大きく「ある」(is), という例でよくわかりましょう。

現在 it is { he is { she is { さいう様になり
過去 it was { he was { she was { ます。

4. 摘要講話第五(百十六頁)に二人稱の代名詞を掲げましたが、次に是までに學んだ第三人稱の代名詞を掲げて置きますから、時々参考して能く記憶する様になさい。

單 數

男 he	彼ハ、ガ	his	彼ノ	(him 彼ニ、ヲ)
女 she	彼女ハ、ガ	her	彼女ノ	her 彼女ニ、ヲ
中 it	ソレハ、ガ	its	ソレノ	it ソレニ、ヲ

複 數

男 they	彼等ハ、ガ	(their 彼等ノ)	them 彼等ニ、ヲ
女 they	彼女等ハ、ガ	(their 彼女等ノ)	them 彼女等ニ、ヲ
中 they	ソレ等ハ、ガ	(their ソレ等ノ)	them ソレ等ニ、ヲ

第三人稱

此様に第三人稱は少し語數が多いが、それは單數だけのこと、複數は男性、女性、中性がみなおなじとであります。兎に角英語の人稱代名詞は、前に出した第一人稱及第二人稱と此に掲げたもののみでして、これ等は第一に記憶しなければ、讀書作文に忽ちこまるから、一勉強やつつけるです、なんの苦もないとです。him と their はまだこれまで讀みませんかつたが、便宜のために掲げました。さて中性とは男女の區別のわからないもの木や石や書物などの類を云うのです。

第三十七課 Lesson 37.

綴字練習 Spelling Exercise.

これ迄は音節の首めに一定の父字を加える練習をなしてきましたが、これからは音節の尾りにある父字の發音を練習するにします、尤も首めにあると尾りにあるとの違いでして、發音に相違があるのではありません。

b (ブ)	tăb タブ	wěb ウェブ	nīb ニブ	fōb フォブ	rūb ラブ
d (ド)	hăd ハド	rěd レド	dīd ディド	gōd ゴド	mūd マド
g (グ)	băg バグ	lěg レグ	fīg フィグ	dōg ドグ	jūg ジャグ
m (ム)	jăm ジャム	gēm ジエム	hīm ヒム	dōm ドム	hūm ハム
n (ヌ)	făn ファン	hěn ヘン	pīn ピン	cōn コン	sūn スン
p (プ)	măp マップ	hōp ホプ	līp リップ	tōp トプ	cūp カップ
t (ト)	răt ラト	gět ゲト	sīt サイト	lōt ロト	būt バト
x (クス)	wăx ワックス	sěx セクス	mīx ミクス	bōx ボックス	fōx フォクス
r (アー)	băr バー	tēr ター	mīr マー	fōr フォー	păr パー

第三十八課 Lesson 38.

dō ドウ	ink インク	āy エイ
Fī'dō ファイドウ	thīnk シンク	sāy セイ
ēr アー	ch チ	ēe イー
ōth'er オズアー	ēach イーチ	sēem スイーム
ūp アップ	pīes ピズ	f フ
pūp バブ	pūppīes パッピズ	ful フル

新語 NEW WORDS.

Fī'do 犬名	think 考エル	say 言フ
ōth'er 他	each 各	seem 見エル
puppies 小狗	full 満ッル	

(原本には親犬が一疋の鼠を前に置いて坐わり居り小狗三四疋がそれを見つめ居る畫あり)

Here (1)此所ニ	are (3)居マス	my three little puppies. (2)私ノ三疋ノ小サイ 小狗ガ
----------------	---------------	---

Are (3)アリマ	they (1)彼レ等ハ	not (4)セヌカ	pretty? (2)奇麗デハ
---------------	-----------------	---------------	--------------------

(1) they は小狗を指す。They are not pretty. と書き改むればどういう意味になりますか。pretty は

they の形容詞である。

Old Fido has a rat. See
 (1)老イタルふあいどうガ (2)一正ノ鼠ヲ持ツテ居ル (3)御覽ナサイ

how the puppies look at it.
 (1)ドウモアノ 小狗等ガ (2)ソレヲ見ツメテ居ルノチ

(1) how は感動の意を含み、「どうも」「いかにも」などという語です。

See how he makes it spin! (11)

How soft and white.....! (21)

此二文の how と同じ意味である。(2) look at は「見る」。it は鼠を指す。

They think it will hurt them if
 (6)小狗ガ思ツテ居ル (5)ソレガ彼等ヲ害スルデアロウト (4)ナラバ

they go too near it.
 (1)彼等ガ (3)餘リ近ツク (2)ソレニ

go near it } 此二句を比較して too に注意なさ
go too near it } い。it は何を指して居ますか。

They seem to say, "Take it away,"
 (4)小狗等ガ言フ様ニ見エマス (1)ソレヲアチラエ持テ行ツテ下サイ

mamma', we do not like it."
 (2)オ母サン (3)私共ハソレヲ好ミマセント

(1)「“ ”」は他人の言葉を其まゝに引用するとき用ゆる記號として、「クォーテーションマーク」といいます。此所では、此記號の内の言葉は、小狗の言葉です。(2) to say は「言う様に」という意味なり、「言うべく」と譯するはよろしくない。

Take.....away (本課) } これで away の意味
 Go away (26) } と用法を考へて御覽な
 Come away (30) } さい。

The puppies are full of fun. I
 (1)此小狗ハ (3)居マス (2)戯ムレタガツテ (1)私ハ

like to see them play with each other.
 (4)見ルノガスキマス (3)彼レ等ノ遊ブノチ (2)互ニ

(1) full は満つる, fun は戯れ遊ぶ意味。(2) to see は二語にて「見る」。(3) play with は二語にて「遊び戯ひる」。

Will you have one of my puppies?
 (2)アナタハホシイカ (1)私ノ小狗ノ一正ヲ

of は此の如き場合には「の中の」という意義です。full of fun の of は「で」「以て」の意義です。

第三十九課 Lesson 39.

ēd	エド	sī	サイ	ēer	イーア	ēar	イーア
rēd	レド	side	サイド	stēer	スティア	fēar	フイーア

新語 NEW WORDS.

red 赤キ side 側 steer 梶ヲ取ル fear 恐レル

(原本には男女二人の小供が橋に同乗して阪を滑り下る 畫あり)

スィー スレド
See my sled. (男)
(2)御覽 (1)私ノ橋ヲ

レド
It is red. (男)
ソレハ赤クアル

Will you ride (男)
(2)汝ハ乗リマスカ

サイド
By my side? (男)
(1)私ノソバニ

スティア
Can you steer? (女)
汝ハ梶ガ取レマスカ

フイーア
Do not fear. (男)
恐ル、コトアリマセン

ハウ
How we go. (男或ハ女)
(1)ナント (3)行キマス

スノウ
On the snow!
(2)雪ノ上ヲ

(1) By は「側に」という意味にて, side と will ride との関係を表わす前置詞. side は「側ら」という名詞です. (2) How は前課の how と同意である. (男)は男兒の言. (女)は女兒の言.

第三十九課 Lesson 39. (續)

ǎek	アク	il	イル	ēar	イーア
Jaek	ジャク	Jil	ジル	lēar	リーア
rǎek	ラク	al	オール	clēar	クリーア
trǎek	トラク	fal	フォール		

新語 NEW WORDS.

Jack 男兒ノ名 Jill 女兒ノ名 clear 開ケル

track 通り路 all 皆 fall 落トス

(原本には男女二人の小供が橋を下りて,これを阪の上に引き揚げてある畫あり)

クリーア トラク
Clear the track! (男)
(2)アケル (1)通り路ヲ

ホールド
Hold me, Jack! (女)
私ヲツカマエテヨちあくサン

フォール
Let you fall? (男)
オ前ヲ落サセルトカ

オール
Not at all. (男)
ソレナ事ハ決シテナイ

オー ホット ファン
O what fun! (他)
ア、ドウモ面白イ

バック ラン
Back they run, (他)
(2)彼レ等が走りモドル

ヒル
Up the hill, (他)
(1)小山ノ上ニ

Jack and Jill. (他)
(3)ちあくトちるガ

(他)は傍觀者の言. (1) Let you fall? は男兒が女兒

の言いたる言葉を繰り反して、「私がオ前を落させるとか」と言い、而して「そんなとは決してない」(Not at all)と自から言いたるのである。

(2) what fun 以下は傍観者の言葉です。

Back they run } 此二句を比較して見ると能
Back we go (22) } く意味がわかる。

They run back } ど改めて見ると尙ほよくわ
We go back } かりましょう。本課の文は
韻文だから順序がかねてある。

第四十課 Lesson 40.

ärt	アート	ing	インク	öng	オンク
tärt	タート	rīng	リンク	rōng	ロンク
stärt	スタート	strīng	ストリンク	strōng	ストロンク
ly	ライ	rȳ	ライ	kī	カイ
fly	フライ	trȳ	トライ	kite	カイト
hurra	フーラー	high	ハイ	kites	カイツ

新語 NEW WORDS.

start	揚ゲツケル	string	糸	strong	強イ
fly	揚ゲル	try	試ミル	kite	紙鳶
hurra	歡聲	high	高ク	kites	(複数)

カム	オム	ホーイズ	レト	フライ
Come on,	boys.	Let us fly		
(1) サア御出テヨ	(2) 皆ンナカ	(1) 揚ゲヨウテハナイカ		

アウ	カイツ	フーラー	ビー	ファム
our kites.	Hurra!	that	will be fun.	
(2) 僕等ノ紙鳶ヲ	(1) ヤー	(2) ソレハ	(3) 面白カラク	

トライ	マイ	ニュー	カイト	Have
I will try	my new kite.	Have		
(2) 揚ゲテ見ヨウ	(1) 僕ノ新ラシイ紙鳶ヲ	(4) 着ケテアルカエ		

you	ストロンク	ストリング	ウィズ	ユーア	ニュー
a strong string	with your new				
(1) 君ハ	(3) 強イ糸ヲ	(2) 君ノ新ラシイ紙			

カイト	Ned?
kite,	Ned?
處ニ	(5) ねじサン

イエス	ヴェリ	ストロンク
Yes,	it is very strong.	
(1) アア	(2) ソレハ大層強イヨ	

(1) 英米國にては、男の子等は一般にその友達を呼んで、boys と云う。その名を呼ぶときも呼び捨てにし、……君、……三などといわず、大人も名(姓にあらず)を呼ぶときは亦しかり。

(2) Let us fly	比較すべし	(3) Come on, boys.
Let us see (30)		Well, come on, (36)
Let us take (28)		Come Ned, (36)
let us go (36)		

(4) strong very strong

Roy ^{ハズ} has a kite.
ろーいが 紙鳶ヲ持テ居ル

How ^{ハウ} high ^{ハイ} it is!
ドウモ高ク揚ガツテ居ル子

Yes, Ned, but my kite ^キ will fly.
(1) ソウダ子ーれニサン (2) シカシ私ノ紙鳶モ (4) 揚ガルダロウ

as ^{ハイ} high ^{ヒズ} as his.
(3) ろーいノノ程ニ高ク

(1) as high as 「程に高く」 his は his kite の畧。

(2) his kite
my...kite
your...kite
our kites } これ等の句を比較して、代名詞の用法を知るべし。

I will try } 比較すべし。
I will go }

Now you hold it, and I
(1) サア 君ハ (2) ソレヲ持テタイデ (3) ソウスレバ僕ガ

will run to give it a start.
(5) 走ルカラ (4) ソレヲ揚ゲツケルタメニ

to give.....a start. は「出立を興える」という意にして、即ち「揚げつける」ということです。

第四十一課 Lesson 41.

ēld	エルド	ōld	オールド	īm	イム	āke	エイク
hēld	ヘルド	cōld	コールド	hīm	ヒム	māke	メイク
nō	ノウ	fūrō	フロウ	fārm	ファーム	dōes	ドズ
nōse	ノウズ	fūrōze	フロウズ	wārm	ウォーム	ēyes	アイズ

新語 NEW WORDS.

held 固メタ cold サムク him 彼ニ、チ
make コシラエル nose 鼻 froze 凍ツタ
warm 温ニ does 爲ス eyes 眼

(原本には二人の男の子が雪にて造りたる人形を見て居る語あり)

Roy, ^{ロイド} did you ^{メイク} make ^{ズット スノウ マン} that snow man?
(1) ろーいサン (3) 君ガ造リマシタカ (2) アノ雪人形ヲ

Yes. ^{ダズ} Does he ^{ルク} not look ^{フニイ} funny?
アハソウダ 彼レハオカシクハ見エナイカ

He is a funny man, Roy.
(1) 彼レハ (2) オカシナ人ダ子ー (3) ろーいサン

What a big nose ^{ホウト} he ^{ヒズ} has, and
(1) ドウモ大キナ鼻ヲ (2) 彼レガ持テイル (3) 且ツ

ビク アイズ トゥ
 big eyes, too!
 (5)大きな目ヲ (4)亦

Will he not fall down? he は雪人形を指す。
 彼レハ倒レハセマイカ fall down 倒レル。

No, I put some water on him.
 (1)イ、エ私ガ (4)掛ケマシタ (3)少シ水ヲ (2)アノ上ニ

The water froze and that held the
 (1)ソノ水ガ (2)凍ッテ (3)ソレデ (4)雪ヲ固メ

スノウ (1) some water は若干の水。 (2) that は
 SNOW. マシタ 掛けた水の氷つたとを指す。 held は雪の崩
 れるのを止めて固めたる意です。

Are you not very cold, Roy?
 (3)アラ (1)君ハ (4)ヌカ (2)大層寒クハ (5)ろーいサン

Yes, come, let us have
 (1)ア、サムイヨ (2)サー (4)シヨウテハナイカ

a good run, and that will make
 (3)一番シツカリ驅ケツコチ (5)スルトソレデ (6)温カニナル

us warm. (1) Come は「サー」と誘い出す言葉で
 (2) good は「充分」の意。 (3) that

は「驅ケツコ」をすることを指す。上の that held the snow の that と同意義です。

let us have } let と make とを比較して見よ。
 make us warm } 一は「しようではないか」という意、
 一は云々すれば私達を温に「する」であろうの意。

第四十二課 Lesson 42.

音讀復習 Reading Review.

Hurra, boys! Clear the track! Here come Jack and Jill on a red sled. Look, Roy! See Jack steer the sled down the hill. Jill is by his side.

Does Jill fear the fast ride? No, Ned, not at all. Jack will not let her fall.

(以上三十九課参照)

Roy, did you say you made that snow man? Yes, I made him.

What a funny nose he has! What big eyes! Will he fall down, Roy?

No, he will not fall. I put some water on him. The water froze and that held the snow.

Let me make one, Roy. O no, it is too cold. Let us go in and get warm.

(以上四十一課参照)

Well, we will start now. Come in and see my little puppies. Here they are, and here is Fido, too. Do you think they are pretty?

Yes, I do. See them play with each other. They seem to be full of fun.

(以上第三十八課参照)

Is this your kite, Roy? Yes, I have two kites. See what a strong string this one has.

Do you like to fly kites? Yes, and pretty soon I will try my new one. It will fly very high.

(以上第四十課参照)

摘要講話 第七

1. 第三十八課から第四十二課までの中で、新に學んだ名詞は次の如くであります、其中から複數のものを指摘して御覽なさい。複數の名詞の語尾には通例「s」がついてあるとは前にも又文法にも説明して置きました。それから男性、女性、中性、普通性の區別も前の文法の中に説明しましたから、これも一々考えて御覽なさい。

Fido puppies side Jack Jill nose
track string kite kites eyes

2. *What a funny nose* (42) } 此の如き *What*
What a big nose (41) } はいづれも副詞
What big eyes (42) } として、*funny,*
What a strong string (42) } *big, strong* な
O *What fun* (39) } きの形容詞を名

狀して居るのであります、皆感動の意味があるのです。但し最後のは、*fun* という名詞の形容詞であります。

3. *full of fun* (甲) } 甲の *of* は何々「に
 } て」の意。
one of my puppies (乙) } 乙の *of* は何々「の
 } 中」の意。

此外に *of* は「ノ」「就て」など色々な意味がありますから、よく考えて譯するがよろしい。度々申した通り此の如

き短かい語の意味をよく理會しなければ、英語に熟達するとは出来ません。

4. *is* は單數の働詞、*are* は複數の働詞であるとは前にも二度言いましたが、尙此所に實例を示しますから、讀者は *is* (いづ) れも、注意 *are* (あ-) るように希望します。

- is* {
 It *is* red (39)
 Yes, it *is* very strong (40)
 How high it *is*! (40)
 He *is* a funny man (41)
 it *is* too cold (42)
 Here *is* Fido, too (42)
- are* {
 Here we *are* by the pond. (32)
 if you *are* a good girl. (32)
 Here *are* my three...puppies (38)
are they not pretty? (38)
 The puppies *are* full of fun (38)
 They *are* pretty. (42)

第四十三課 Lesson 43.

綴字練習 Spelling Exercise.

これからは、語尾に「e」のあるため、前の母音が長く延び

びて長音となる語を掲げて練習しましょう。これ等は即ち發音規則第三によるものですから、第一編の終りにある該規則を参照なさい。語尾の「e」は無聲でして響きませんが、其「e」字は「イタリック」體にて印刷はしません。抑も綴字の練習は、綴字と發音に幾分か規則のあることを教えるのが目的ですから、字形を變えずにおいて、字の位置から、有聲であるか、無聲であるかを自然に判断せしめたいからです。

語尾					
be	bābe	rōbe	lōbe	cūbe	tūbe
(ブ)	バイブ	ロウブ	ロウブ	キュウブ	テュウブ
ce	āce	fāce	īce	rīce	nīce
(ス)	エイス	フェイス	アイス	ライス	ナイス
de	māde	wīde	sīde	rōde	inōde
(ド)	メイド	ウアイド	サイド	ロウド	モウド
fe	sāfe	līfe			
(フ)	セイフ	ライフ			
ge	āge	cāge	pāge	dōge	būge
(ジ)	エイジ	ケイジ	ペイジ	ドウジ	ホウジ
ke	tāke	wāke	līke	jōke	dūke
(ク)	テイク	ウエイク	ライク	ジャーク	デューク
le	pāle	mīle	pōle	hōle	mūle
(ル)	ペイル	マイル	ポウル	ホウル	ミュール
me	eāme	sāme	nāme	tīme	fūme
(ム)	ケイム	セイム	チイム	タイム	フューム

第四十四課 Lesson 44.

ēek イーク	āl アル	īd イド	ēn エヌ
sēek スイーク	shāl シアル	hīd ヒド	thēn ズエヌ
ūt アト	ānd アンド	said セド	whō フウ
shūt シアト	stānd スタンド	(sēd セド)	while ホワイル

新語 NEW WORDS.

seek サガス shall ショウ hid 隠クレテ then ソコテ
 shut 閉ゲル stand 立ツ said 云ツタ who ダレ
 while 間

(原本には一人の小供が木の側に立て眠なかくし他の三人が隠れんさて走せ行く畫あり)

カム ホウイズ ホアト シアル ウイ ドゥ レト
 Come, boys, what shall we do? Let
 (1)サー 君達 (2)何ヲシヨウカ (2)シヨ

アス プレイ ハイド スイーク
 us play hide and seek.
 ヲテハナイカ (1)カクレンホウチ

(1) 第四十一課に yes, come, let us have a good run という文がありました, これを参考すると本文はよくわかる. (2) shall が始めて出て来ました, 此語は will と同じように, 未來の事を表わすものでありますが, 本來の意義を少し説明しましょう. 未來を表わす語は

大抵此二語ですから, 確と記憶してをくがよろしい.

will は「好む」「欲する」「望む」などの意義あり.

shall は「誓」「義務」「何々すべし」などの意義あり.

(2) hide and seek は日本の「カクレンボウ」といふ遊戯と同じ.

O yes, that will be fun
 (1) ア、ソウダ (2) ソレハ (4) 面白イダロウ

フューア ガール オヴ アス フウ シアト
 for all of us. Who will shut
 (3) 僕等ノ皆ソナノタメニ (1) 誰ガ (2) フサグカチ

ヒズ アイズ チド ユウ
 his eyes? Ned, will you?
 (2) (彼ノ) 眼ヲ (1) ネヂサン (2) 君ハ目ヲフサグカ

(1) that は遊戯を指す. (2) will be は「であろう」.

(3) for you (33) } all of us は「我々共の
 for me (33) } 皆」という意で, 是に for
 for us (33) } (ために) を加えたるな
 for Roy and Ann (33) } り. 此所に示した數例
 for all of us (本課) } と比較して御覽なさい.

(4) who は疑問代名詞です. (5) will you の次には shut your eyes という語が畧してある.

Yes, I will shut my eyes while
 (1) ア、 (5) 僕ハ (6) 僕ノ眼ヲフサゴウ (4) 間

you all go and hide.
 (2)君達が皆シテ (3)行ツテ隠レル

(1) これは will you (気がないか)の返答でして、I will は自分の決意を表わす、即ち「そうしよう」という意なり。(2) you all は all of you (all of us 参照せよ)と書いても同様です。

^{ウエル} Well, Ned, ^{スタン} stand
 (1)ソレデハ ねぢサン (2)君ハ (4)立テテ居テ

^{バイ} by that tree.
 (3)アノ木ノ側ニ

^{ズエン} Then Ned ^{シット} shut his ^{アイズ} eyes and
 (1)ソコデ ねぢハ (2)彼レノ眼ヲ フサグ (3)ト

^{ラヌ} the boys ^{オフ} run off ^{トウ} to hide.
 (4)(他ノ)小供達ハ (6)走セ去ツタ (5)隠レントテ

^{プリティ} Pretty soon ^{セド} Ned said,
 (1)ホドナク (2)ねぢガ言ツタ

^{オール} "Boys, are you all hid?" ^{イエス} Yes?
 (3)君達 君達ハ皆シテ隠クレタカ イ、カエ

^{ヒーア} Well, here I go. ^{ワヌ} One, ^{トウ} two, ^{スリー} three,
 ソウカニ ソラ 行クセ (1)一(ヒノ) 二(フノ) 三(ミ)

^{ルク} look out ^{フォー} for me."
 (3)用心ヲナシ (2)僕ノ

(1) while と then は副詞であるが、while は上の用例にては、亦た二文を結びつける接續詞です。(2) pretty は「可なり」の意、soon は「速やか」の意であるから、上の如き意味になる。(3) look out for me は「僕がさがしに出掛るから用心をしろ」という意なり。(4) his eyes, my eyes, という様に一々 his 或は my を附けるは英語の常です。日本にてはかく一々代名詞を用ゐるとはありませんから、これを譯するには、その心持ちにてしなければいけぬ。

第四十五課 Lesson 45.

änk	アング	rēd	レド	äck	アク	äp	アブ
Fränk	フランク	Frēd	フレド	bläck	ブラック	cäp	カブ
ärn	アーヌ	hä	ハー	pÿ	パイ	müst	マスト
bärn	バーヌ			spÿ	スパイ	find	ファインド

新語 NEW WORDS.

Frank 男兒名 Fred 男兒名 black 黒キ cap 帽子
 bärn 納屋 ha ヤー spy 目附ケタ must 必須
 find 見出ス

^{ズイ} ^{ボウイズ}
The boys

(1) 小供等ハ

^{オール} ^{ヒド}
are all hid.

(2) 皆ンナ隠レタ

^{ナウ}
Now I

(1) サー 僕ハ

^{マスト} ^{トラリ}
must try

(3) ミナケレバナラン

^ト ^{ファインド} ^{ズエム}
to find them.

(2) 彼レ等ナサガシ出シテ

^{ハー}
Ha!

ヤー

^{スパイ}
I spy you, Fred.

僕ハ君ヲ目附ケタ ふれどサン

You are

(1) 君ハ (3) 居ル

in that box.

(2) 其箱ノ内ニ

(1) must は「云々シナケレバ

ナラヌ」という必至の意義ある

働詞です。(2) them は男兒等を指す。(3) spy は見えぬものを「竊かに捜がし出す」の意にして、探偵の事をも spy という。

I spy you, Roy.

僕ハ君ヲ目附けた るーいサン

You are

(1) 君ハ (3) 居ル

^{アンダー} ^{ズイ} ^{ヘイ}
under the hay.

(2) 枯草ノ下ニ

^{カン} ^{ナト}
I can not find

(1) 僕ハ (3) 目附ケルヲ出来ナイ

Frank.

(2) ふらんくヲ

^{オエア}
O there he is!

アラアスコニふらんくサンが居ラー

I spy you, Frank.

僕ハ君ヲ目附ケタ ふらんくサン

^{カム} ^{アウト}
Come out.

(2) 出テオイテ

^{オグ} ^{バーヌ}
of that barn.

(1) 其納屋カラ

I see

(2) 見エルヨ

^{ユーア} ^{ブラック} ^{カプ}
your black cap.

(1) 君ノ黒イ帽子ガ

I see は「見エル」といふ様な軽い意味の語です。cap は學校帽子の如き形のものをいう、高帽子の事は hat と いう。

Fred,

you

^{シアト}
must shut

^{アイズ}
your eyes

(1) ふれどサン

(3) 君ガ

(5) カクサンケレバナラン

(4) 眼を

^{ナウ}
now,

and

^{スタンド} ^{バイ} ^{トリー}
stand by the tree

(2) 今度ハ

(6) シテ

(8) アノ木ノ側ニ立テ居ナケレバ(ナラン)

^{ホワイル} ^{ハイド}
while we hide.

(7) 僕等ノ隠レル間

I will, boys.

僕ガヤロウ 君達

You go and hide.

君達 行 テ 隠レタマエ

- (1) stand の前に must を入れて看よ。
- (2) while you all go and hide } これを比較して
while we hide. } 見よ。
- (3) I will は前課の Yes, I will shut my eyes... と同意味です。

第四十六課 Lesson 46.

üb アブ	üth アース	äp アブ	ick イク
tüb タブ	bäth バース	wrüp ラブ	sick スイク
awl オール	lāge リーズ	sīs スイス	sō ソウ
shawl ショール	plēase プリーズ	sīs'ter スイスター	

新語 NEW WORDS.

tub 盥(タライ) bath 浴湯 wrap クルム sick 病

shawl 肩掛 please ドウゾ sister 姉妹 so ソレ故

ナウ プリーズ プト キティ
 Now, Ned, please do not put my kitty
 (1) オイ ねごサン (4) 入レテオクレテナイヨ (3) 私ノ子猫ヲ

イントッ バース タブ (1) please は丁寧な言葉
 into the bath tub. に附けて用ゐる語です
 (2) 湯盥ノ中エ

(2) into は「外カラ内ニ」という意味の語です。put...into の二語にて「入れる」意となる。

シスター マスト ギヴ
 Yes, sister, I must give
 (1) イ、エ 姉サン (2) 私ハ (3) ツカワセンケレバナリマセン

ハー バース
 her a bath.
 (3) 猫ニ (4) 湯ヲ

(1) Yes と no の事は 摘要講話第五(百十五頁)に説明しましたが、此所の Yes は do not put..... という命令に對して、否や「入れる」ということを言はんとての返答なる故、「イ、エ」と譯したのです。(2) 日本で男女に拘わらず兄弟といいますが、西洋にては brother (兄弟), sister (姉妹) という別語を用ひまして、男女を區別します。(3) must give は「つかわせねばならぬ」。

ヒーフ ズイ バース タブ ウィズ サム ナイス
 Here is the bath tub with some nice
 (3) 此ニアル (2) 湯盥ガ (1) 少シ許リ 奇麗ナ

ウォーム ウォーター (1) Some は若干。 (2) warm
 warm water. water は温き水即ち湯の義に
 湯ノハ入ッテ居ル なる。

(3) with は色々な味意がある語です。

take a ride with(共に) me (16)

go off with(啣エテ) my hat (20)

march with(持テ) a gun (27)

the bath tub with(ハ入ッテ居ル)

some.....(本課)

これ等の用法を比較して見ると面白いです。兎に角どれも前置詞であります。此様な語に注意することが肝要です。

But, Ned, ^{キティ} kitty ^{ゲト シク} will get sick
 (1) シカシねどサン (4) 小猫ガ (5) 病氣ニナリマスヨ

^{イフ} if ^{プト} you put ^{ウオ-ター} her into the water.
 (3) オ前ガ 小猫ヲ入レルト (2) 湯ノ中ニ

^{シー} She ^{テイク コウルド} will take cold.
 (1) アレガ (2) 風ヲ引キマス

No, I will wrap ^{ラフ} her ^{ウエル} well in the ^{ビク} big
 (1) イ、エ私ハ (3) 善ク小猫ヲクルミマシヨウ (2) 大キナ

^{シカール} shawl, and then ^{ズエヌ} she ^{シー} can not take ^{テイク コウルド} cold.
 肩掛テ (4) ツウスレバ (5) 猫ハ (6) 風ヲ引キマセン

- (1) will get sick は病氣になる。
 will take cold は風を引く。
 can not take cold は引く筈はない。
- (2) will wrap.....well の well は will wrap を名狀して居る副詞です。(3) in は.....「で」の義なり。

^{ソウ} So ^{ネド} Ned ^{ゲイヴ} gave ^{キティ} kitty ^{バス} a bath, and then ^{ズエヌ}
 (1) 前シテねどガ (3) 小猫ニツカラセ (2) 湯ヲ (4) ツレカラ

put her into the ^{ナイス} nice, ^{ウオ-ム} warm ^{シカール} shawl.
 (6) ツレヲ入レマシタ (5) 奇麗ナ暖カイ肩掛ノ中ニ

(1) must give her a bath } give 現在の働詞。
 gave kitty a bath } gave は過去の働詞。

(2) some nice, warm water. } 此兩句を比較なさい。
 the nice, warm shawl. }

nice も warm も共に一つの名詞を名狀する形容詞ですが、「,」にて兩語の間を切つてある。かような例はいくらもあります。

(3) will wrap her well in the..... }
 put her into the..... }

此二句をよく比較して見ると、wrap と in, put と into の関係がよくわかります。

第四十七課 Lesson 47.

ás アス	híp ヒブ	pō ホウ
páss パス	whíp ホイブ	pō'nŷ ホウニ
ēr アー	ēep イープ	gō ゴウ
fást'er ファスター	kēep キープ	gō'ing ゴウイング
ān アヌ	you ユー	ū ユウ
thān プアヌ	yours ユーアズ	ūse ユウズ

新語 NEW WORDS.

pass 超越ス	whip 鞭	po'ny 小馬
fast'er 速ト疾ク	keep 守ル	go'ing 行ツテ
than ヨリモ	yours 汝ノ	use 使ウ

(原本には兩人の男兒が馬に乗りて走る畫あり)

ホールド オン ガク
 Hold on, Frank, you are going.

(1)オ待テヨ (2)君ガ (3)行クノハ

トゥ ファスト カク キープ アブ
 too fast. I can not keep up

(4)餘ンアリ速ヤイ (1)僕ハ (3)附イテ行クナイ

ウイズ ユウ
 with you

(2)君ニ

(5) Hold on は「控えよ」という意味。(2) are going は「現在進み行きつゝある」の意。(3) keep up は「後れぬ様に附いて行くこと」。

ユウズ ホイプ メイク
 Use your whip, Fred, and make your

(1)君ノ鞭ヲ使イヨ (2)而テシ (3)君ノ

ポニ ゴ ファスター カム
 pony go faster. Come up to me

小馬チ (5)行カ (4)速ト疾ク (1)僕ニ追イテキタマエ

and we will have a race.

(2)ソウスレバ (3)馳ケツクアラシヨウ

your pony } 比較すべし。
 your whip }

fast } fast に er を加えると「もつと速く」「一層速
 faster } く」という意味になります。est を加えると「最
 も速く」という意味になります。此事は文典に委しく説明
 しましょう。

make your pony go faster(本課)

make us warm(41)

make の意味と用法に注意なさい。

Now, Rover, we will have a race. (23)

.....and we will have a race. (本課)

此二句を比較して御覽なさい。此通前にちやんと讀んだ
 んです。だからよく復習をすれば前きは「ズンズン」讀め
 ます。余輩は讀者に向つて保證して言うが、若し讀者が
 第一讀本の原本(講義録でない)を「スラ々々」讀むことが出
 来れば、第二讀本は講義録の助けを借りないでも、一卷の
 辭典があれば「サツサ」と讀めます。そうなれば余輩は第
 二讀本の講義を止めることが出来る。余輩は諸君に向て第
 二讀本の講義を讀みたまえというよりも、先づ第一讀本
 を今一度復讀すべしと勸告しようと思ふ。

Well, here we go. Hurra, hurra!
ソレデハ ソラ 行クゾ フーラー ソラ ソラ

Go on, pony as fast as you can,
(1) 進メ 馬ヤ (3) ダケ速ヤク (2) オ前ノ出来ル

and we will catch Frank. we は Frank
(4) 而シテ (5) ふらんくニ追ツ附コウ カツチ と馬を指す。

Here we go (27) } 比較 run as fast as (8) } 比較
 here we go (本課) } 較 as fast as (本課) } 較

We are going faster now, Frank,
(1) 私達ハ (3) 前ヨリモ速イヨ (2) 今度ハ (4) ふらんくサン

and will pass you in the race.
(5) ダカラ (7) 君ヲ追イ越スヨ (6) 競走で

you are going too fast } 現在進みつゝあるの
 we are going faster now } 意味です。

No, Fred, you can not pass me,
(1) イハエふれどサン (2) 君ハ (3) 私ヲ追イ越スコトハ出来ナイ

for my pony can run faster than yours.
(8) カラ (4) 私ノ小馬ハ (7) 走レル (6) ヨリモ速ク (5) 君ノ

yours は「君ノ」という意味で, your horse と同様である, your horse と書すべきを畧して yours と書きたるなり。

our your their } という様に語尾にsがつ
 ours yours theirs } く「...の」という義に
 なるのである。

Well, we will see if he can.
(1) ソウカ子 (3) タメシテ見ヨウ (2) アノ馬が走レルカ

he は Frank の馬を指す。

Let me see if there are 36 } 此 if は疑の言葉で
 we will see if he can (本課) } 「カ」と譯す。

If you do not run fast (23) } 此 if は矢張り疑
 if you are a good girl (32) } の意なれど「ナラ
 バ」と譯す。

第四十八課 Lesson 48.

音讀復習 Reading Review.

音讀復習の文も追々文體を變えて六ヶ敷くなつて來ました。これは諸君の學力が上達して來た證據ですから、誠に目出度事ではあります、これからは少しづゝ注意するにしましよ。

(1) Who said play hide and seek? I did (2)
 Frank.

Well, shut your eyes, Ned, while we go and hide.

(3) Shall I stand by this tree, boys? Yes, we will hide, and then you must try to find us.

Well, go and hide. One, two, three, four, five, six—look out for me, boys.

(4) Here I come. Ha! I see your black cap, Frank. Come out of that barn.

I spy you, Roy. You are hid under the hay, and there is Fred in the box.

Now, Frank, you shut your eyes.

以上は第四十四、五課を参照し、下の意注を見よ。

(1) *Who* will shut his eyes? } *who* は誰れが
Who said play

(2) *I did* は *I did say* の畧。 *said* と *did say* とは同じ意味です。

(3) *What shall* I do..... } *shall* と *will* の意味は
..... *shall* I stand } どう違ふか聽かせて下
we will hide..... } さい

(4) Here I go! は そら行くぞ。
Here I come. は そら來たぞ。

No, Fred, there is my pony, and I am going to take a ride.

Well, I will get my pony and ride, too. Shall we have a race?

Yes, but my pony can run faster than yours.

If I use my whip I can keep up with you, and I may pass you.

以上は第四十七課を参照せよ

(1) *I am going*, 此 *going* は行くという意味ではありません、「云々して居る」という意味になる。乗ろうと「して居る」と譯す。

to take a ride (本課) } take a ride は「乗る」
will...take a ride (16) } と譯す。

(2) *Shall* we have a race? } 兩句を比較して *shall*
we will have a race. } と *will* の意味を見よ。

(3) *can* keep up } *can* は「確かに出来る」意。
may pass } *may* は「出来るかも知れぬ」意

But there is my sister. I must go and see her. What is it, sister?

Please put this shawl over me, Fred.
Wrap me up well, for it is pretty cold.

So kitty did not get sick, did she, sister? O no, kitty is well, but she does not like bath tub, Fred.

以上は第四十六課を参照すべし。

(1) put.....over は「上に掛ける」という意味。

wrap...up は「くるむ」という意味です。

up という語は take up, come up, go up などの如く
付け加えて用ゐると多し。

(2) did she は推し返して、「云々したか」と問う言葉
でして, did she get sick? の畧語であります。

摘要講話 第八

1. 第三十八課より第四十八課の間を一見しますと、
人稱代名詞が大抵揃つて居る様ですから、これを拾つて
次の如く排列して、一々「ハ、ガ、ノ、ニ、ナ」の語格を記
して御覽なさい。

第一人稱

單數	I	my, (mine)	me
複數	we	our, (ours)	us

第二人稱

單數	you	your, yours	you
複數	you	your, yours	you

第三人稱

單數	he	his	him
	she	her, (hers)	her
	it	its	it
複數	they	their, (theirs)	them

人稱代名詞はこれぎりであるとは前にも言いましたが、
が定めて諸君は暗記してお居てであらう。萬一まだ悉く
暗記が出来ないならば、速やくおやんなさい、是を知らな
いでは、讀書も、會話も、作文も何にも出来ない。此事は吳
々も忘れないようにしてもらいたい。括弧の内の mine
(私ノ) ours (私共ノ) hers (彼女ノ) theirs (彼等ノ) はこ
れまでになかつたが, yours と同じ用法です。

2. 凡そ言語の中六ヶ敷のは働詞であります、働詞の
用法をよく研究しなければ、語學に熟達するとは出来な
い。殊に四十四課から四十八課までの間に始めて讀ん

だ, shall, must の如き助働詞 (本働詞の助けをなす詞) は最も注意しなければなりません。

will	can	must	have	has
shall	may		do	does
be	am	is	are	was

これまでに會つた助働詞はこんなものでしたらう。一々その意味と用法を考えて、若しわからんなら、後を見るか質問書を講師に送るかおしなさい吟味もしないで、此關門を通つてはいけな。

3. 摘要講話第七に名詞の複数を指摘すべしといいましたが、その複数の語尾に附いて居る「s」字の音に清濁の違いがある、今普通の規則を示しましょう。

清音 k, f, p, t, th の音が單數名詞の語尾にあるときは、これに附加する「s」は清音です。chicks, ships, cats, kites, などはその例です。

濁音 b, d, g, v, th, m, n, ng, l, r の音が單數名詞の語尾にあるときは、これに附加する「s」は濁音になります。tubs, birds, dogs, hens, wings, girls, eyes などがその例です。

此外 s, sh, ce (s), ch, ge, dge の音が單數名詞の語尾にあるときは、es (單數の語尾に e 字あればこれを除きて) を附加へて複數となし、

其 s は濁音を發す。dishes はその例である。(因にいう此の如く新に附加したる es は一音節である)

以上の規則は働詞の語尾の s の發音にも適用される。

第四十九課 Lesson 49.

綴字練習 Spelling Exercise.

語尾 ne (ン)	māne メイヌ	cāne ケイヌ	fīne ファイヌ	zōne ゾウヌ	tūne テューヌ
pe (プ)	āpe エイプ	pīpe パイプ	rīpe ライプ	hōpe ホウプ	tīpe タイプ
re (ア)	rāre レイア	hēre ホーア	wīre ウワイア	mōre モウア	pūre ピューア
se (ス)	vāse ヴァイス	cāse ケイス	bāse ベイス	dōse ドウス	
te (ト)	āte エイト	gāte ゲイト	kīte カイト	bīte バイト	sīte サイト
ve (ヴ)	hīve ハイヴ	dīve ダイヴ	rōve ロウヴ	wōve ウワーヴ	cōve コウヴ
ze (ズ)	gāze ゲイズ	hāze ヘイズ	māze メイズ	rāze レイズ	crāze クレイズ

凡そ一音節の中には必ず母音一個を有する者です。上に掲げて來た語は、二個の母字がありますが、語尾の「e」は皆な無聲で響きませんから、矢張り一音節の語であります。

第五十課 Lesson 50.

câr エア	ĕg エグ	ōld オウルド	rāid レイド
bear ベア	lēgs レグズ	hōlds ホールズ	āfrāid' アフ レイド
īck イク	pawz オー	ānd アンド	hīnd ハインド
stīck スティック	pawz ホーズ	stānds スタンズ	

新語 NEW WORDS.

bear 熊 legs 脚 holds 持ッ afraid 恐レル
stick 棒 paws 前足 stands 立ッ hind 後口

○ Frank, look at that big dog!
(1) アラふらんくサン (2) 御覽ヨ (3) アノ犬キイ犬ヲ

It is not a dog. Fred, It
(1) アレハ (2) 犬デハナイ (3) ふれどサン (4) アレハ

is a black bear.
(2) 黒イ熊ダ

a dog } a は此所に於ては第一課の
a black bear } It is a dog の a と同じです。

Are you not afraid of him,
(4) 居マ (1) 君ハ (5) セヌカ (3) 恐レテ (2) 熊ヲ

Frank? 此文は「君は熊が恐ろしくはないか」と
(6) ふらんくサン 譯する方適當なれども、原文の語派を
斟酌して、上の如く譯したり。

No, he will not hurt us. Do you
(1) イ、エ 彼レハ (2) 私達ヲ害シマスマイ (4) 君ハ見

not see the man feed him from his
マセンカ (3) アノ人ヲ (2) 彼レニ食物ヲヤル (4) 自分ノ手、

hand? What a funny bear!
カラ (2) ドウモ オカシナ 熊ダ コト

See, Frank, how he stands up
(1) 御覽ヨふらんくサン (2) ドウダイアノ熊ガ (4) 立チ上リ

on his hind legs and holds the stick
(3) (彼ノ) 後口 脚デ (5) 又 (7) アノ棒ヲ持ッヨ

in his paws! Is he strong, Frank?
(6) (彼ノ) 前足デ アノ 熊ハ 強イカチ ふらんくサン

(1) stands up の up は上という意なる故二語にて
立ち上るとなる。

(2) on his hind legs } on は上という意味で物
in his paws } の上に乗るとき用ゐる故

on his hind legs といふ。in は内といふ意味であるから in his paws といふ。

Yes, he ^{グエリ} is very strong, and his ^{アア} fur
(1)ア、彼ノ熊ハ (2)大層強イヨ (3)ソシテ (4)彼レノ毛

coat is ^{ウォーム} warm. strong と warm は形容詞
表(コロモ)ハ (5)温カデス ですが、何語を名状している

か考えておらんさい。

Where ^{ホエア} did ^{ズイ マス} the man ^{ゲト} get him,
(2)何處デ (4)マシタカ (1)アノ人ハ (3)彼レヲ得

Frank?
(5)ふらんくサン

I do not know. We will go and
僕ハ知リマセン 行ツテアノ人ニ

ask him.
尋子ヨリ

- (1) (甲) get him } 甲ノ him は熊を指し.
- (乙) ask him } 乙ノ him は人を指す.

did は do の過去働詞である。

第五十一課 Lesson 51.

ēr	アー	īngz	イングズ	cau	コウ
wēre	ワー	thīngz	スイングズ	caught	コウト
īr	アー	ānce	アンス	dōg	ドク
sīr	サー	dānce	ダンス	dōgz	ドクズ
ēl	エル	ūt	ウト	hūnt	ハント
fēlz	フェル	eūt	カト	hūnt'ing	ハンテイ ング

新語 NEW WORDS.

- were アツタ
- things 事
- caught 捕エタ
- sir 男ノ敬稱
- dance 踊ル
- dogs (複数)
- fell 倒レテ
- cut 切ツタ
- hunting 狩シテ

How do you do, sir?

御機嫌ヨウゴザイマスカ アナタ

How do you do. という言葉は、日本の「御機嫌よろございますか」「御かわりはありませんか」という挨拶でして何人に會うもこれを用いてよろしいが、丁寧に言うときには、これに Sir という語を加ねるのです。Sir は男に對して言う敬語であります、しかしこれを用ゐるとは至つて稀れです。

How do you do, boys?

御カ。ワリハアリマセンカ御子サン達

You have a nice bear there, sir.

(1)アナタハ (3)ヨイ熊ヲ持テオ居テデス子 (2)ソコニ (4)アナタ

We like to see him play.

(1)私達ハ (3)見タイモノデス (2)彼レノ戯ムレルノチ

Where did you get him?

ドコデ アナタハアレテ得マシタ

we like (本課) } like の語尾に s を付けるは
A boy likes (11) } 何故ですか。 働詞は名詞と

反對で、(三人稱の)單數だと「s」を付けるといふとは、前に
に言いました。

I was hunting with my dogs, and

(1)私ガ (3)狩リヲシテ居マシタ (2)(私ノ)犬ヲ連レテ (4)スルト

saw a little bear up in a tree.

(7)見マシタ (6)一疋ノ小熊ノ居ルノチ (5)或ル木ノ上ニ

I cut the tree down, and as soon as

(1)私ガ (2)其木ヲ切り倒シテ (4)イナヤ

it fell, the dogs and I caught him.

(3)ソレガ倒レルヤ (5)犬ト私ガ (6)彼レヲ捕エマシタ

Were you not afraid of him?

(4)居リマ (1)アナタハ (5)センカ (3)恐レテ (2)彼レチ

O no, he was too small

(1)イ、エ 彼レハ (4)チイサ過キマシタ

to hurt me, then.

(3)私ヲ害スルニハ (2)其頃ハ

he was too small.....は「その熊が當時 (then) 餘
り小さかつたから私を害するとは出来なかつた」の意味
である。

You like to see him play, do you?

(1)君達ハ (3)見タイデスカ (2)彼レノ戯ムレルノチ (4)ソウデスカ

前に we like to see him play と小供が言いたる
故に、かく言えるなり。

Yes, sir. What can he do?

ア、ソウデス (1)何チ (2)彼レハスル事が出来マスカ

He can hold a stick in his paws.

(1)彼レハ (4)出来マス (3)棒ヲ持チ (2)(彼ノ)前足テ

dance very well on his hind legs,

(5)大層ヨク踊リ (1)(彼レノ)後足テ

and do ^{メニ} many ^{アズアー} other ^{ファニ} funny ^{フィンケズ} things.
 (6)且ツ (8)スルヲガ (7)多クノ・他ノ 面白イ 事ヲ

(1) can は hold, dance, 及ビ do という語の前ニ一々あるべきを畧したるのである, 即ち and という一の接讀詞で結びつけてあるのです. (2) very は副詞として, well という他の副詞を名狀し, 又 well は dance という働詞を名狀して居るのです. many と other と funny の三語はいづれも things という名詞を名狀する形容詞である.

第五十二課 Lesson 52.

rō	ロウ	ōng	オンク	ilk	イルク
fō	フロウ	lōng	ロンク	silk	シルク
gō	ゴウ	tī	タイ	lōw	ロー
āgō	アゴウ	tīme	タイム	glōw	グロー
rūn'nīng	ランニク	mous'ie	マウシ	wāy	ウェイ
eōm'ing	カミンク	spīed	スパイド	al'wāys	オールウェイズ

新語 NEW WORDS.

fro long 久 silk 絹
 ago 以前 time 時 glow 輝ク

running 走テ mousie ^{甘日} ^{子ズミ} always 常ニ
 coming 來ル spied 見出シタ

(原本には小女が椅子によりて小猫を抱く畫あり)

1.

I have a ^{リトル} little ^{キティ} kitty,
 (1)私ハ (3)持テ居マス (2)一疋ノ小サイ猫ヲ

Her ^{ハー} fur ^{ファー} is ^{ホワイト} white ^{アズ} as ^{スノウ} snow.
 (4)ソノ猫ノ毛皮ハ (6)白クアル (5)雪ノ如ク

In the barn ^{ズイ} she ^{バーヌ} likes ^{ライクス} to ^{アレイ} play,
 (1)アノ納屋ノ内テ (2)ソノ猫ガ (5)遊アヲ好ム

^{ランニク} Running to and fro.
 ケ (4)走テ (3)アチヲコチヲニ

2.

In the barn a little ^{マウシ} mousie,
 (1)アノ納屋ノ内テ (2)一疋ノ小サキ甘日鼠ガ

A ^{ロンク} long ^{タイム} time ^{アゴ} ago,
 (3)久シキ以前

Saw ^{ソウ} my ^{キティ} little ^{カミンク} kitty coming,
 (8)見タ (7)私ノ小猫ヲ (6)來ル

ランニンガ
Running to and fro.
 (5)走ケツ、 (4)アチヲコチヲニ

(1) to play は「遊ぶとを」。これを「遊ぶべく」と譯すべからず。

(2) Running, going } ing は現在を表わす語尾で
 coming } 来る。

(4) to and fro は熟語で、「アチヲコチヲ」の意味である。

3.

アラク アイズ
Two black eyes has little kitty,
 (2)二個ノ 黒イ 眼ヲ (3)持テ居ル (1)小猫ガ

ズアト オールウェイズ グロウ
Eyes that always glow,
 (5)眼ヲ (4) 常ニ 輝ル所ノ

スパイド
And she spied the little mousie,
 (6)而シテソノ猫ハ (10)窺ツタ (9)アノ 小鼠ヲ

Running to and fro.
 (8)走り居ル (7)アチヲコチヲニ

4.

フォーア ツフト ポーズ
Four soft paws has little kitty,
 (1)四個ノ 柔カイ 前足ヲ (2)小猫ガ持ツテ居ル

スイルク ノウ
Soft as silk, I know,
 (3)絹ノ如ク柔カイノ (4) デス

コート マウシ
And they caught the little mousie,
 (5)而シテソレ(足)ヲ (8)捕エマシタ (7)ソノ 小鼠ヲ

Running to and fro.
 (6)アチ ヲチ ト 走り居ル

(1) Two black eyes has little kitty }
 Four soft paws has little kitty }

此文は韻文ですから轉倒させて調子を合わせてあります。これを通常の順序に改めるとどうなりますか、書きかえて御覽なさい。

(2) that は何々する「所の」何という様に前後の言葉の間の関係を示す詞である。これを關係代名詞といひます。

(3) white as snow } この句に倣つて「炭の如く黒
 Soft as silk } く」「石の如く固く」などい
 句を作つて見ると面白い、和英字典を引くと、どうい
 う語でも隨意に出て來ます。

(4) I know は何々「です」といふ意味。談話の中間に you know といへば日本語の「チー」そらだ「チー」といふと同意味であります

第五十三課 Lesson 53.

音讀復習 Reading Review.

Mamma', did you see the kitty catch the little mousie in the barn?

Yes, kitty spied the mousie running to and fro.

I saw her pretty, black eyes glow, and soon she caught the mousie in her paws.

What a pretty kitty she is! Her fur is like silk.

(1) the kitty catch the little mousie... } 現在
she caught the mousie... } 過去

(2) black eyes } pretty は形容詞にて
pretty, black eyes } black と共に eyes を

各状するのです。第四十六課に the nice, warm shawl という句がありました, nice の次に「コンマ」があるが矢張り nice は shawl を名状すると言つた通り此 pretty も eyes を名状して居ます。

(3) like silk (絹の如く) } 此兩句は意味が同一
as silk (絹の如く) } です。

But look, mamma'! There is the man coming with his bear. May I go out to see him?

Yes, Fred, but Frank must go with you.

How well the bear stands up on his hind legs. Yes, and see how he holds the stick in his paws.

O see him dance! What funny things he does!

(1) coming with his bear | (2) in her paws } 比較
must go with you | in his paws }

(3) What funny things } 摘要講話第七にある
What a pretty kitty } what の説明を参照すべし。

Where did the man get him, Frank? Did you ask him?

Yes, and he said that one time, a long

(1) while ago, he and his dogs were out hunting, and saw the bear up in a tree.

The bear was small then, so he was not afraid of him.

He cut the tree down, and as soon as it fell, the dogs caught the bear.

(1) a long *while* ago (甲) } 第五十二課に乙の如く
a long *time* ago (乙) } *time* とあるを今甲の如く *while* と書したが、意味は同様です。 *while* は時間の意味である。

(1) Did they hurt him, Frank? No, the man did not let them hurt him.

See, Frank, the man is coming here.

How do you do, boys?

How do you do, sir?

(2) We like to see your bear play. We think he likes you. O yes, he likes me, for I always take good care of him.

(1) they と them は犬を指す。

(2) we like to see } 前にも言つたが、尙ほ單數と
he likes you } 複數に従つて語尾の違ひを

注意さない。

(3) the old hen take care of them (35) } 比較
I always take good care of him (本課) } 較

本課の文は「彼れ(熊)を能く世話をする」という意味である。

摘要講話 第九

1. 前の摘要講話(第八)に語尾の「s」の清濁音の事を説明しましたが、次の語に就て此清濁音の相違を注意なさい。

	單數	複數	單數 (三人稱)	複數
名詞	leg	legs	holds	hold
	paw	paws	stands	stand
	stick	sticks	likes	like
	thing	things	does	do
	dog	dogs	spies	spy

2. 第五十課から第五十三課までにある形容詞を指摘して見ると、づいぶんあります。「イタリック」にて印刷

する語は皆形容詞です。但し a, an, the は一々は挙げません。

<i>that big dog!</i>	<i>a black bear.</i>
<i>afraid of him</i>	<i>a funny bear</i>
<i>his hind legs</i>	<i>Is he strong</i>
<i>coat is warm</i>	<i>a nice bear</i>
<i>he was too small</i>	<i>many other funny</i>
<i>a little kitty</i>	<i>things.</i>
<i>her fur is white</i>	<i>a long time ago</i>
<i>two black eyes</i>	<i>the little mousie</i>
<i>four soft paws</i>	<i>soft as silk</i>
<i>pretty, black eyes</i>	<i>what funny things</i>
<i>one time</i>	<i>a long while ago</i>
<i>the bear was small</i>	<i>good care of him</i>

3. 第五十一課に「were」という過去の働詞がありました。此働詞は was (過去)の複数である。

boy was (is)	dog was (is)	paw was (is)
boys were (are)	dogs were (are)	paws were (are)
he was (is)	she was (is)	it was (is)
they were (are)	they were (are)	they were (are)
I was (is)	* You were (are)	
we were (are)	you were (are)	

was と were の用法は此の如くであります。名詞なり代名詞なりが複数だと were を用ゐるのです。現在の働詞でいふと is は單數に、are は複數に使うのです。これをよく記憶してお置きなさい。但し you は單數でも複數でも、are と were を用ゐるのです。どういふ理 you (由) かしらないが、それが古來の習慣です。言語は習慣に由りて極まるのだから、理由のわからんとはいくらもあります。

第五十四課 Lesson 54.

綴字練習 Spelling Exercise.

これからは前のとは少し違がつた綴字の練習をしましよ
う。

rn (-x) mp (ムフ)

lp (ルフ) arp (アーフ)

torn ト-ン	burn バーン	turn ターン	help ヘルプ	gulp ガルプ
lamp ラムプ	stamp スタンプ	pomp ポムプ	hemp ヘムプ	jump ジャンプ
sharp シアーフ	harp ハーブ			

sp (スプ)	gs (グズ)	ft (フト)		
ps (プス)	ct (クト)			
gasp ガस्प	clasp クラスプ	lisp リスプ	chops チチプス	tongs トンクス
dregs ドレグズ	act アクト	tract トラクト	shaft シアフト	left レフト
soft ソフト				
lt (ルト)	nt (ント)	rt (ート)		
felt フェルト	cant カント	plant プラント	bent ベント	stint スティント
art アート	part パート	sort ソート	hurt ハート	short シチャート
	pt (プト)	st (スト)		
apt アプト	kept ケプト	last ラスト	fast ファスト	best ベスト
nest ネスト	lost ロスト	first ファースト	just ジャスト	must マスト
trust トラスト	thirst スパースト			
c (ク)	ck (ク)	k (ク)		
cubic キュービック	public パブリック	back バック	black ブラック	sick シック

duck ダク	look ルク	ink インク	bank バンク	ask アスク
desk デスク	fork フォーク	lark ラーク	silk シルク	